

2018年度 日本学生オリエンテーリング選手権大会 ミドル・ディスタンス、リレー競技部門 報告書



期 日 2019年(平成31年) 3月14日(木)～ 17日(日)

- ・ 3月14日(木) モデルイベント
- ・ 3月15日(金) モデルイベント、開会式
- ・ 3月16日(土) ミドル・ディスタンス競技部門
- ・ 3月17日(日) リレー競技部門、閉会式

開催地 岐阜県恵那市中野方町

競技会場 中野方グラウンド

主 催 日本学生オリエンテーリング連盟

主 管 2018年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門実行委員会

後 援 恵那市、恵那市教育委員会、中野方地域協議会、
公益社団法人日本オリエンテーリング協会、
岐阜県オリエンテーリング協会

協 賛 株式会社日本旅行、株式会社フォルテ、株式会社ニチレイ、
有限会社ヤマカワオーエンタープライズ、
八ヶ岳レジャーセンター大泉



目次

ご挨拶

Page 3 - 4

1

入賞者コメント

Page 5 - 17

- 1.1 ミドル・ディスタンス競技部門 男子選手権 ----- 5
- 1.2 ミドル・ディスタンス競技部門 女子選手権 ----- 7
- 1.3 リレー競技部門 男子選手権 ----- 10
- 1.4 リレー競技部門 女子選手権 ----- 14

2

ミドル・ディスタンス競技部門 コース解説

Page 18-24

コース設定者 戸上直哉

- 2.1 コース設定にあたり ----- 18
- 2.2 男子選手権コース解説 ----- 18
- 2.3 女子選手権コース解説 ----- 22
- 2.4 おわりに ----- 24

3

リレー競技部門 コース解説

Page 25-29

コース設定者 大竹達也

- 3.1 コースコンセプト ----- 25
- 3.2 コース解説 ----- 25
- 3.3 総括 ----- 29
- 3.4 おわりに ----- 29

4

大会運営報告

Page 30-48

- 4.1 大会企画の経緯 ----- 30
- 4.2 活動報告（運営） ----- 30
- 4.3 活動報告（競技） ----- 40
- 4.4 会計について ----- 46

5

イベント・アドバイザー報告

Page 49-52

イベント・アドバイザー 松澤俊行

- 5.1 はじめに ----- 49
- 5.2 評価と提言 ----- 49
- 5.3 イベント・アドバイザー活動記録 ----- 51
- 5.4 おわりに ----- 52

6

将来への提言

Page 53 - 56

実行委員長 築地孝和

- 6.1 はじめに ----- 53
- 6.2 リレー競技（女子選手権）3区間同距離について ----- 53
- 6.3 選手権リレーの特別措置について ----- 53
- 6.4 リレー競技部門一般の部 個人競技へのエントリー変更について ----- 53
- 6.5 GPSトラッキングシステム導入について ----- 54
- 6.6 スタート抽選について ----- 55
- 6.7 地図販売について ----- 55
- 6.8 宿泊輸送について ----- 55
- 6.9 おわりに ----- 56

7

ミドル競技部門 スタートリスト

Page 57

8

公式成績

Page 58 - 82

- 8.1 ミドル・ディスタンス競技部門 ----- 58
- 8.2 リレー競技部門 ----- 66

9

大会役員

Page 83

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟会長
河合 利幸



一時は雪が舞い、どうなることかと心配しましたが、結局大きな崩れもなく、2日間の競技が無事終了したことを嬉しく思います。

入賞した選手及び大学の皆さん、おめでとうございます。毎回のことながら、特に選手権リレーは見応えがありました。女子は筑波大が2位に大差をつけた一方、男子は秒差で東京大が連覇。かつて常勝を誇った筑波大女子は、2002年度大会以来16年ぶりの優勝でした。東京大はこの10年で優勝8回と他を寄せ付けぬ勝負強さ。男子では、2位を挟んで3連覇を2回達成した東京大以外に3連覇した大学はありません。女子の3連覇以上は、男女を通じて唯一4連覇を記録した日本女子大と、3連覇3回の筑波大のみ。リレーで勝ち続けるのがいかに難しいかということでしょう。それ以前に、上位争いに絡むこともなかなか難しい。大学から競技を始める人の多いオリエンテーリングでは、新人の勧誘と定着及び育成が肝であり、これが継続的にうまくできている大学はやはり強い。この報告書が皆さんの手に渡る頃には、新歓も一段落していることでしょう。多くの有望な新人が我々の世界に足を踏み入れてくれることを期待します。

今年は、日本学連が結成されて35周年、UNIVASにも加盟し、アジアジュニアユース選手権が日本で開催されるなど、トピックに事欠きません。これらの機会をうまくとらえ、大学クラブと学連の活動を強化していければと思います。学連なくしてインカレなし、インカレなくして学連なしです。競技を楽しんだり打ち込んだりするためには、そのための環境が必要です。それらは待っていれば誰かが与えてくれるものではありません。自分たちで築き上げ、守るものだということを忘れないようにしていただきたいと思います。

最後になりましたが、多忙な日々の合間を縫って準備を進めていただいた実行委員会とその関係者の皆さん、ご苦勞様でした。地元関係者の皆様には、様々な面で多大なるご支援ご協力をいただき、本当にありがとうございました。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長
遠藤 匠真



平成最後のインカレが幕を閉じて2か月が経ち、早くも新時代を迎えました。大学クラブは相変わらず新歓に精を出しているでしょうし、そのうち次のインカレのセレクションも始まるでしょう。望郷の森での熱い戦いもこうして思い出になっていくのだと思うとそこはかとなく寂しさも感じます。

私にとって今回のインカレはある意味インカレらしくないインカレでした。実行委員会のメンバーは現役時代からよく見知った先輩ばかりで、身内の大会のような安心感があったからです。実際大学院生のOBという立場になってみて感じるのですが、研究活動や学業、就職活動にコーチ業務にアルバイトまでこなそうとすると案外手一杯です。まして社会人ならその多忙さは言わずもがなでしょう。この状況でインカレに熱量を注ぎ、支えてくださる方が集まること、それが40年も続いてきたことは本当に尊いリレーであると心から思います。

一方、これは何かにつけて思うことですが、現役生にとってインカレが本気をぶつける場所でなければ意欲あるOB/OGさんと言えども力を注ぐ動機がありません。インカレの未来は現役生の熱量にもかかっているのです。本気で戦う場所を守るために本気で戦うというのは堂々巡りのようでもあります。現役生の皆さんに忘れてほしくないことの一つです。インカレというのは当たり前ではなく、40年前から連綿と守り継がれてきたものなのです。

そしてインカレを大切に思っている人は、ぜひ後輩にその思いを繋いでいってください。インカレの良さを語るもよし、インカレを楽しむ姿を見せつけるもよし、現役生の中で熱量のリレーを繋いでほしいと思います。

末筆ながら今大会の開催に際しご尽力、ご協力を賜りました関係者の皆様にお礼申し上げます。特に実行委員長の築地さんとは2年前の関西スプリントセレ競技不成立以来の因縁がありましたが、今回無事に競技を成立させていただき本当に感謝しております。ありがとうございました。

2018年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門
実行委員長 築地 孝和



インカレミドルリレーが無事終わり、達成感を覚えたあの日から早3か月が経とうとしております。

ミドル選手権では、伊藤樹選手と増澤すず選手の圧倒的な強さが印象的でした。リレー選手権では、男子選手権の種市雅也選手と桃井陽佑選手のデッドヒートが繰り広げられていたことがとても印象的で、会場でひと際盛り上げた瞬間の一つだったでしょう。この他にも各選手それぞれのドラマがあったのではないかと思います。数々のドラマは多くの選手のインカレに懸ける思いが創り上げるものだとは私は考えております。インカレミドルリレーに1年間努力してきた選手には労いの言葉をかけたいです。本当にお疲れ様でした。

選手だけでなく、運営していた我々にも同様に、数々の出来事がありました。良いことも悪いこともたくさんありましたが、最も喜ばしいこととして、間違いなくあげられるのは、大会開催における最大の目的の一つである“無事に競技を成立させることができた”ということでしょう。

さて、今回はGPSトラッキングシステム導入やスタートリスト公開生放送など、新しいことに取り組みました。時代は移り替わり、既存のものより便利なものが生まれてくる中で、より大会を盛り上げるためにはどうすればよいのか、より快適に便利に大会を運営するためにはどうすればよいのか、という2点について、考えられた運営ができたのではないかと思います。それでもデメリットをデメリットのまま解消できなかったり、メリットを活かしきれなかったりと課題はありましたが、今後何十年と続くであろうインカレが参加者にとっても、運営者にとってもハッピーな、そして何よりアツくなれるような大会であり続けるためにも、変化・改善が求められるのではと考えております。柔軟に、そしてこれからも模範的な良大会として、インカレが続いていくことを切に願っております。

末筆ながら、すばらしい環境で大きな問題もなく大会が開催されたのは、地元の方々のご力があってこそです。恵那市中野方町の皆様に、実行委員会を代表して御礼申し上げます。以上、実行委員長の挨拶といたします。

1 入賞者コメント

1.1 ミドル・ディスタンス競技部門 男子選手権

優勝 伊藤 樹（横浜国立大学4年）



インカレで優勝することを目標に四年間オリエンテーリングに取り組んできました。

僕自身、インカレが競技における原動力であり、そうである学生も多いと思います。なので、インカレが終わり現役を引退すると、目指す目標を失い、競技から退いてしまう人も多いとおもいます。

そのような人は、どんなメジャースポーツにも一定数いるわけで、仕方のないことだと思います。しかし、競技を引退しても、学生生活で築き上げたオリエンテーリングの思い出を忘れずにいてほしいです。オリエンテーリングが、みなさんの生活を充実させるスポーツとして存在していたならばとても嬉しいです。

僕は今、目標があります。それは「オリエンテーリングを有名にすること」です。僕ができることは、オリエンテーリングを競技的に盛り上げていくことだと思います。そのために、僕はこれからも走り続けます。

最後に、みなさんと最高のインカレを作り上げることができてよかったです。本当にありがとうございました。

準優勝 稲森 剛（横浜国立大学4年）

今年もまた樹、上島と3人で表彰台を埋めることができとても嬉しく思います。最後のインカレは勝って終わりが良かったのですが、樹には完敗でした。本当にすごいなと思うと同時に、4年間一緒にやってこれたことに感謝しています。

現役として最後のインカレが望郷の森に決まった時、物凄く嬉しく思いました。初めて地図を見た時からずっと走りたいと憧れていた望郷の森。そんなトレインで最後のインカレを走れることに感激しました。憧れのトレインでの最後のインカレで、4年間のベストレースをすることを目標に臨みました。この特別難しいトレインで結果を残すために、自分が得意としている直進と歩測を徹底的に使ってレースをすることに決めました。インカレ直前に参加した合宿や練習会、普段のランニングではコンパスを身体の正面に真っ直ぐ構えて走ること、歩測を常に続けることを意識して練習しました。インカレ直前のレースはミスりまくりのボロボロレースでしたが、思い描いていたように直進と歩測が使えたレッグは上手く走っていました。最後の1週間は、そのイメージを深めることに集中しました。

インカレ本番では、最大の勝負レッグだったロングレッグも含めてほとんどのレッグを直進と歩測でこなして、リズムの良いレースをすることができました。ラストコントロールを取って会場に入っていく時、応援の声が聞こえました。ゴールからEカード読み取りへのレーンの横にKOLCの人が沢山いました。今まで本当にありがとう。

最後のインカレが終わって思う事は、インカレを目標にしてKOLCで頑張ってきたこの4年間、やってきてよかったなということです。後輩達には、インカレに全力で挑んでほしいと思います。また、そのためにOBとして手伝えることがあればやっていきたいと思います。

最後に、応援してくださった皆様、一緒にやってきたKOLCのみんな、支えてくださった方々、

ライバルとして競い合ってきた仲間達、皆様4年間本当にありがとうございました。これからも共にオリエンテーリングを楽しみたいです。

3位 上島 浩平（慶応義塾大学4年）

失うものは何もない。過去の勝利を絶対の自信へと変え、実力どおりの走りができれば勝てる。理想のオリエンテーリングを求め、最高の力が引き出せた時、自分が世界選手権で感じたトップエリートたちに対して抱いたあのあこがれを皆に伝えることができるかもしれない。そう思いながら走った最後のインカレミドルは3位でした。図らずとも去年の1位2位3位が3位2位1位となる形で、悔しさ半分、嬉しさ半分といったところです。圧倒的な走りを皆の目に焼き付けるという目標は叶えられなかったのですが、それでもインカレが終わり少したった今、この状況を振り返れば満足行く形で終われたなと感じています。それは、自分がインカレを通じて気付かされた応援してくれる方々の存在のありがたさを噛み締めながら走れたこと、その人達の期待に報える働きが少しはできたこと、そしてインカレが終わってからもその人達に対する思いを素直に振り返ることができるからです。どれだけ力があっても、どれほどの熱意をもって臨んでも、報われない時もあるし、そのせいで自分をとりまく環境を直視できない時もあると感じます。そういった意味で、純粹にオリエンテーリングを楽しみ、競い合えたのは本当に幸せなことです。自分を支えてくれた同期、先輩、後輩、応援してくださったOB・OGの方、見守ってくれた家族に感謝するとともに、この素晴らしい舞台を用意してくださった実行委員会の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

4位 竹内 公一（名古屋大学4年）

現役最後のインカレミドルで4位入賞を果たすことができ大変嬉しく思います。これまでいくつものインカレを走ってきましたが、自分が満足できるような走りをするのがなかなかできず、何度も入賞を逃していました。4年生になり頼れる先輩が抜けた時、次は自分が頼られる存在として部を引っ張っていこうと決意しました。それ以降、院試勉強や卒論など学業が忙しくなってもトレーニングを怠らず、たとえ怪我をして走れない日も続いても筋トレやバイク、スイムをしたりと自分を律して頑張ってきました。自分なりに今までで一番努力しているつもりでしたが、インカレロングやミドルセレでは思うようなレースをすることができず、心が折れかける時もありました。しかしそんな時、自分の結果を待ち臨んで応援してくれている人が何人もいることを知りました。今までは自分の結果のためにレースに臨んでいましたが、いつしか応援してくれる人のために結果で恩返ししたいと思うようになっていました。インカレ前、レース前もたくさんの方が応援メッセージをくれたり、待機場ではオフィシャルの方がサポートしてくれたり、レース直前にはその思いは今までにないくらい大きくなっていました。レース中ミスをしてしまう場面や、体力的にしんどい場面などありましたが、応援してくれている人のことを考えたり、今までやってきたトレーニングのキツさを思い出して走っていたら気づいたらラストコントロールにいました。それ以降は歓声が痛いほど伝わってきて、背中を押されるような感覚になり、しんどさは一気に吹き飛び全力で駆けることができました。僕がこのような結果を残せたのは、素晴らしい舞台を用意してくださったインカレ実行委員会の皆様、一緒にトレーニングをしてきた名楨生、目標でありライバルでもあった全国の同期、サポートしてくれたコーチの方々、そして応援してくれた全ての方々のおかげです。本当にありがとうございました。

5位 森河 俊成（京都大学3年）

入賞という結果は当日のうちはまったく実感がわきませんでした。狙っていなかったわけではないが客観的に入賞すると思っていたことが、また翌日に強く意識していた団体戦もあり、精神的に受け入れようとしていなかったのかもしれませんが。ミドル当日何度かうけたインタビューでは

まったく納得のいかない答えばかりしてしまったような印象があります。

今回のインカレは競技面でも競技以外の面でも準備に準備を重ねて望んだ自分にとっては非常に長い行程でした。終わって一段落ついて結果を見返すとミドル入賞できたことたいへん嬉しく思います。難しいテレインで、半分は運でこれは実力以上の結果だと思っていますがそれでも嬉しいし何より準備してきて本当によかったと感じました。

2回生でオリエンテーリングに出会ったので人より1年早く私のインカレはこれで終わりです。これまで3年間、毎回のインカレで最高に盛り上がり最高の準備をして望みたいと思えるような舞台を用意してくださった運営の人たち、準備して望みたいと思わせてくれた競いがいのある全国同期たちに感謝したいと思います。ありがとうございました。

6位 種市 雅也（東京大学3年）

素晴らしい舞台を整えて下さった運営者の皆様ありがとうございました。たくさんの応援をくれたOLKの皆さん、切磋琢磨し続けてきたライバル達に感謝しています。

思い描いた結果には届かなかったけれど、とても充実した後悔のない3日間でした。今回のインカレミドルは、1年生の頃からの目標であり最大のライバルであった伊藤樹選手との最後の個人対決だったので非常に楽しみにしていました。レース内容としては、新規テレインに対応できず前半スピードに乗れない中で中盤に大きくミスをしてしまいました。絶対に最後まで諦めないことが僕の信条なので、ミスをしてからも一生懸命挽回しました。結果的には1秒差で6位入賞することができたので良かったです。6回目のインカレが終わって残すは2回になりました。1年生の時に見た4年生の走りはとにかくカッコよかった。その走りを見て努力や想いが伝わってきた。残りの2回、自分なりに一生懸命努力して今までの自分、先輩方、ライバル達を越える走りを目指します。現役学生生活最後の1ページを笑顔で終わられるように、毎日の1歩1歩を大切に頑張ります。

1.2 ミドルディスタンス競技部門 女子選手権

優勝 増澤 すず（筑波大学3年）



この結果には自分がいちばん驚いています。大好きなロング・スプリントシーズンが終わり、ミドルセレは7位通過。その後は1月末の筑波大大会の準備に追われ、トレーニングは全くできず、モチベーションは下がっていく一方でした。そんな状態の私にとことん向き合ってくれたコーチの方にはとても感謝しています。インカレ1か月前に、今まで書いたアナリシスを分析して課題を洗い出し、解決策を検討し、今後に向けて計画を立てました。自己分析をすることによって、残り1か月で何をすべきかが明確になり、短期間で集中してインカレに照準を合わせて対策やトレーニングを行なうことができました。

今回のレース内容は満足 of いくものではなく、前半を無難にこなせたことで、中盤に1箇所の大ミスをしたものの逃げ切った、という形です。改善点はたくさんあり、まだまだ速くなれる可能性しか感じません。来年度はスプリントも含めた4冠を目標に取り組んでいきます。

このような素晴らしい舞台を用意してくださった運営者の皆さま並びに応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

準優勝 高橋 友理奈（東北大学4年）

目標であったミドル優勝には届きませんでしたが、望郷の森を意識した技術練習や地図読みなど準備してきた成果をインカレ本番でしっかり出すことができ、個人種目自己最高の準優勝という結果も残すことができ嬉しい気持ちが大きいです。

オリエンテーリングのセンスのかけらもなかった私が4年間オリエンテーリングをしてきて自信を持って言えることは、「誰よりも多く山に入ったこと」です。努力を継続することが得意ではない私ですが、いつも頑張る仲間からたくさんの刺激を受けて、切磋琢磨して、上手くいかないことがあってもう頑張りがたくないと沈んだ時期もありましたが、なんとか最後までやり遂げることができたと思います。私の4年間でざっくりまとめると、たくさん山でつぼって泣いてばかりだった1年生、大会で時々上位に入るようになっていったことが嬉しかった2年生、怪我でスプリントセクションと北東インカレに出られなくて、それを境に思うような結果が残せなくなって1番苦しかった3年生、結果に対する周りからの目を気にしてしまって結果を残せない時がつかった4年生、とつらいこともまあありました、4年間上達し続けることを諦めずにオリエンテーリングを続けて、こうして最後のインカレで納得いく形で終わることができて本当に良かったです。競技を頑張ったこの4年間に1つも後悔はありません。オリエンテーリングに出会えて、競技に打ち込んで、素晴らしい仲間に出会えて、私にとって最高で大切な4年間でした。オリエンテーリングというスポーツは決して一人ではできませんし、今まで関わってくださった皆さんの頑張りがあって今の自分があります。大変恵まれた環境で4年間オリエンテーリングに打ち込むことができました。本当に4年間ありがとうございました。

3位 佐野 萌子（京都女子大学4年）

今回のインカレは4年である私にとって最後のインカレでした。4年間の締めくくりとなるレースで、3位入賞という結果を残せてとても嬉しいです。

レースに臨むに当たって、私はプレッシャーに弱いので、最後というのを意識しないように心がけました。いつも通りでいること、目の前の1レグに集中して淡々とこなすことを目標に取り組みました。その結果、良い緊張感の中レースを走ることができました。レースの内容としては去年と同様、細かいミスがありベストレースではありませんが、なんとか本番に調子を合わせてレースをまとめられたところは良かったです。

3位入賞が決まった時には、周りにいた人たちが一緒になって喜んでくれました。仲間が一緒だと、いつもよりずっと嬉しく感じられました。また、仲間に恵まれた環境で4年間オリエンテーリングやトレーニングを続けてこれたのだと感じました。オフィシャルの方々や京大京女のみなさん、応援やサポートありがとうございました。

そして最後になりましたが、このような素晴らしい舞台を作ってくくださった大会運営者の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

4位 木村 るび子（立教大学4年）

4年間憧れ続けたインカレ選手権の表彰台。最後の最後に個人で立つことができ本当に嬉しいです。これまで支えてくださった多くの方々には感謝してもしきれません。

レース中はとにかく淡々とこなすことだけを考えて走りました。途中で誰かに遭遇しても動揺せず自分のオリエンを続けることは4年間ずっと課題でした。これまでずっと練習してきたことを最後の個人戦で活かせたことが今回の結果につながったと感じています。

この4年間、諦めたくなることもみじめになることも何度もありました。全国同期の強さや後輩たちの成長に焦りを感じてばかりでしたが、それでも諦めずに最後のインカレまで向き合い続ける

ことができたのはOLKの存在が大きいです。そして何より立教大学としてリレー優勝を目指す上でチームの重荷になりたくないという思いや、これまでお世話になってきたOBOGさんたちに個人の結果で感謝を示したいという思いが何度も私の気持ちを奮い立たせてくれました。

4年間は長いようで本当にあっという間です。後輩たちにはぜひ人生で8回しかないインカレを大切に、全力で挑んでほしいです。これからも一人でも多くのOLK女子が活躍することを祈っています。

最後になりますがインカレを運営してくださった皆様、ずっと支えてくれたOLKの皆さん、オフィシャルさん、OBOGさんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

5位 山岸 夏希（筑波大学4年）

長い長いインカレ生活でした。1年からに出続け選手権クラスに出場させてもらい、そして全然上手いかず、優勝にだけ届かず、今振り返ると苦しい思い出が多く蘇ります。右も左もわからず、純粋に勝利を目指し、黄金差代の（いや、私は自分の代が黄金世代だと思っているけども）当時の4年生女子に食らい続けた1年次。1年生の時のインカレ個人戦は当時の4年生にしか負けなかったから、エスカレーター式に当然これから優勝し続けると思っていた2年次。佳恵も森谷も速くてびっくりした。すべてが崩れ、自信を失いオリエンテーリングを2か月くらい辞めてみた3年次。なんかもうやっと吹っ切れ始めた4年次。周りとか、期待とか、結果とかではなく、自分とオリエンテーリング、もっと言えば自分と次のレッグだけ、を意識するようになりました。望郷の森は難易度も高く、ワクワクするテレイン。最後の舞台にぴったりでした。よく、レースを「楽しもう」という選手に非難の声を浴びせる風潮があります。私も、目標なく走り、楽しかった、で終わらせるのは非常にもったいないことだと思います。ですが、苦しんで、苦しんで、どうやっても目標に届かず、周りに何を言われてもその競技をやめることをしなかった選手たちが、最後の最後に「楽しいレースでした」という姿は称えたい、と思います。むしろそのオリエンテーリング馬鹿精神に美しさを感じ、そんな光景を作り上げるインカレは特別な舞台なのだと改めて感じるそんなエモい3月17日でした。苦しんだ先に見えるもの、向き合えるものもあると思います。迷ったら、絶対続ける、オリエンテーリング（字余り）。望郷インカレ、私は超楽しかったです、ありがとうございました。

6位 勝山 佳恵（茨城大学4年）

インカレに向けて、苦手意識のあった片斜テレインに特化した対策を行ったり、初めて減量に挑戦したりしました。4年間で一番準備してきました。でも、優勝にはとどきませんでした。レース後は悔しさと悲しさで何も考えることが出来ませんでした。時間が経った今振り返ると、様々なしがらみにのまれていました。学年が上がるにつれ、しがらみは多くなっていきます。以前みたいにただ純粋に楽しんで挑戦することが出来なくなっていました。何より、自分に負けたことがとても悔しいです。でも、最高のインカレであったことは間違いありません。

最後に、4年間応援して下さった全ての方に感謝いたします。そして同期をはじめ、素敵な仲間に出会えて本当によかったです。

優勝 東京大学



<1走 佐藤 遼平>

暗い森を抜けると、突然顔に痛みが走り、それは季節外れの雪でした。その痛みのわけに気がつくよりも先に目に入ってきたのは悪天候の中でも必死に応援してくれる仲間たちでした。もはや罵声にも聞こえるそれは、もう力も入らなくなり、またレース中の小さな怪我に苦しんでいた自分の脚を、全力で進めさせるには十分すぎるぐらいでした。その数秒がなかったら優勝していなかったかもしれないと思うと、感謝の気持ち以外はありません。

レースはこれまでにないほど爽快なものでした。完璧なレースではまったくないのに、先陣を切って誰もいない綺麗な林を疾走し、また一瞬の気の緩みも許されない選手権の舞台にふさわしい林を駆け抜けることは、とても素晴らしいものでした。

選手権リレーを先頭で走るのはとても特別なことです。この4年間で捧げるに足るものでした。ぜひ後輩たちがこれを読んでこの舞台を志すことを願います。

最後に、この4年間自分の成長を支えてくださった東大OLKの皆さま、および最後にふさわしい舞台を用意してくださった運営の皆さまに感謝を伝えたいと思います。ありがとうございました。本当に最高の気分でした。

<2走 殿垣 佳治>

東大を代表して選手権リレーを走り、優勝できたことを心から嬉しく思っています。極度の集中と緊張の中で走り抜けた望郷の森を今でも鮮明に覚えています。

選手権リレーを走ることは以前からの夢だったのですが、走力で大きく劣る自分が代表になることへの不安は大きく、プレッシャーに悩まされることも多くありました。そんなときでも、選んでくれた仲間を信じ、必ず優勝してみせるという強い意志だけは常に持ち続けて準備してきました。

当日のレースは、1走佐藤の好走によりトップでの出走となりました。レース展開・コース難易度はともに想定していた通りであり、他大学の選手を気にせず普段のナビゲーションを途切れさせないことを意識しました。後半の勝負レッグで他パターンのコントロールを全て見るような大ミス

をしてしまいました。気持ちを切り替えて最後の1歩まで全力で走りきりました。最終的には3走種市が数秒差で逃げ切る形での優勝であり、最後まで追い込めて本当によかったです。優勝が決まったときや胸上げされたときの感動は言葉では言い表せません。

4年間の最後を笑顔で締めくくることができたのは、互いにライバル意識を持って切磋琢磨してきた仲間、その仲間からの熱い応援、先輩方の手厚いサポート、そして素晴らしい走りをしてくれた佐藤と種市のおかげです。本当にありがとうございました。

さて、次なる戦いの舞台はすぐにやってきます。今度から私は応援する立場になります。後輩たちの活躍を期待しています。

<3走 種市雅也>

素晴らしい舞台を整えて下さった運営者の皆様ありがとうございました。最後の最後まで声を枯らして応援し続けてくれたOLKの皆さん、そして優勝を目指し思いを一つに必死に走ったチームメイトに感謝しています。

1走の佐藤がトップで帰ってきて、2走の殿垣さんがミスりつつもトップを守って帰ってきて僕が出走しました。自信を持って走る、追いつかれてからが本当の勝負だと思っていました。前半は上手くこなせていましたが、中盤の1レグで現口スして大きくミスってしまいました。終盤に慶應の桃井が前に見えた時は、不安感と同時に自分が頑張るしかないという使命感を強く感じました。前を走った4年生二人から託された走り、想いをなんとしてでも最高の結果で届けたい。1年生のリレーの時は何もできなかったけれど、今回は自分の走りで結果を変えたいと思いました。ビジュアルの2つ前のコントロールから、桃井との並走が始まりました。ビジュアルを通過した後の直進が勝負だと感じ、直進に全てを託す思いで進みました。コントロールに吸い込まれるように綺麗にアタックでき、前に出ました。ここから先はひたすら全力で走りました。最後まで持ちこたえてくれと思いながら必死に登りました。応援が凄くて最後まで頑張れました。ゴールした時は順位が分からなかったけれど、みんなの表情から伝わってきました。3人が紡ぎだした1秒1秒が最後の逆転に繋がったと思うと感慨深いです。最後まで諦めない、自分の信条を貫いた最高のレースでした。

去年・今年の優勝で満足せず、来年に向けてまた頑張っていこうと思います。僕にはインカレリレーにおける夢が2つあります。1つは、同期と走って優勝すること。もう1つは1年生の頃に達成できなかった目標を達成することです。慢心せず、自信を持って来年のレースに向けて備えていこうと思います。来年も勝ちます。

準優勝 慶應義塾大学

<2走 上島 浩平>

慶應史上最高位タイとなるリレー3位を獲得し、皆と喜び会えたインカレリレー2017。あの時の幸せな時間を今度は1年かけて追い求められれば、そしてその過程と結果を皆で共有することができればどれほど楽しいかという思いで優勝を目標に取り組んで来ました。去年、個人戦での勝利よりリレーで体験する感情は何倍も勝ると感じた私は主将として引っ張っていく役割を担わせて頂きました。4月になってすぐ、インカレリレーでの優勝を大目標とし、そのために各々の目標を定めそれを周りが知ることによって慶應全体で切磋琢磨できる環境を作ると皆で決めました。折あるごとに部会を開き、具体的な方針を定めていきました。インカレが終わった今、それぞれの時期を振り返ってみて分かることは2つあります。それは、リレー優勝という目標を常に持ち続けて取り組んでこられたということと、私だけでなく慶應のみんなが集まってくれて話し合え、自分から働きかけてくれたということです。皆のおかげで1年間崩れることなく各々が自分の目標を目指し、全体的に仲間として、また競技的にいい雰囲気を持っていくことができたのではないかなと思います。なので、あと少しで勝てなかった時は1年間の皆の行いが報われなかったことに対して本当に悔しさを感じました。

リレーにおける選手権とは、それを走る3人だけの問題ではないと確信しています。共にオリエ

ンをしてきた人の代表として走るということは、その人達と一緒にやってきた事、過ごしてきた時間すべてに対して責任を持つということで、だからこそそれだけの思いを持って為したことへの結果に対して、同じように悔しがったり喜びあったりできるのではないのでしょうか。自分が1年間探し求めた「思いの共有」とはこういうことだったのではないかなと思います。

今までのインカレの積み重ねがあり、KOLCという恵まれた環境があり、先輩方の支えがあり、そして共に走った清水・桃井と慶應の仲間たちのおかげがあって今がある、ということに感謝しています。ありがとうございました。

3位 横浜国立大学

<1走 森元 駿介>

今年度の選手権リレー、横浜国立大学は優勝を目指して走りました。優勝に向けて、1走の僕は「1位+3分以内でのチェンジオーバー」を目標にしていました。しかし、序盤で8分の大ミス。日々の弛まぬ努力で1秒を削り出す仲間とタイムを共有するこの競技において、失った1秒1秒はあまりにも重すぎて心が折れそうになりました。ただ、僕の後ろの2走3走には「繋げば何とかしてくれる」学生最強の2人が控えていたので、最後まで集中を切らすことなく全力で走りきることができました。結果、16位で繋いだ樺は、2走稲森3走樹の快走によって3位に上がり、表彰台の上3人笑顔で横国の旗を掲げることができました。稲森と樹の間違ひなく優勝に値する努力と実力を4年間そばで見ただけに、自分のミスが原因で最後に優勝を逃してしまったことは心残りですが、笑顔で終わることができたことを非常に嬉しく思います。

最後になりますが、一緒に走ってくれた稲森と樹、応援してくれたKOLCのみんな、支えてくださったOBOGの皆様、そして、このような素晴らしい舞台を用意してくださった運営者の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

4位 東北大学

<3走 北見 匠>

3走を走った北見です。この1年、東北大は昨年の男女準優勝という悔しい結果を受け雪辱を果たそうと選手権メンバーを中心に取り組んできました。週1でミーティングや望郷の森縛りの1レグ地図読みなど色々対策を行いましたが、4位と今年も目標の優勝には届かず悔しいインカレになってしまいました。

今年の東北大は絶対的なエースがおらず、皆の実力に波があって誰になってもおかしくないという状況で嶋崎-北見-佐藤がセクションレースに勝ち、選手権リレーを走ることになりました。嶋崎は2年生で重要な1走を任せられ、プレッシャーがあったと思います。しかし、大ミスをしてしまっても粘りの走りをしてまだ上を狙える順位で帰ってきてくれました。誠也さんは昨年を彷彿させる走りで一気に3位まで順位を上げてきました。現役最後の走りは圧巻で東北大の皆の記憶に残る追い上げでした。そして、東大と4分差で3走の自分がスタートしました。序盤は悪くないレースをしましたが、中盤の長めなレグで4分ミスをしてしまいました。前に見えた東大が種市だと気づかなかったりミスの後落ち着けず焦ってしまったりして、自分の無力さと未熟さを痛感しました。

今年も強く残ったのは悔しさでした。この悔しさをバネにかえて来年こそ絶対勝ちます。最後に、応援して下さった部の皆、OB・OGなどの皆さんありがとうございました。

5位 名古屋大学

<3走 竹内 公一>

昨年度1年間、名古屋大学は選手権リレー入賞を目標に取り組んできました。そのため5位入賞という結果は大変嬉しく、光栄に思います。1走の前野は12月くらいにランニングすらできないほどの怪我をして彼としてもクラブとしてもかなり厳しい状況でした。しかし、怪我は予想よりも早く良い方向へ向かい、ベストコンディションではなかったかもしれませんが1走を走ることになりました。しかし、怪我だったことを忘れるくらいの好走を見せ、1走内4位という好位置で次走者に繋げてくれました。2走は3年生の岩垣。選手権リレー初出場ということや、4位チェンジオーバーなどでかなりプレッシャーを感じていたと思います。序盤で少し出遅れる場面もありましたが、その後はいつも通りの安定感を見せ、最後まで全力で走ってくれました。結果としては9位チェンジオーバーでした。ここまで来たら失うものはないと思いスタートしました。自分より前の選手を捉えてもあまり意識せず、1レッグをこなすことだけに集中していました。自分の順位が分からず不安を抱えながら迎えたスペクテーターズレーンで自分が5位ということを知りました。その後は4年間の全てを出し切るつもりで、全力で走り抜きました。

1年間選手権リレーに向けて特に頑張ってきたメンバーで走れたこと、目標を達成できたことはとても幸せでした。後輩には今回の選手権リレーを走れなかった人、目指せる実力がある人などまだまだ速い人は残っています。次の選手権リレーでどのような結果を残してくれるか既に楽しみです。心の底から応援しています。

最後になりましたが、このような素晴らしい舞台を用意してくださったインカレ実行委員会の皆様、応援・サポートしてくださったコーチの皆様、一緒に切磋琢磨してきた名倡のみんな、4年間本当にありがとうございました。

6位 京都大学

<2走 伴 広輝>

私たち京都大学は今年一年間優勝を目標に様々な練習・対策を行ってきましたが、6位という残念な結果に終わってしまいました。

個人的には、大ミスによって目標へと至る道を完全に潰してしまったことに対する後悔の気持ちや無力感の方が悔しいという感情よりも大きいです。ですがこの1年間インカレ優勝という目標を持っていたことはとても幸せだったと思います。

今回のインカレを後輩たちがどのように感じたかはわかりませんが、多くがインカレを見据えて努力を継続し、チームメイトとともにオリエンテーリングに取り組んでいってくれる事を願っています。来年は今回の結果を上回る素晴らしい結果を出してくれることを期待しています。私と森河は卒業しますがOBとしてチームのサポートに力を尽くしていきたいと思います。

最後になりましたが、親身にチームを支えてくださったOB・OGの方々、応援してくれた京大京女のみんな、並びに素晴らしいインカレを運営してくださった実行委員会の皆様に感謝を申し上げます。大変ありがとうございました。

優勝 筑波大学



<1走 宮本 和奏>

前回のインカレリレーも今回と同じメンバーで走り、優勝を目指していましたが、特に私が足を引っ張ってしまい入賞することすらできませんでした。今回の目標は同じく優勝しかないとは思っていましたが、昨年のことがあり、どこか不安がぬぐい切れませんでした。前日のミドルで不甲斐ない結果を残したものの、感触としては悪くなく、翌日のレースに良いイメージを持って挑むことができました。レース中は、フェリスのむらみさんと千葉大の森谷さんと並走してかなりしんどかった記憶があります。私個人の結果は良いレースとは言えず無難な結果でしたが、先輩方がいつも通りの良い走りをしてくださったおかげで、優勝することができたのだと思います。すすさんとなっちと走ることができる最後のチャンスだったので、優勝できてとてもうれしかったです。応援し、サポートして下さった皆様に感謝申し上げます。

来年のリレーでは、すすさんに頼りきりになるのではなく少しでもチームの力になれるように鍛えます。

<2走 山岸 夏希>

ミドルのような個人競技とは違って変わり、「楽しかったです！でも全然ダメでした！」ではチームメイトのみならず色々な人に怒られてしまう、団体競技、それがリレーです。さすがにお気楽気分ではなかったです。リレーに苦手意識がなかったこと、また、リレーメンバーの圧倒的競技力！への安心感もあり、レースに対する不安は一切無し。去年の雪辱はもちろんのこと、3年間温め続けた金メダルに向け、静かに燃えていました。レースは自分らしいミスが多少あれど、淡々と会場まで進みました。しかし、普段ならスペクターズ通過時に、みんなが笑顔で叫ぶように応援してくれるのに、今回は「いいねー！」「1位だよー！」などの声が一切聞こえません。急に不安になり、挙句の果てにはラスト前ポストをパンチしたか忘れてしまい、半分パニック状態に。そのままゴールに向かうも、3走の増澤選手が不安そうな表情をみせており、「オワッター っかペナったか順位落としたか立禁入ったかな、こりゃまいったわ」と頭がいっぱいになりました。

しかし原因は忍法中間ラジコン姿くらまし のせいでした。本当によかった。ラジコンが反応しないくらい速く走ってしまい申し訳ないです... 終わりよければすべてよし。ウィニングランが出来て本当に幸せです。最後に、なかなか冴えなかった私のインカレ人生でしたが、どこかで見てくれていた人、そしていつも応援してくれていた人に感謝と恩返し金のメダルになっていれば、私は幸いです。4年間ありがとうございました。これらも応援し続けてください。

<3走 増澤 すず>

最後の坂を登りきり、桐の葉の旗を持つ2人の姿と応援してくれている部員の姿が見えた時の感情は、言葉では言い表せません。

昨年のインカレリレーは、今でも鮮明に覚えています。ふとした瞬間に競技中の様子がフラッシュバックしてきて、リレーを走ることがトラウマになりました。しかし私が2年連続で3走を走ることができたのは、信頼できるメンバーの2人やサポートしてくださったオフィシャル・コーチの方々、会場ですべて応援してくれた部員のみんなのおかげです。初めて選手権リレーを走ったマキノインカレからの目標をやっと達成することができました。優勝することができて本当に嬉しいです。

今回の結果に慢心することなく、また1年間優勝、連覇を目指し頑張っていきます。

準優勝 東北大学

<3走 高橋 友理奈>

私たちは、昨年度千葉大学に6秒差で敗れたことが非常に悔しく、今年こそは絶対にもう一度優勝したいという強い気持ちを持って一年間頑張ってきました。東北大の女子は競技に真剣に取り組む人が多く、選手権リレーに立候補したメンバーでトレーニングやミーティング、毎日の1レグ地図読みなどを一緒に行い、お互いの足りないところを補いながら、切磋琢磨してきました。本番で選手権リレーを走った3人だけでなく、立候補したメンバー全員の頑張りがあったからこそここまで来ることができたと確信しています。私が3走でゴールした時に、一緒に頑張ってきた仲間が泣きながら迎えてくれて、全員で戦っていたのだなと強く感じました。

結果としては準優勝で、目指していた優勝には届かず悔しい思いもありますが、筑波大の3人がいい走りをして強かったことと、東北大としては実力を出し切った結果が準優勝だったと思うので晴れ晴れとした気持ちが大きいです。

最後になりますが、今まで支えてくれた東北大OLCの皆さんとこのような素晴らしい舞台を用意してくださった運営者の皆様に深く感謝申し上げます。

3位 立教大学

<1走 木村 るび子>

1走の木村です。今年のリレーは優勝を目標としていました。3位という結果はとても嬉しかったのですが、個人的にはもう少しチームに貢献することができたのではないかという悔しさも残っています。優勝を目指すにあたって筑波や東北、千葉は私たちにとってすごく大きな壁であり目標でした。

この一年間、著しい成長を見せた後輩たちはときに頼もしく、ときに焦りを感じる存在でした。しかし二人と一年間共に切磋琢磨し合えたことでいつも緊張感を持って練習に励むことができました。結果として昨年度の半分の順位になれたこと、GPSを付けてもらえるようなチームになれたこと、強豪校に意識してもらえるようなチームになれたこと、全てが嬉しかったです。また選手権に出場した3人だけでなく立教チーム全体、そしてOLK女子みんなで高め合ってきたからこそ掴むことのできた結果に誇りを感じています。一緒に走ってくれた世良香取、いつもそばにいて支えてく

れたみどりや後輩たち、そしてオフィシャルさんやOBOGさんには本当に感謝しています。ありがとうございました。

4年間立教大学の一員として選手権リレーに出場させてもらえてとても幸せでした。来年度以降、後輩たちの作り上げる立教チームのさらなる成長と活躍が楽しみです。今後ともぜひ後輩たちの応援をよろしく願いいたします。最後になりますが今年も素晴らしい舞台を準備してくださった運営者の皆様に感謝申し上げます。

4位 千葉大学

<1走 森谷 風香>

これまでのインカレリレーは比較的自分と相性の良いテレインが多く、結果も出ていましたが、今回は地形が読みづらく、就活や卒論を理由に練習していなかったのも結果に出てしまい、上位陣との実力の差を感じました。

しかし、多くの大学がいる中で4位で入賞できたこと、インカレという舞台でエリートとして走れたことを嬉しく思います。ありがとうございました。2走、3走の2人からもコメントをもらいました。

〈2走 稲垣〉

昨年度のインカレリレーでつぼったことが頭の片隅にあり、慎重にレースをしていたことで、上位の大学と差をあけられてしまいました。しかし、これが自分の実力なのかなと感じるレースでもありました。結果として千葉大の同期3人で4位入賞できたことは本当に嬉しかったです。今までありがとうございました。

〈3走 香取〉

大学生として走れる最後の機会ということで臨んだ今回のインカレリレーでしたが、個人的には残念な走りになってしまいました。一緒に走った森谷と稲垣、応援して下さった千葉大の方々には申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、4年間一緒に頑張った2人と最後に走れたという意味では良かったです。お忙しい中運営して下さいった皆様本当にありがとうございました。

5位 茨城大学

<3走 勝山 佳恵>

今までリレーチームを組めることが奇跡だった茨城大学ですが、今回5位に入賞することが出来ました。チームで勝つことを目標に、部全体で頑張ってきた成果だと思います。リレーは、個人競技よりも喜びや感動が何倍にも膨れあがることを4年目にして実感しました。最高の景色を見せてくれた後輩二人に、ありがとうございました。今回の入賞をきっかけに、茨城大学オリエンテERING部がさらに盛り上がっていくことを願っています。自分の事のように親身になって寄り添ってくれたオフィシャル、OBOGをはじめ応援して下さいったの方々、本当にありがとうございました。茨城大学はここからです。

6位 横浜市立大学

<3走 平松 夕衣>

横浜市立大学女子の入賞は5年ぶりになります。5年前に準優勝した当時の4年生3人に憧れ、入賞を目指していた先輩方がなかなか結果を出せていないことに、私はリレーという競技の難しさを感じていました。私自身は3年次に初めて選手権リレーを走り、やはり入賞という壁の高さを感じていました。

そのようなことから、今回入賞できたことは本当に嬉しく思っています。今年度はリレーセレを通った後輩たちが、たくさん合宿や大会に参加してくれ、メニューをたくさんこなす中で、大きく成長してくれました。みんながオリエンテーリングに前向きな気持ちでインカレに臨むことができ、そのことが今回の結果に結びついたと思っています。

横浜市立大学は今年度創部10周年という節目を迎えます。今回の入賞を機に、さらに強い横市を男女ともに築いていってほしいと思っています。

最後に、応援、サポートをしてくださった横浜市立大学、KOLCのOBOGさん、現役の皆さん、ありがとうございました。また、望郷の森という素晴らしい舞台で最高の運営をしてくださった運営者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

2.1 コース設定にあたり

コース設定の原則2.3項に沿った設定を行ったが、そのうち、特に「オリエンテーリング独自の特性」と「競技者の楽しみ」を意識した。

また、傾斜は比較的緩め、植生は概して良好ながらも、道や小径が非常に少なく、点在する岩石地やれき地などにより走行可能性が低下するというトレインの特性を可能な限り生かした。

よって、走りながらナビゲーションするという競技特性から「速度とナビゲーションのバランスの維持」を課題としつつ、その楽しみが味わえるようにコース設定を心がけた。

登高を抑え、速度が上がる環境を作りつつも、線状特徴物を辿るだけの区間を限りなく減らしてナビゲーションを必要とする区間を増やした。特に勝負レッグでは下り基調とする一方で多数の線状特徴物を横断させることにより「速度とナビゲーションのバランスの維持」を求めた。

加えて、ルートの発見や選択する時だけでなく、選択したルートを辿る時もナビゲーションの維持を要求し、飽きずに楽しめる工夫を行った。

2.2 男子選手権コース解説

△→1

最初のレッグから難易度高めで、走行可能性を低下させるれき地や藪、下草の処理がカギとなる。

上島選手(慶應義塾4)がトップラップを決め、順調に発進。

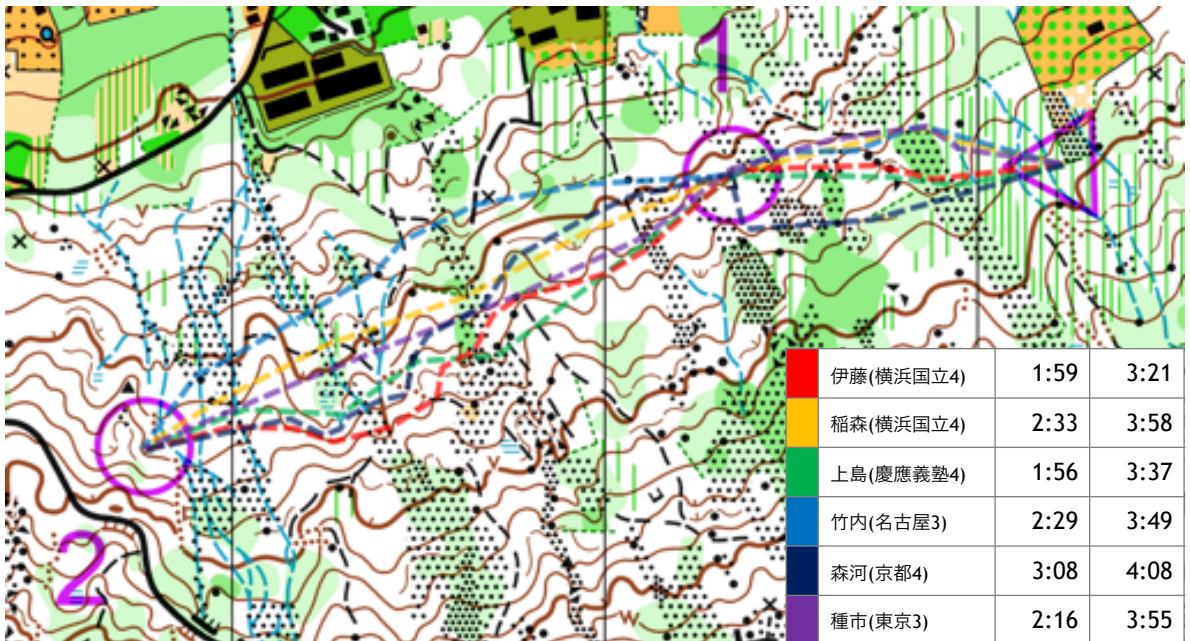
1→2

本コース最初の勝負レッグ。

まだトレインに慣れていない状況でいかに地図と現地を照合して方向や高度を把握しつつ進めるかが問われる。アタックは難しくなく、トレインを横断する主要道がストッパーとなるため、思い切りの良さが大切となる。

れき地内の藪を避けるルートを取った伊藤選手(横浜国立4)は2位以下と10秒以上差をつけトップラップを叩き出した。

首位に躍り出た伊藤選手は以後トップの座を誰にも譲らないまま優勝。



2→3

下りでスピードが上がるため、れき地付きの水系を越えた後も方向を維持して進み続ける必要がある。

3→4

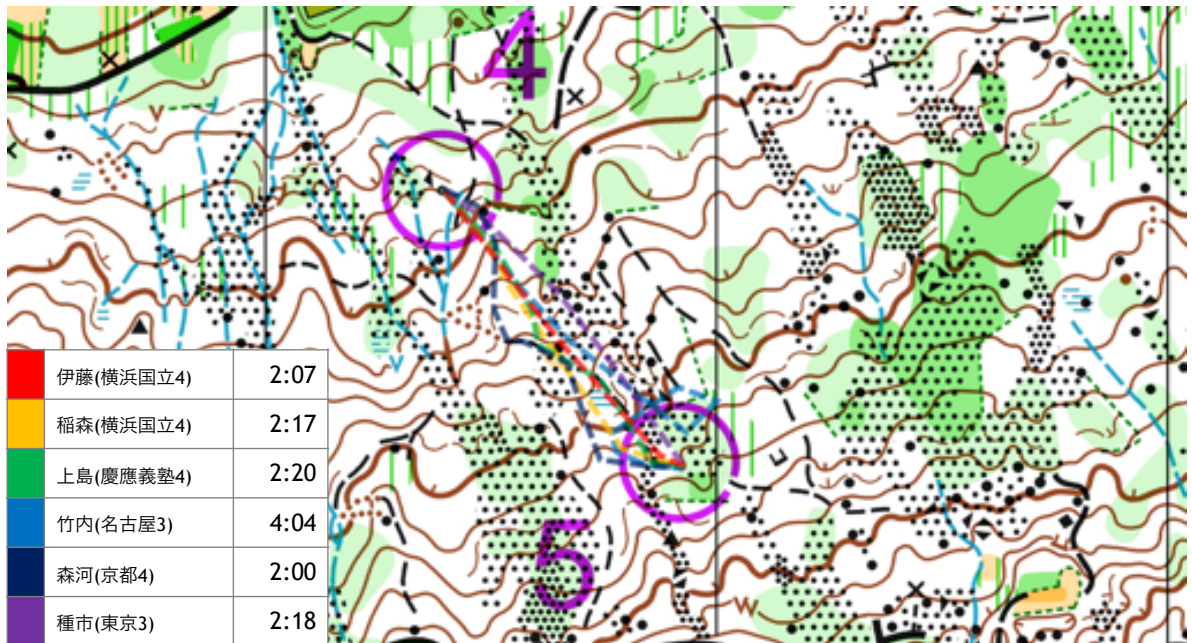
れき地付きの水系の処理が重要であり、通過箇所によっては藪も加わるため、現地の様子を見つつ走行可能度が落ちにくい箇所を見極める必要がある。

4→5

登る尾根や沢を途中乗り換えなければ到達できず、また、コントロール円内に入るにはれき地を通過しなければならない。

川島選手(神戸3)が最速で、続く森河選手(京都4)が入賞戦線に浮上。

大きなミスをした殿垣選手(東京4)は入賞争いから脱落。



5→6

つなぎレッグであるため大きな差がつかないことは予想できたが、トップラップが5人もいたのはおもしろい。

6→7

登り基調は続くが今までのレッグほど難しくない。

トップラップは唐木選手(東北2)。

7→8

レース中盤に差し掛かって初の道走り。小径を外れた後の処理に注意。

種市選手が上島選手、稲森選手(横浜国立4)を抜き2位まで浮上。

また、小牧選手(筑波2)が2位を10秒近く突き放しトップラップ。圧巻の走りである。

8→9

勝負レッグへのつなぎ。

前のレッグで順位を落としていた上島選手が最速で、再度2位浮上。

9→10

本コース最長最難関の勝負レッグ。

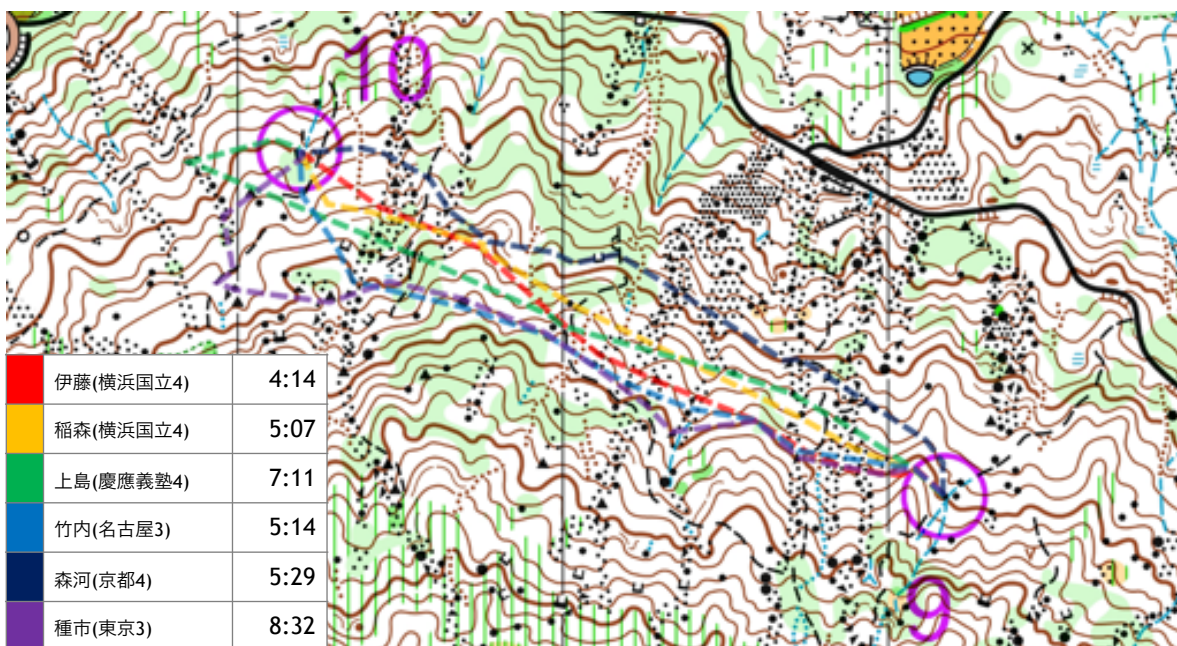
尾根や沢に加え、線状のれき地を複数横断するため、同じ特徴物の大きさや形状の差を捉え、どこまで進んだかを把握することによりパラレルに気を付けて進みたい。

また、下りとなるため、下りすぎてしまったりスピードが上がってオーバーしてしまったりしないように集中し続ける必要がある。

序盤は高度を維持し、徐々に下っていくルートを取った伊藤選手は1→2以上に下位の選手と差をつけ、堂々のトップラップ。

後半まできれいにレッグ線に沿ってほぼ直進気味に進み、南東側よりコントロールがある沢を下りるルートを取って2位に躍り出た稲森選手と2分差であり、ほぼ勝負が決したレッグであった。

序盤から入賞圏内であった種市選手(東京3)は3分以上のミスを犯し、ここで一度入賞圏外となり、上島選手も5位まで順位を落とし、竹内選手(名古屋4)が再び入賞戦線に復帰。



10→11

れき地付きの沢にある岩なので高度を意識して進めば難しくない。

40秒以上のミスで大田選手(一橋4)は入賞争いから脱落。

11→12

このレッグから連続して登りとなる。

佐藤誠也選手(東北4)が下位に5秒以上の差をつけトップラップ。

12→13

どこから登るかに気を付けて登るだけのレッグ。

大橋選手(東京3)が最速だったが、今までの出遅れが響き入賞圏内には届かなかった。

13→14

平均傾斜が最もきつかったが、ここでも上位陣では大きく差がつかず、さすがの体力・登攀力であった。

そんな中、6→7の登りレッグに引き続き唐木選手がトップラップ。

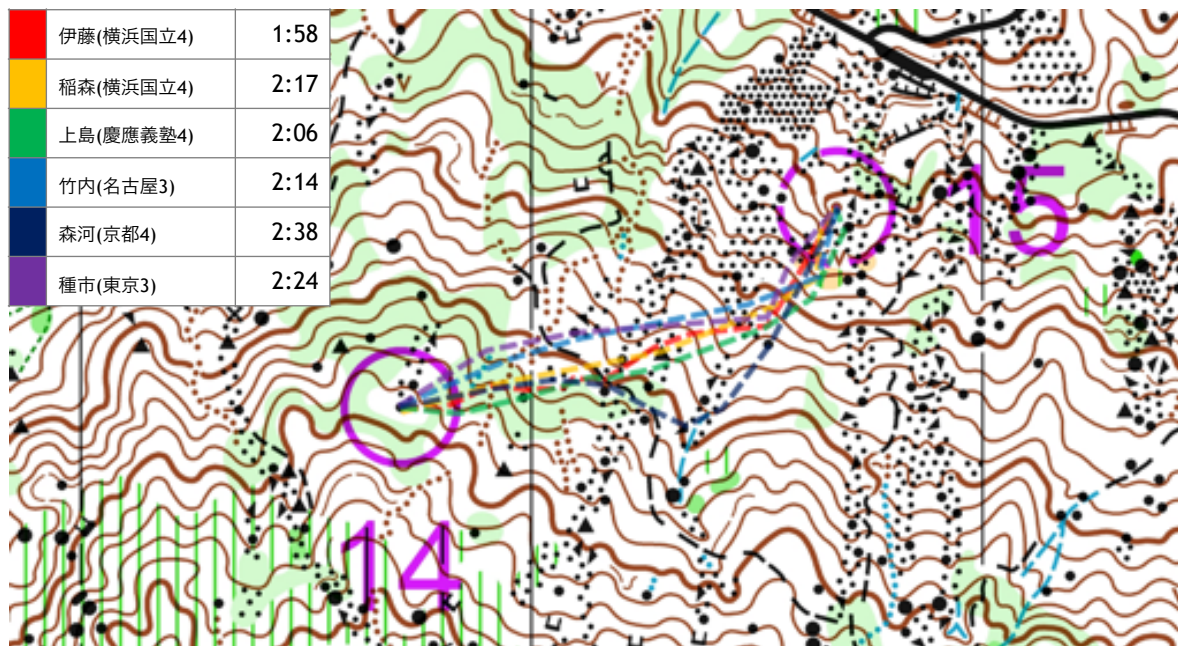
14→15

下り基調であるため、スピードダウンしないようにれき地をうまく回避しつつ進むレース終盤での集中力が問われる。

長岡選手(東北3)はここで3分以上のミスを犯し、3位→入賞圏外に。

次のレッグから長岡選手と種市選手は6位入賞のために1秒を争うデッドヒートを繰り広げることとなる。

上位陣のルートは細かな差異はあれども、コントロール西のれき地帯を回避しており、タイム差はあまりなかった。



15→16

高度を維持するか少し上り気味に進まなければ密度の濃いれき地に足をとられることとなる。

30秒ミスにより森河選手は3→4位となり、上島選手が4→3位に浮上。

16→17

パラレルに気を付けて地形をしっかりと確認しつつ進まなければ思わぬミスにつながるレッグ。

稲森選手はレース中唯一のトップラップを取り、準優勝を確実なものとした。

一方、森河選手が立て続けのミスにより4→5位になり、竹内選手が5→4位に浮上。

これ以降、上位5人の順位変動はなかった。

17→18

主要道まで出ればあとは走るだけ。

長岡選手が再度入賞圏内に。

18→◎

最後の最後まで全力を出し切りトップラップを取った種市選手が長岡選手との1秒差を巻き返し、粘りの6位入賞。

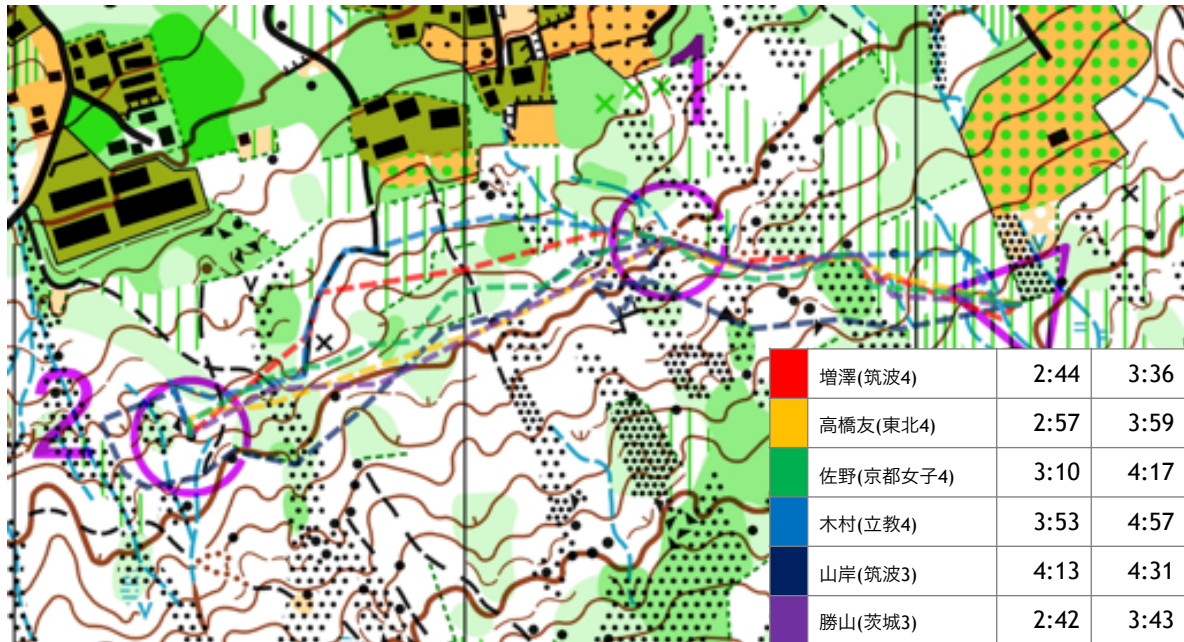
2.3 女子選手権コース解説

△→1

スタート直後の下草に続きれき地と藪の処理に手こずったからか、ミスをする選手が続出。
昨年の覇者である勝山選手(茨城4)はハッチや藪をきれいに避けてトップラップを取り好発進。

1→2

勝負レッグとして組んだつもりだったが△→1よりも難易度が低かったようだ。
レッグ後半で小径を使うルートの場合、小径に乗るまでの藪の処理が重要。
小径を使うルートによりトップラップを取った増澤選手(筑波3)は首位に浮上し、MEの伊藤選手と同様、このままトップの座を死守する。



2→3

どこを登ってもれき地に足を踏み入れなければコントロールに辿り着く。
このレッグでミスをした選手はほとんどいなかった。

3→4

気持ち上り気味に進みつつ、現地ですでに限りスピードを落さない箇所を通るのがカギ。
永山選手(神戸1)は短めのレッグにもかかわらず2位の増澤選手に5秒差をつけた。

4→5

西の尾根に間違えて登らないよう注意。
好調な発進であった立花選手(実践女子4)が手痛いミスにより入賞戦線から離脱。

5→6

コース終盤を除くと唯一の道走りレッグだが、小径から外れた後の処理がやや難しい。
立花選手が先ほどのミスを少しでも挽回しようと増澤選手を超える走りでトップラップを叩き出した。

6→7

斜面に流されて下り過ぎないように周囲の特徴物との位置関係を確認しつつ進むのが重要なレッグ。

勝山選手は2位以下に10秒以上差をつけて暫定2位の高橋友理奈選手(東北4)に詰め寄る。

7→8

平均傾斜が最もきついレッグ。岩が大きいのでわかりやすい。

トップラップは青代選手(東北3)。やはり東北大は男女問わず登りレッグに強いのか。

8→9

本レース最高の難易度を誇る勝負レッグ。

MEの9→10と同様にレッグ線を横切る線状特徴物が多く、適宜現在地を把握しつつ進まなければどこまで進んだかを把握するのが難しい。

一方、高度の変化を把握しつつ9番コントロールの南北に伸びるれき地に辿り着きさえすればアタックは難しくない。

増澤選手は手前で北へ下るミスを行すも未だ暫定1位。

高橋友理奈選手は途中うまく不明瞭な小径を拾いつつほぼレッグ線上を進み、コントロール南東の沢から下りるルートを取り、増澤選手との差を5秒まで縮める。

勝山選手はコントロールにニアミスで下るミスにより、3位→入賞圏外へ。

高橋ひなの選手(東北4)、永山選手もここで入賞戦線から脱落し、うまくまとめた木村選手(立教4)と山岸選手(筑波4)が入賞圏内に浮上。

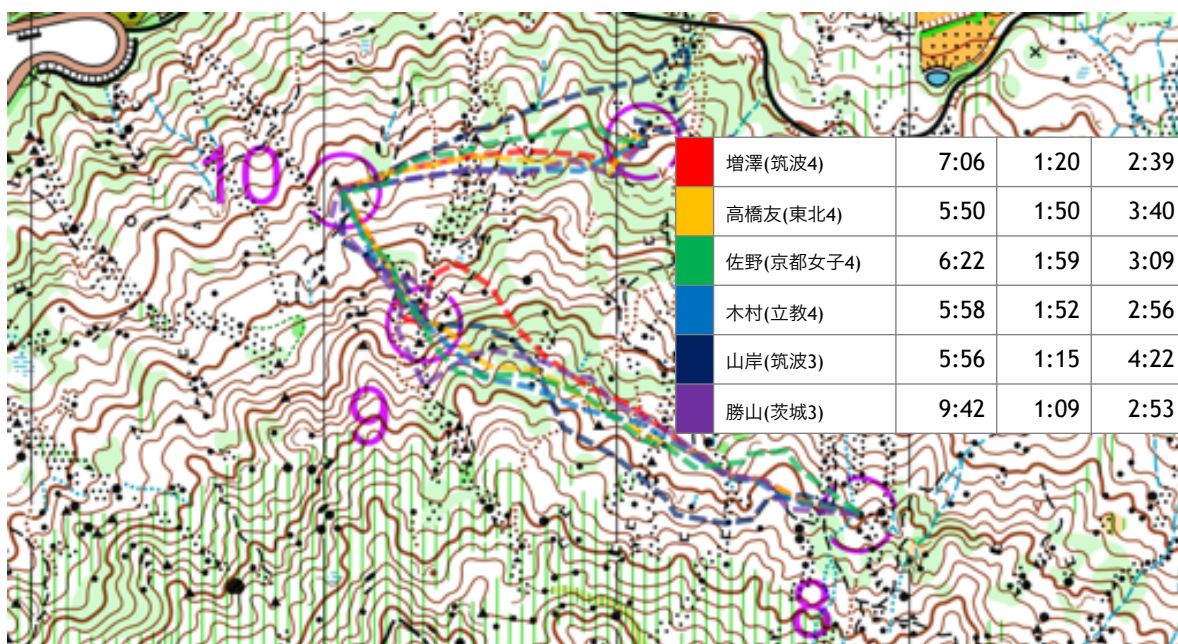
宮本選手(筑波2)がトップタイムを叩き出すもこのレッグまでの出遅れが響き、入賞圏内には届かなかった。

9→10

尾根を下りるだけの簡単なレッグに見えるが、途中二手に分かれ、かつ、コントロール側に分岐している尾根上に多少藪がかかっており、勝負レッグを乗り越えて気が抜けてしまっているとミスに繋がる可能性がある。

藪を避け、コントロール西のれき地の沢のそばを進んだ勝山選手がトップラップを取り、そのまま再び入賞圏内に。

先ほどのレッグで一度は入賞圏内に入った香取瑞穂選手(立教2)は3分ミスで再度圏外に。



10→11

レッグ中盤のれき地とコントロール円手前の地形の処理が重要となる。
特に始めから下り気味に進むとコントロール北西の沢でパラレルする恐れがある。
増澤選手は貫禄のトップラップ。優勝をより確実なものとした。
徐々に順位を上げていた山岸選手は下りすぎてしまい3→5位に。

11→12

レッグ長は短くストッパーがあるため大きな痛手にはならないが、このレッグもパラレルの可能性があり気が抜けない。
高橋友理奈選手がトップラップを取るも上位陣の大きな順位変動はなし。

12→13

MEと共通レッグ。
高橋友理奈選手は2レッグ連続でトップラップを獲得し追い上げるも優勝にはあと一步届かず。

13→◎

増澤選手は有終の美を飾るトップラップ。
勝山選手も山岸選手との差を5秒縮める意地の走りであったが、惜しくも4秒届かず6位入賞。

2.4 おわりに

男女共に勝負レッグを除いて大きくルートが分かれることはなかったと思うが、実行時のナビゲーションの負荷によるミスの重なりが結果に表れていると思われる。

MEにおいては、勝負レッグでのミスをいかに最小限に抑えるかが優勝へのカギとなった。実際、両レッグ共にトップラップの伊藤選手が本レースを制した。

また、上島選手や種市選手のようにいずれかの勝負レッグで数分のミスを犯していても全体をうまくまとめるレースができれば入賞することは可能であったが、一方でシード選手を含め多くの選手が複数箇所でも単位のミスに苦しんでおり、ミス率を一桁に抑えたのは入賞した稲森選手(5.1%)と竹内選手(8.2%)のみだった。

WEはME以上に上位陣は誰が入賞してもおかしくなかったが、8→9の勝負レッグの出来が順位を大きく左右したと思われる。

誰しもうれずれかのレッグでミスをする中、佐野選手(京都女子4)は最大36秒ミスに留め、圧倒的な最低ミス率4.6%を記録している。

速度とナビゲーションのバランスに苦戦しつつもレースに全力を尽くした選手とその熾烈な戦いを目の当たりにした観戦者が共に楽しめたのであれば幸いである。

最後に、本大会に関わったすべての方に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

3 リレー競技部門 コース解説

コース設定者 大竹達也

3.1 コースコンセプト

今回リレーコースを設定するにあたり念頭においたのは、「選手権校を決定するにあたりふさわしいコース」にするために、簡易なコースにしない、ナビゲーションを必要とするコースにすることであった。幸いにも今回のテレイン「望郷の森」は近年稀にみる難テレインであり、以上の点は達成できたと思う。

また以下の点も留意してコースを設定した。

- ・ナビゲーションを必要とするミドルレグを含む
- ・自らの技術と相談し、ルートを選択するレグを含む

3.2 コース解説

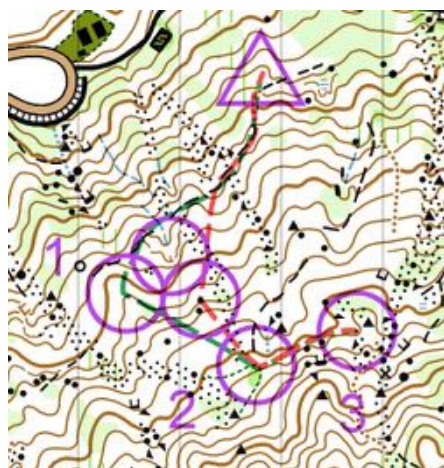
▼男子選手権

男子選手権校のルート図に関して、前半が佐藤選手種市選手、後半が殿垣選手のルート図しか入手していなかったため、全ルートを掲載できないことをお詫び申し上げます。

- 1走 佐藤遼平(BZ) 45:18
- 2走 殿垣佳治(CX) 47:38
- 3走 種市雅也(AY) 44:18
- プランナー想定他ルート

△→1

スタート直後の一見簡単なレグに見えるが、ルート上の小径、小さなきれつは現地ではやや不明瞭であり、登っていることを意識できていないとミスにつながるレグである。実際にここでいきなりミスをする選手も見受けられた。識別番号45を通るパターンがやや不利になる。



1→2→3

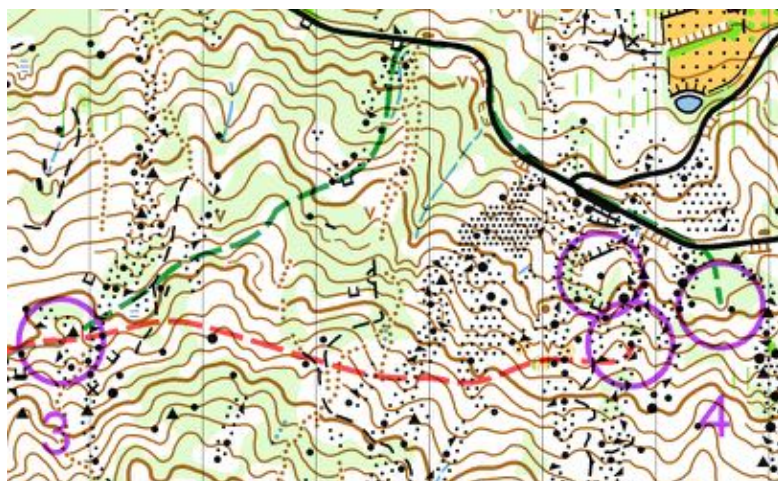
1→2は見通しがよく登りレグのために他選手がよく見える。1番のパターン振りでついた差をここで冷静に把握しておきたい。他選手の動きを見ることも集団走で求められる能力である。2→3では地形を見れば速くいくことができる。

3→4

序盤の勝負レグである。CPをとりながら斜面を斜めに下ることを課題としている。岩をCPとすることは類似の岩が多数あるため不適であり、斜面の方向や特徴的な尾根、ラフオープンなどをCPとしたい。

また距離は伸びるが佐藤選手のように舗装道まで出てしまうのも手である。

全体での最速は伊藤選手(横浜国立4,3:39)。

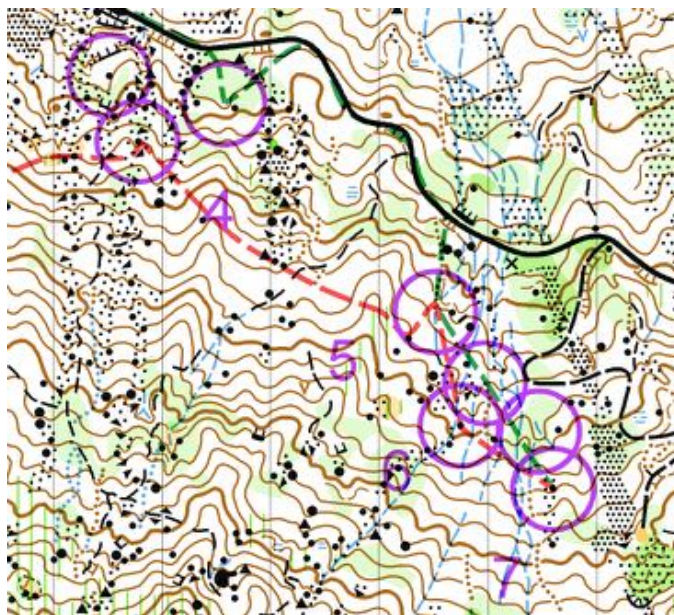


4→5

プランナー想定では舗装道を通るのがベストルートであったが、4番で識別番号133パターンの選手は森のなかを通る選手が見られた。

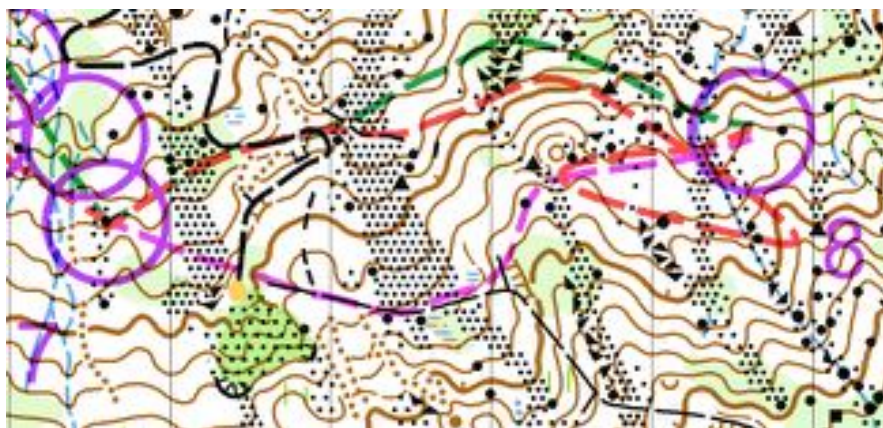
5→6→7

ショートレッグの課題。コンパスをあわせて直進を当てたい。



7→8

北と南の2ルートから選ぶことを課題とした。北ルートのほうが距離が短い、南ルートは切り開きを通れる上、アタックが容易になる。東京大学3走種市選手はここで北ルートを選択。大きくミスし、慶応義塾大学3走桃井選手に先行を許す。

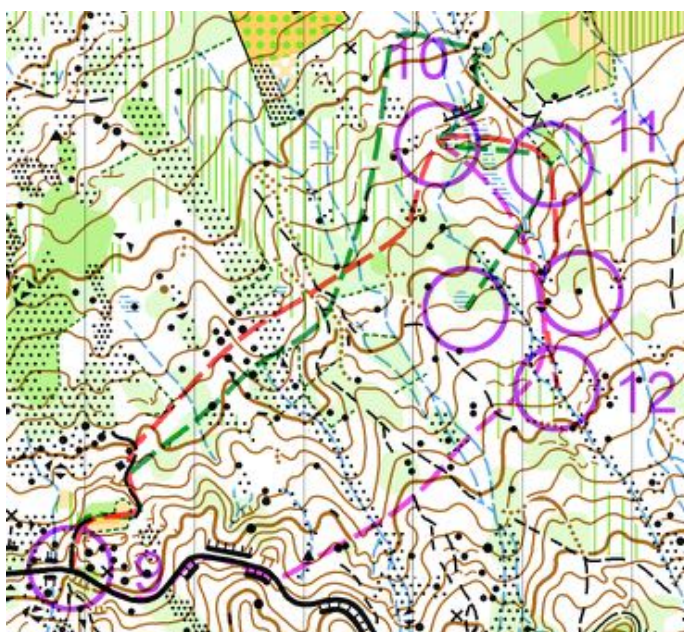


9→10

ここから前半と変わり、地形的特徴に乏しい緩斜面エリアに入っていく。スピードをあげることができるか。このようなエリアではCPを細かくとるよりも、方向と距離感である程度ラフに行きながらCPをとっていくほうが速いと考ええる。

9→10はいきなり中盤の勝負レッグになる。ほぼレッグ線上を行くルートと南寄りのルートを想定した。前者は途中まで植生界をCPにして進むことができるが最後のアタックが難しい。B藪のなかで方向維持できるかを問う。

後者のルートは距離、登高ともに伸びるが地形を使えるうえ、コントロールを線状特徴物の沢の延長としてとらえられるので、アタックが容易になる。



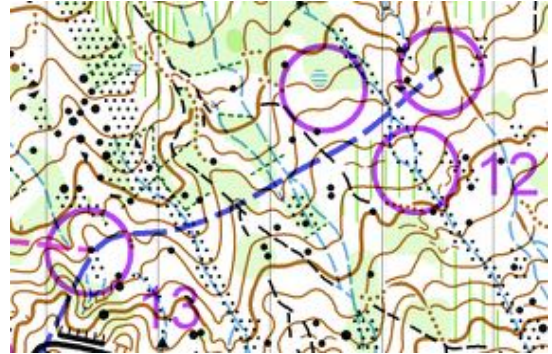
コントロールの拡大、延長の考え方は経験1, 2年目の選手には早い段階で身に付けてほしい。
9番で3位だった北見選手(東北)は10番へのアタックでミスをし、4位に順位を下げることになる。
全体での最速は伊藤選手(横浜国立4,3:25)。

10→11→12

ショートレッグの連続。他パターンの選手に惑わされることなくアタックをしたい。

12→13

藪の処理を問うレッグ。高さで植生界を頼りに処理したい。



13→14

終盤の勝負レッグ。スピードが出るダウンヒルかつリレーという競い合う状況下でも冷静にナビゲーションできるかを問う。パターンによってベストルートは若干分かれるが、いずれのパターンでもまっすぐめに小径と植生界をつないでいくルートが速い。ルートがみえなかったり、自信がないときは舗装道を使うのも手である。東京大学2走殿垣選手が(アタックでミスしてしまったが)、このルートを選択している。東京大学はこの時点で単独1位であったため、冷静なよい判断であったといえる。リレーではこのような判断も求められる。



慶応義塾大学3走桃井選手はここで大きく北巻きのルートを選択し、2分程のミスタイムを計上。東京大学3走種市選手とほぼ並ぶことになる。

14→15

どのパターンでも15番のある尾根を遠くから見ながら行くとはいく行ける。

15→16→17

15→16では尾根を越えずにコンタリング気味に舗装道にでるのがはやい。16ではパターン振りをしてあるので冷静に処理したい。

16→17は会場に戻るだけの簡単なレッグにみえるが、高さを間違えると30秒ほどロスすることになる。



17→18→19→20→◎

18番も会場周りの簡単なレグにみえるが、下りすぎたりすると順位が変わる可能性がある。東京大学3走種市選手は17→18→19で全体トップラップを獲得。会場通過時点で並走していた慶応義塾大学桃井選手を突き放して優勝を確定させた。



▼女子選手権

基本的には男子選手権コースの短縮版となっている。

△→1→2→3

男子選手権と共通。女子においてもS→1でミスをする選手が見受けられた。

---	1走 宮本和奏(CZ) 43:46
---	2走 山岸夏希(AY) 40:43
---	3走 増澤すず(BX) 39:20

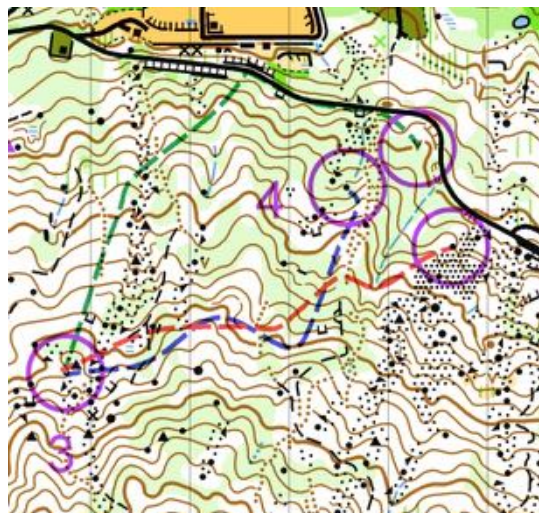
3→4

男子選手権とコンセプトは同じレグ。男子よりも短いぶん、簡易になっている。

識別番号137のパターンは舗装道まで先に出たほうが良いと考えられる。

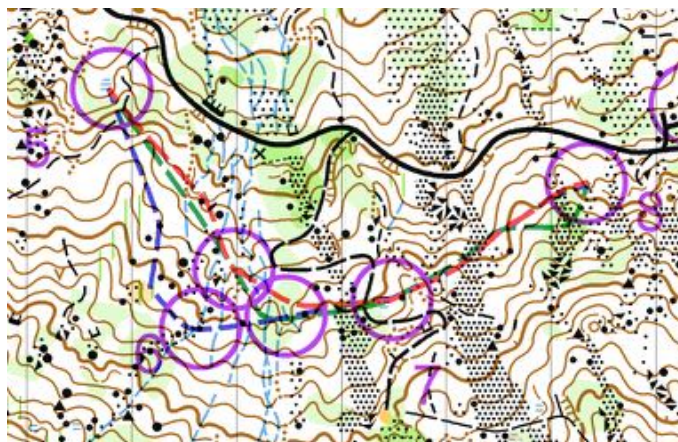
選手権校は3選手ともにベストルートを選択している。

パターン差があるが、全体での最速は勝山選手(茨城4,3:23)。



5→6

似たような地形が続くエリアでのナビゲーションを問うた。傾斜変換や尾根沢の微妙な変化を頼りにアタックしたい。優勝校3選手はAPをとってアタックしていることがわかる。



7→8

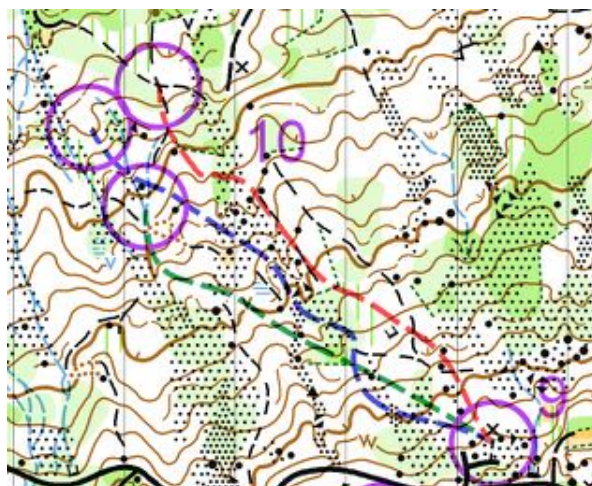
8番の手前の尾根の処理はプランナー想定は巻くルートだったが、優勝校3選手共に登って藪で現在地を確定させている。

9→10

男子選手権13→14の短縮版になっている。9番の位置が男子よりも高い位置にあるため、舗装道を使うのも男子より有力なルートになってくる。選手権校は3人ともまっすぐめのルートを選択

し、ミスすることなくコントロールへたどり着いている。

パターン差があるものの、全体での最速は勝山選手(茨城4,3:12)。



11→12

男子選手権16→17と共通。ここで東京農工大学3走石坪はややロスをし、横浜市立大学が6位入賞を確定させたことがラップから見て取れる。

3.3 総括

今回のコースコンセプトは「選手権校を決定するにあたりふさわしいコース」として簡易でないコースにすることであったことは当初に述べた。リレー当日までミスりあいの荒れたレースになるのではないかと不安があったが、ふたを開けてみると男子選手権の劇的な優勝争い、女子選手権も筑波大学の盤石のレース運びなど、素晴らしい大会になった。ここまで練習、対策してきた選手の皆様には感謝を申し上げる。

男子選手権の結果は東京大学の2連覇という結果になった。しかし、レースの中身を見てみると、男子選手権校の東京大学の3人ですら1か所ずつミスをしており、今回のコースの難しさ、インカレという舞台の緊張感を改めて思うところである。入賞争いも自力の差が出た結果になったと考える。入賞校はどれも力のある学校であり、選手権にふさわしいコースだったのではないかと考える。

女子選手権は優勝した筑波大学が頭ひとつ抜け出しており、2003年以来の悲願の優勝となった。優勝校と入賞校と6位の学校の差は40分以上と大きく開いている。しかし、これは筑波大学の素晴らしさを示すものである。女子は3人選手を揃えることが難しいと思うが、逆に言えば、3人選手を揃えることができれば一気に入賞が見えてくる。新歓、教育をこれからも頑張ってもらいたい。女子選手権においてはリスタート校0校と、この難易度、3区間等距離でも完走数にはあまり影響がないことがわかる。現在のリレーは3人リレーであるので是非とも来年以降も3区間等距離で実施してほしい。

優勝想定時間男女共に40分に対して、男子は適正であったが、女子は茨城大学勝山選手が36分台と大きく外すことになってしまった。女子は40分台の選手も多くみられ、私の力不足であった。男子横浜国立大学伊藤選手と女子茨城大学勝山選手はともに2位を大きく引き離す結果であり、その好走を褒め称えたい。

3.4 おわりに

インカレミドル・リレーを1年間の締めくくりとして熱い思いをもって参加する学生は多いと思います。おそらく皆さん、学業との兼ね合いやクラブ運営、リレーメンバーのセクションなど様々な苦労した上で熱い思いをもっていると思います。その思いは大切なのですが、レースがスタートしたら、その思いをちょっと脇に置いて、目の前の1レグ1レグに集中して、純粋にオリエンテーリングを楽しんでほしいなと思います。登りで辛い時は思い出していいです。そうすれば後悔のないレースになるんじゃないかなと思います。

最後になりますが、熱い戦いを繰り広げて下さった選手の皆様、一緒に民泊に泊まった実行員会の皆様、そして中野方の地元の皆様に感謝の意を表したいと思います。今回コースプランナーをさせていただき誠にありがとうございました。

4 大会運営報告

4.1 大会企画の経緯

▼4.1.1 開催地・テレインの選定

インカレミドルリレーでは、日本学連ミドルリレー担当理事の方針で矢板・日光地区→関西地区→矢板・日光地区→東海地区という4年サイクルで開催地選定が行われている。本インカレのテレインである「望郷の森」は、日本学連副会長の山川氏がかねてよりインカレ開催の構想を抱いており、数年前から水面下で渉外活動が続けていたため、実行委員会の発足の時点でテレイン選定および事前渉外は完了しているという状況であった。

▼4.1.2 実行委員会の発足

本大会は、2018年度インカレスプリント・ロングに引き続き東海地区での開催であった。インカレ運営経験者を多数有する東海地区の地域クラブであるOLCルーパーが直近のインカレを運営していたことや、その他地域クラブの組織規模や運営経験を考慮した結果、地域クラブに依存するのは難しい状況であったため、運営者は主に関西・東海に在住の各大学若手OB・OGを中心に集められることとなった。

運営者の招集にあたっては、まず2017年度インカレミドルリレーの会場において、日本学連ミドルリレー担当理事の海老氏から石山（名古屋13）に声がかかり、そこから日本学連幹事時代につなりのあった築地（神戸13）、2017年度インカレスプリント・ロング運営者の足立（名古屋13）・糸井川（京都12）の順に運営に加え、海老理事の承認のもとで実行委員会を発足した。その後、この4名の中から実行委員長・運営責任者・競技責任者の3責を決定した。

イベントアドバイザーは、本来日本学連により主管者に派遣されるものであるが、本インカレでは運営者に若手OB・OGが多く、運営経験も十分とはいえなかったため、実行委員会としては競技・運営経験が豊富で、かつ運営準備にも積極的に参加していただけるイベントアドバイザーを強く希望していた。その中で、東海地区在住であり、2014年度のインカレミドルリレーのイベントアドバイザーの経験もある松澤氏（東北91）が適任ではないかという話が実行委員会内でまとめ、海老理事を通して主管者による逆指名という形でイベントアドバイザーの依頼を行うこととなった。

▼4.1.3 開催地・テレインの確定

実行委員会の発足後、実行委員長の築地や渉外責任者の松井（京都12）らを中心に地元の自治会長をはじめとした方々との本格的な渉外を開始した。地元の方とは非常に友好的な関係を築くことができ、7月にはテレインの詳細な範囲や大会会場、駐車場候補地等を決定することができた。

4.2 活動報告（運営）

▼4.2.1 活動の概要

本項では、大会運営の概要を報告する。なお、競技に関わる事項の詳細については4.3項に記載のため割愛する。

	月	活動内容	詳細/備考
	4	活動開始	主要役職及びEAを選定し、準備を開始した
	5-6	初期渉外	YMOE山川氏によるテレイン及び地元への初期渉外

2018	6	実行委員会発足	初期渉外完了を受けて、日本学連理事会の承認を経て、正式に実行委員会を発足
		大会開催日の選定	開催地周辺の猟期等やイベントの状況を考慮し、開催日を仮決定
	7	渉外①	<u>7月27日</u> ※この時点で山川氏から実行委員会渉外担当へ業務を移管 恵那市役所及び中野方振興事務所を訪問し、以下の内容を決定 ・開会式会場：市民会館 ・大会開催日：3月14~17日
		テレイン下見	<u>7月29日</u> 実行委員会役員によるテレインの下見を実施し、以下の内容を決定 ・会場（駐車場、利用可能施設、トイレ等） ・競技エリア ・モデルイベント実施範囲 ・ミドル選手権待機所候補（仮）
	8	要項1発行	-
	9	契約交渉①	<u>9月11日</u> 名古屋で主要役職とYMOE山川氏で対面による 業務委託 に関して契約交渉を実施
	10	渉外②	<u>10月10日</u> 現地にて以下の内容を実施 ・中野方振興事務所前に大会告知用の横断幕を設置 ・恵那市役所で担当課長様へご挨拶、後援申請の提出
		試走①	<u>10月21日</u> 試走会にて以下の内容を決定・検討した ・選手権コースの仮決定 ・ミドル選手権待機所の決定 ・ リレーGPSトラッキング に向けての方策
	11	契約交渉②	業務委託契約締結
		チーフ級役員の決定	この時期までにほとんどのチーフ級役員の選定を完了
	12	試走②	<u>12月8、15-16日</u> 試走会にて以下の内容を決定・検討した ※この時点で 競技エリアの地図は納品済み ・選手権コースの確定 ・一般コースの仮確定 ・会場レイアウトの詳細の検討 各パート残課題の整理
		要項2発行	-
	1	当日役員の決定	この時期までにほとんどの当日役員の勧誘を完了
		リレー選手権隔離の事前告知	リレー選手権の隔離を学連に告知し、事前質問を受け付けた

2019	2	試走③	<u>2月9、16日</u> 試走会にて以下の内容を決定・検討した ・一般コース確定 ・選手権コースの最終確認とコース確定 ・要項3掲載情報の確認 ・会場レイアウトの決定 ・ GPS端末の現場テスト ・各パート残課題の整理
		要項と地図の確認	<u>2月24日</u> 要項3の内容と印刷された地図の品質チェックと名古屋大学で実施
		冊子版要項3の入稿	<u>2月26日</u> 要項3冊子版を業者に入稿
		要項3発行	-
	3	直前準備①	<u>3月2-3日</u> 現地にて主に以下の事項を実施した ※一部を除く大型資材をこの日までに大垣の山川氏宅から搬入した ・配布物の用意 ・地図の品質確認と封入 ・看板等の大型資材の用意 ・地元への挨拶と大会概要の説明 ・要項3.1発行の決定 ・当日スケジュールの検討 ・各パート残課題の整理
		選手権スタート順発表	<u>3月8日</u> YouTubeのLive配信機能でミドル選手権のスタート順を発表
		直前準備②	<u>3月9-10日</u> 現地にて主に以下の事項を実施した ・コントロールの設営と位置確認 ・地図の封入 ・テープ誘導の設置 ・演出用動画の撮影 ・当日スケジュールの確定
		要項3.1発行	-
		大会当日	

▽業務委託契約

本大会では、ICSL2018に倣い、地図作成・マネジメント業者のYMOE社と業務委託契約を締結した。これは書面にて「業務委託の基本的なルール」「運営の根幹に関わる業務の納期」「自責による業務遅延に対する罰則」「YMOE社所有物品の賃料」等を明記することが目的である。結果として実行委員会の責による若干の遅延を除けば、業務は計画通りに進行した。ICSL2018に引き続き効果が認められたため、今後も継続的に実施していくのが良いと思われる。また、書面でのやり取り、記録を残すことで、トラブルに対して口頭でのやり取りの曖昧な記憶ではなく、両者が合意しサインした契約書や補足文書をベースに議論することができるという点でも評価できる。

▼4.2.2 渉外報告

本大会の渉外は、開催地が決定するまでを山川氏、それ以降を実行委員会主導で実施した。基本的には、自治体・テレインの山林を管理する団体等への渉外、地元住民への告知を行った。また、開会式会場や選手権待機所等の利用申請、地元出店や大会バス停留場の調整を行った。これらの中で、特筆すべき点について報告する。

▽大会の告知

地元からの要請により、住民に対する大会告知を重点的に行った。主な実施事項は、大会開催を告知する横断幕の設置、ビラの配布、町内放送等である。特に横断幕は、多くの住民が通行する道路の脇に約半年前から設置を行うことができたため、一定の効果があったように感じる。

また、会場周辺の住民に対しては、全戸挨拶を実施し、選手の通行や応援などで騒がしくなることについて、ご了承いただいた。

▽地元出店

中野方地域協議会と中野方振興事務所のご協力により、会場にて、地元の方々が飲食物や地元の特産品を販売するお店を出店いただいた。たくさんの参加者に利用していただき、地元の方々との良い交流の場になったと感じる。

オリエンテーリングを行う上で、地元住民や土地所有者からのご理解やご協力が不可欠であることは言うまでもない。望郷の森では、中野方振興事務所、中野方地域協議会、中野方財産区を始めとする地元の皆様方から全面的なご協力をいただくことができたため、大きなトラブルなく、無事に開催することができた。望郷の森に限った話ではないが、今後も良好な関係を保つことができるよう、競技者の皆様方にはルールやマナーの遵守を引き続きお願いしたい。

▼4.2.3 資材調達

本項では、大会期間中に使用した資材について簡単に報告する。

▽借用備品

大会期間中に業者等から借りた備品は主に以下の通りである。

品名	借用元	備考
仮設トイレ	太陽建機レンタル	中津川支店より借用-
テント、コーン	恵那市、中野方町	恵那市と恵那市中野方町独自に持っているものを両方借用
コーン、連結用バー	YMOE	-
EMIT資材	YMOE、EMIT協会	YMOE所有を基本とし、不足分をYMOE経由でEMIT協会から借用
オンラインコントロール	的場氏	-
その他小物	YMOE	様々なものをお持ちなので、必要なものは買う前にYMOE管理の備品としての有無を確認するとよい

▽購入備品

大会期間中に購入・依頼した備品等は主に以下の通りである。

品名	買い出し先	備考
消耗品	ホームセンター、Amazon	大量に使用する又は、YMOE備品にない消耗品は購入
地図ビニール袋	文具店、アスクル	-
トイレの汲み取り	中野方町指定の業者	-

▽例年との差異

Googleのスプレッドシートを利用し、資材を購入するたびに更新し、買い忘れが無いように注意した。資材責任者が把握していない資材要求（数量変更や追加、削除）を防ぐため、スプレッドシートを全体に公開せず、資材担当と副担当のみで使用した。

▽反省点と提言

大会2か月前に資材リストを各パートチーフから集めたが、調達に時間のかかる資材を除き、細かい資材は2週間前準備に合わせて調達した。おそらく2か月前にはパートチーフも正確な必要数を把握しておらず、インカレロングのリストをそのまま流用したパートもあった。

頻繁な資材リストの更新は、担当者が管理しきれず買い漏らし等が発生する恐れがあるが、ホームセンター、Amazonでの資材調達時期に合わせて資材リストの更新を各パートから受け付けるとよりよかったと思われる。

▼4.2.4 演出

① 演出「GPSトラッキングシステム」導入の背景と本大会での取り組み

現在、国内オリエンテーリング競技の多くは山林の中でレースが展開される。従ってオリエンテーリングは、観戦者にとって会場から競技者の様子を窺って観戦することが困難なスポーツと考えられてきた。この課題に対し、近年のインカレでは観戦者に対してのテレイン開放や定点カメラ・ドローン等機器の導入を行い、「観る楽しさ」の演出を試みている。その試みの中でも「GPSトラッキングシステム」は、競技者全体の様子を俯瞰的に表示し、レース展開自体を楽しめる演出手法として世界的なオリエンテーリング大会でも利用されている手段である。

上記の利点から、ICSL2017・ICSL2018に続き本大会においても、このGPSトラッキングシステムを演出手法の一つとして導入した。本大会では特に下記2点が過去インカレでも実績のない取り組みである。

- 初めてインカレリレーに導入したこと
- より違和感なくレース展開が観戦できるよう、競技者のアイコンや軌道の表示を改善するようなシステム開発から外注したこと

当報告書では、GPSトラッキングの各構成要素の「仕様」「発注経緯」に加え、上記取り組みを初めて行う上で考慮した点を中心に記載する。

② GPSトラッキングシステムの各構成要素について

本大会でのGPSトラッキングシステムを活用した演出には、以下4つの資材で構成される。

□ 位置情報取得からアプリの間のデバイス・システム

◆発注先

GPS端末部分は、演出パートチーフの椎名麻美氏（茨城2013）が自主購入した。アプリに情報を送信するシステム（以下、バックエンドという）の開発も、椎名麻美氏が手掛けた。本大会では、

「GPS端末」「バックエンド」と後述の「ベスト」を併せて、椎名麻美氏から実行委員会にレンタルし利用した。（参考）<http://ori-vis.com>

◆仕様

GPS端末：

日本の周波数に対応し、リアルタイムに位置情報を送信することが可能。
バッテリー持ち時間は約10時間。

バックエンド：

サーバー上に情報を表示・更新し、アプリ（フロントエンド）が位置情報を使用できるようにする。

◆発注経緯

オリエンテーリング観戦をより盛り上げるために、素早いレース展開や競技者の動きを捉えられることが重要と考えた。それを実現する「短い時間間隔で位置情報を取得する機能」にこだわり、椎名氏自身でのデバイス選定・取得と、システムの自主構築を行った。

□ベスト

◆発注先

椎名麻美氏

◆仕様

ベスト：

選手にあまり負担をかけることなく、GPS端末を破損の可能性を小さく携帯させることができる。

◆発注経緯

ICSL2018で利用したGPSベストレンタル会社が、コストパフォーマンスの点から日本への小ロットでの貸し出しサービスを中止した。加えて、「日本人学生競技者の体型に合ったサイズ感」「GPS機器を落とさず収納できるポケット」等の要件を満たす商品が市場には限られていたため、椎名氏へ製作依頼するに至った。

□フロントエンド開発

◆はじめに

本節ではGPSトラッキングシステムのうち、エンドユーザが触れるWebアプリケーション部分について、開発の経緯や実行委員会との取り決め、アプリの仕様などを書き記す。ICSL2017、ICSL2018でもGPSトラッキングが実施されたが、本大会ではアプリケーション部分を0から作成したところが先行事例に対する大きな違いであり、本大会の演出価値向上に大きく寄与するものであったと考えている。本文が今後のGPSトラッキングシステム利用や大会運営に係るアプリケーション開発の際の参考になれば幸いである。

尚、大会当日の演出の様子は下記リンクから写真で確認ができる。

<https://photos.google.com/share/AF1QipO7tU84eCKR2PiWz1K1yabGjI65FPaezkMw1SMwiRQ012ojZ9n2aA4pnoTs5PTCxb?key=alV5OHdNqNvgVEhDY2hRaFpEaW1aemFiRVVwT3hn>

◆発注先

GPSトラッキングのアプリケーション部分の開発は林千尋氏(名古屋2012)に発注した。

◆発注の経緯

本大会でGPS中継が検討された際、先行事例からの改善要望ということで「アプリケーション部分を見やすくする」という課題が浮上した。この課題に対し、ある既製品の利用（レンタル）を検討したが、コストの面から当該既製品を断念せざるを得ない状況であった。そこで実行委員会メンバーと面識があり、かつ、ICSL2018でのアプリケーション開発の実績があった私に対しアプリケーション開発の依頼があった。

◆仕様

システム全体の中で果たしている役割：

本アプリケーションはGPS端末が取得した位置情報をリアルタイムでエンドユーザ（大会観戦者や運営者）に伝えるWebアプリケーションである。もっとも利用者の目に触れる部分であるにも関わらず、これまでの先行事例では乏しいUXを提供することしかできていなかった部分でもあり、本アプリケーションはこの課題を解決する位置付けにある。

アプリケーションが満たすべき要件、特徴：

後述*にもあるが、今回のアプリケーションに求める要件などについて実行委員会と十分な議論が為されないまま開発に取り掛かることになったため、特に開発初期は暗黙の了解で要件を汲み取り、開発に臨んだ。

先行事例の課題点も汲み取りつつ、オリエンテーリング競技のGPSトラッキングシステムとして満たすべき要件を以下のように定め、各機能の開発に着手した。

- GPS端末が計測した位置情報を一定時間置きに取得し、O-Map上に投影する。これを完全に自動化することでエンドユーザにストレスなく中継を楽しめること。
- アプリのデザインはシンプルでわかりやすく、その操作性は快適でマニュアルなどで提示しなくても直感的に理解できるものであること。例えば、表示する選手を1タップで選択できることや選手の軌跡の長さを調整出来ること、選手のアイコンの大きさを変更できること等。
- 上記を満たすことで競技者のパフォーマンス、魅力あるコースやO-mapへの興味を阻害せず、システムを介した観戦に集中できること。
- これらは実行委員会が大会会場で投影するディスプレイだけでなく、観客個人が所有するスマートフォンやPCでも中継サイトにアクセスでき、個人・現場にいなくても観戦を楽しめること。

◆その他

* 実行委員会との取り決め：

アプリケーションの開発に係り、開発者と実行委員会との間で下記のような取り決めをした。

- アプリの開発費として実行委員会から開発者に一定額の報酬を支払う
- 大会本番でのGPSトラッキングシステムが成功したら追加で成功報酬を支払う
- 今後の保守・運用を見据え、開発されたアプリに関する一切の権利は開発者に帰属する

なお、本大会ではこれらの取り決めに記した文書などを残すことはなく、口約束状態でプロジェクトが走り出す結果となってしまった。さらに、取り決めの「GPSトラッキングの成功」も本来であれば客観的に測定可能な指標を定義して、開発者と実行委員会で合意を取るべきであったが、これも十分な取り決めがなされることなく大会本番を迎えてしまった。無事に大会演出が成功したのでいづれも問題にはならなかったと感じているが、万が一の際のことを鑑みて、これらは必要な手続きが執行されるべきであり、本大会演出の反省点の一つであると考えている。

アプリ開発：

今回のアプリ開発プロジェクトは開発者のアイデアや既製品のリサーチ結果などから、アプリのプロトタイプを作り、実行委員会からフィードバックを元に次なる開発に入るというアジャイル型の開発方法をとった。これは限られた時間の中で開発者・実行委員会で認識のズレを生むことなく目標に到達するための最適手段だった。その際に、開発者・実行委員会間でコミュニケーションが活発に取れたことが今回のGPSトラッキング成功に必要不可欠だったことは疑いの余地がない。

試走でのテスト：

試走ではGPSトラッキングシステムの実地テストを実施した。その際、以下の観点でシステムに問題がないか確認をした。

- 競技エリア内でGPS端末を使った位置情報の取得が可能なのか
- サイト上に投影するO-mapの位置情報は概ね正しいか
- システムの操作性などで細かな修正箇所がないか。
- その他システム全体を通して致命的なバグや修正点が存在していないか。

特に一つ目について。オリエンテーリングが開催される山里は通信状態が良好でないことがよくあり、そこからさらに離れた山林では通信が全く効かないエリアも存在する。GPSトラッキングを検討する上で競技エリアにそのようなエリアが存在していないか、存在している場合、それはGPSトラッキングのユーザ体験に致命的な影響をもたらすものかどうか確認することが重要である。

今後の課題：

大会後の感想として「GPSログを再生できないか」という声を多数いただいた。本システムの開発段階から同機能のニーズを認識していたが、実装機能を取捨選択せざるを得ない状況であったため、実装を見送った。大会前の開発完了ができなかったことは残念であり、今後の課題と言える。またその他機能の拡充、本システムも含めたより効果的な演出運用方法の確立なども課題である。

□ディスプレイ

◆発注先

株式会社アズオン

◆仕様

今回発注した製品の役割：

最も大きな役割は、GPSトラッキングを会場でも観戦可能にすることである。また、ディスプレイ導入により、コース解説や試走動画投影などを行うことができるようになる。

サイズ、重量等の特徴や長所：

本大会で使用したディスプレイのサイズは、縦1.5m、横3.0mである。ディスプレイを設置するにあたり、土台が必要であるため、土台を含めると大型トラック1台分くらいのスペースが必要となる。大型ディスプレイは0.5m×0.5mの画面を組み合わせて大型にしているため、予算次第でサイズを変更できる。本大会では18枚使用した。

特徴は、予算次第で大きさを変更できるという点と、機材運搬用のトラックが通れる会場であれば、どこでも設置可能である点である。また、サイズを大きくすると解像度が上がり高画質になる。

◆発注の経緯

発注先と発注商品決定の理由：

ICSL2017でGPSトラッキングシステムを導入した際に、相見積もりを取った発注先の選定が行われた。初めはトラックビジョンを想定し業者選定を行っていたが、予算や日取りで調整が付かず断念した。続いて、大型ビジョン業者から業者選定を行い、現発注先に依頼することとなる。

本大会では、予算の都合から低価格な野外用プロジェクターで代用できないかという案も挙がっていたが、導入時の映像の視認性や機器設置レイアウト等の不確定要素が多過ぎること、予算の都合がついたことから前大会を踏襲しディスプレイ発注に至った。

◆その他

課題、将来への提言：

大型ディスプレイの課題は、費用が他の項目と比較して格段に高い点である。予算にディスプレイ費を確保できない会計状況の際は、野外用プロジェクター等の代替案や、ディスプレイを用いな

い演出手法を模索する必要がある。

将来の提言として、演出手法の更なる改良を検討する際にディスプレイ業者に相談することを推奨する。株式会社アズオンのように、ディスプレイを用意している業者はイベントプロデュース全般を取り扱っている場合があり、カメラ中継等も検討内容次第で発注可能である。

③ GPS演出に対する競技性への留意点

本節では、今大会においてGPSトラッキングシステムを用いた演出（以下、「GPS演出」）を実施するにあたって、競技の公平性を保つために行った措置について概説する。

□ はじめに

リレー競技においてGPS演出を実施する場合、スタート待機所やスタート地区が会場外の場合が多い個人競技と異なり、選手・オフィシャル・観戦者（一般の部参加学生、併設大会参加者含む）がすべて同一の大会会場内に存在することになる。そのため、観戦者向けに行っている演出により競技性が損なわれることのないよう細心の注意を払う必要がある。今大会ではGPS演出にあたって競技の公平性を確保するために、以下の点に留意した。

- (1) 選手・オフィシャルが、GPS演出ディスプレイを目視できないような会場レイアウトとすること
- (2) 選手・オフィシャルが、観戦者から間接的に競技情報が得られないようにすること
- (3) 実行委員会による演出により、不意に競技情報が漏えいしないようにすること

(1)、(2)については、大会会場内に「隔離エリア」を設定し、選手・オフィシャルに対して一定の行動制限を加えることにより解決した。(3)については、今大会では実況者はあえてGPS演出ディスプレイを見ず、隔離エリア内からもわかる情報のみを用いて実況をすることにより解決した。それぞれの対策方法の概要および今回の経験から得られた課題や反省点を以下に示す。

□ 競技者・オフィシャルの隔離

◆概要

前述の通り、GPS演出ディスプレイからの直接的なコース情報の取得および、観戦者からの間接的な競技情報の取得を制限するために、大会会場内の一部エリアを「隔離エリア」とし、選手およびオフィシャルの隔離エリア内への隔離を実施した。

隔離については、チームオーダー最終受付終了後～デモンストレーション開始の間にエリア内へ入場してもらい、以後リスタート時刻までは再入場含め一切の入場を禁止とした。また、情報通信機器の利用についても、外部からの故意の競技情報の取得を防ぐために、隔離エリア内では利用禁止の制限をかけた。

隔離エリアの設定にあたっては、隔離はあくまでも大会の演出の都合により実施するものであるため、隔離により選手の行動に不自由が生じ、結果的に競技のパフォーマンスが低下するようなことは絶対にあってはならない。よって、十分な設備・広さを有しているのかについては入念に検討のうえで隔離エリアを設定する必要がある。

以下に、隔離エリア内の設備と広さ、および大会を終えてのフィードバック等を示す。

シートエリア（約500㎡）：

隔離エリアへの入場者数を、各チーム4名（選手3名+オフィシャル1名）×チーム数60=240名と仮定し、その人数が収容可能かどうかを判断基準とした。

結果的に、1人あたり2㎡（=1.1畳分）のスペースを確保できており、当日の様子を見る限り若干窮屈な様子は見受けられたが、必要最低限のスペースは用意できたのではないかと考えている。なお、必要以上にオフィシャルが隔離エリアへ入場しないよう、各大学のオフィシャルの入場可能者数を2名に事前に制限した。

ウォームアップエリア（約600㎡、縦15m×横40m）：

走順毎・選手個人毎のウォームアップの時間帯が異なることを踏まえると、同時にウォームアップエリアを利用するのは最大でもチーム数分の人数（60名程度）と考え、その人数が同時ウォームアップできるかを目算により判断した。

大会を終えての所感としては、事前に懸念していた事項でもあるのだが、やはり広さが不十分であったと考えている。特に、長さがまったく十分でなく、最長でも40mほどしか確保することができなかった。これにより、ダッシュ等スピードを上げてのウォームアップが難しく、選手の方には大幅に制限を与えることとなってしまった。今大会では会場の制約上これ以上用意することは厳しかったが、やはり100m程度は幅を用意できるとウォームアップエリアとしては好ましいと感じている。

トイレ2基（男女共用）：

隔離エリア内に隔離対象者専用のトイレを2基設置した。これについては明らかに数が不足していた。

公式掲示板：

隔離エリア内では情報通信機器を利用することはできないため、公式掲示板には事前に公開したテクニカルミーティング資料およびチームリストを掲示した。

中間速報：

インカレ実施規則25.10に記載のある前走者接近情報（＝スペクテーターズレーンの選手の通過）とは別に、中間ラジコンによる中間通過速報を実施した。これについては、計センに依頼し、Mulka2を用いてディスプレイに表示すること実施した。

◆課題

今回、おそらく国内で初めてであった隔離エリアの運用であるが、運用システム（誰を、どのように隔離するか）については特に大きな問題は無く、成功であったと考えている。一方で、ウォームアップエリアの広さやトイレの台数等、細部ではまだ改善点は見られる。隔離エリアの検討にあたっては、運営の都合ではなく選手目線での意見が重要だと思われる。

□実況における配慮

上記対応により、競技の公平性確保のために選手・オフィシャルを物理的に隔離することはできた。しかし、実況の音声から隔離することは不可能であり、実況音声からは選手・オフィシャル・観戦者が同一の情報を得ることとなるため、実況の内容についても競技の公平性を損なうことのないよう、十分な配慮が必要であった。

今回の運営では、“実況の内容がどこまで競技の公平性に影響を与えるのか”ということが非常に難題となった。例えば、仮に実況者がGPS演出ディスプレイを見つつ実況を行った際に、“1→2は非常に難しいレッグです”、“○○大学の選手が3番コントロールのパターン振りで隣接コントロールに向かってしまった！”、“××大学の選手、7→8で違う尾根を下っている”といったような発言をした場合に、どこまでが許容範囲内でどこからが競技の公平性に影響を及ぼす発言なのかの線引きが非常に難しい。

残念なことに、今回実行委員会では回答を出すことができず、「実況者は実況を隔離エリア内から行う」といった対応をした。これにより、暫定的な順位の経過しかわからず、またこれらの情報は隔離エリア内の選手も同様の情報を入手することができるため、競技の公平性を損なうような事態は発生しない。しかし、このような対応ではせっかく多くの予算をかけて導入したGPS演出の効果が十分に発揮できないため、必ずしも正解ではなく今後も検討していく必要があると考えられる。自分で確認した訳ではないが、WOC等では一定の競技情報は実況においても利用しているとの話も聞いており、海外遠征経験者や国内の有識者へのヒアリングを行うことも効果的ではないかと考える。

④ 今後の展望

本大会では、インカレリレーという国内最大規模のオリエンテーリング大会においてGPS演出を採用し、その過程でGPSトラッキングに係る資材や技術の調達、大会会場や競技の制約を加味した運用プロセスを検討・確立した。実行委員長やイベントアドバイザー報告にもあるようにGPS演出は概ね成功したと考えており、また、大会後のアンケートでは参加者からもGPSトラッキングに

対する肯定的な意見が多く寄せられており、当初の意義は概ね達成されたと考える。インカレに限らず、国内のオリエンテーリング競技の振興には“「観る楽しさ」の向上”が重要であり、GPSトラッキングはそれを支える一手段として有用であると考えられる。

一方、競技者の動向をただ可視化しているだけでは、効果的な演出を生み出すことは難しく、場合によっては大会参加者や観戦者の興味/関心を不用意に散らせてしまいかねない。今後の展望として、音声実況や観戦ガイドなど、歴代のインカレ実行委員会をはじめ、これまでの大会運営者が試行錯誤し、確立した数々の演出手段との連動やGPSトラッキングをどの選手にどのようにするかというところから演出方法を検討、その大会全体で一貫性のある演出を実現しオリエンテーリング競技の楽しさをさらに引き出すことが今後の課題として挙げられる。オリエンテーリング競技の“「観る楽しさ」の向上”のためにも是非この課題の挑戦者が現れてくれることを期待したい。

▼4.2.5 報道

▽日本経済新聞 電子版

2019年3月14日

「フォルテ、オリエンテーリング学生選手権に端末提供」

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO42468770U9A310C1L01000/>

4.3 活動報告（競技）

▼4.3.1 競技地図の作成

競技地図の作成は大きく分けて以下の4ステップに分けられる。全体の工程は下表の通りである。

- ① 地図調査・作図
- ② 地図調製
- ③ 地図印刷
- ④ 地図封入

なお、本大会では、①地図調査・作図、②地図調製、③地図印刷はプロ業者に依頼し、④地図封入のみ実行委員会により行った。

表. 競技地図の作成行程

日時	内容	備考
7/29	競技エリアおよびモデルイベントエリア確定	
9/11	地図業者との交渉	・ 実行委員長、運営責任者と合同で実施 ・ 主に業務委託契約の内容について
11/24	業務委託契約締結	
11/29	競技エリア地図初版完成	
～2/8	地図修正・モデルイベントエリア地図完成	・ コース確定に伴い、レグ線状およびコントロール周り中心に詳細な調査
～2/24	地図調製	
2/24	試作品品質確認	・ 印刷地図の現物を用いて実施 ・ 幹部役員およびEAと合同で実施
～3/1	競技用地図印刷	
3/2～3	競技用地図封入	
～3/10	モデルイベント地図等印刷	

以下に、各工程における活動を詳細に記述する。

▽地図調査・作図

地図調査・作図は、プロ業者である有限会社ヤマカワオーエンタープライズ（以下、YMOE）に発注という形をとった。発注においては、実行委員会とYMOEの間で「業務委託契約」を締結し、成果物の品質や納品スケジュールを事前に取り決めておいた。なお、「望郷の森2019」の地図作成者は山川氏（YMOE）、西村氏（NishiPro）、宮西氏（宮西山野精図）の3者であるが、契約はあくまでもYMOEとのみである。（西村氏・宮西氏は、YMOEによる雇用といったような形）

業務委託管理契約の締結に際しては、過去のインカレでもYMOEとの折衝を担当していた併設大会実行委員長の前田（名古屋10）から多くのアドバイスをいただき、内容の充実化を図った。

今大会では、地図調査・作図体制が充実していたことや、業務委託契約をより厳格に適用できたこと、さらには伐採や積雪等による地図調査への影響がほとんどなかったことから、概ね当初の予定通り地図作製は進んでおり、近年のインカレで度々見られていた地図調査・作図の遅延による運営スケジュールの圧迫といった問題は一切発生していない。

▽地図調製

ここでいう地図調製とは、下絵地図へのコース等の入力作業全般を指しており、具体的な作業内容としては

- ・コース記号入力
- ・一部コース記号の編集（コントロール円・レグ線切除、コード場所変更等）
- ・コース以外の情報の追加（テレイン名題字、緊急連絡先、枠等々）

等が挙げられる。

今大会では、これらの作業は前述した業務委託契約の範疇であり、一括してYMOEに依頼した。

▽地図印刷

インカレで用いる地図に関しては、主催者である日本学連とYMOEの間に「委託管理契約」が結ばれているようである。（正式にはまだ契約は締結されていないのだが、契約のシステムは既に多くのインカレで運用されている）この契約は簡単に要約すると、「学連が著作権を持つ地図を継続的に利用するために、管理（修正調査や地図調製等）や地図印刷、販売を外部のプロ業者に一任する」というものであり、日光や矢板の地図の購入する際にYMOEを通す必要がある背景にはこのような契約内容が存在する。

実行委員会では一時、

- ・地図印刷を外部に委託する場合、印刷地図の品質確認に負担・時間を要すること
- ・委託管理先であるYMOEが、実行委員会が採用している地図作成基準（ISOM2017）に対応していないソフトを利用している ※配布したモデルイベント地図の立ち入り禁止表記が誤っていたのは、このことが原因である

を考慮し、自分たち、もしくはYMOE以外のプロ業者に地図印刷を依頼することも考えたが、最終的には印刷する地図の枚数が膨大なことや、地図印刷に際して生じる資材・時間的な負担を考慮し、前例通り地図印刷はYMOEに依頼した。結果的には、4,000枚超の地図を1週間という短い時間で納品していただき、かつ品質にもまったく問題が無かったため、妥当な判断であったのではないかと考えている。

なお、今後も今回のように印刷を外部に委託する際は、

- ①委託先が最新の地図作成基準に対応しているか事前に確認すること
 - ②印刷開始前には必ず現物確認を行うこと
- の2点は徹底していただきたい。

▽地図封入

今回、地図封入は実行委員会により大会2週間前の土・日曜に実施したが、せっかく集まってくれた幹部役員たちにひたすら単純作業をお願いすることとなってしまう、失敗であったと認識して

いる。

従来は実行委員会で行うという選択肢しかなかったかもしれないが、最近になって地図封入を専門的に行うプロ業者も出現しているため、大会予算などとも相談し「地図封入の業者委託」という新たな選択肢も積極的に検討していただければ、と思う。

（地図封入を委託することにより支出は増大するが、従来地図封入を行っていた時間を別の準備の時間に充てることにより大会準備の効率化が為され、結果的には予算の面においてもプラスになるかもしれない）

なお、今回は選手権地図を除き地図封入にはチャック付きビニール袋を用いた。一部参加者からは不満の声もあったが、これはテレイン付近において2月頃から伐採作業が開始され、2週間の地図封入～大会当日の間に地図に変化が生じる可能性を考慮したためであり、やむを得ないものであったということをご理解いただきたい。

▼4.3.2 コース設定

※本節では、コース設定にあたって競技責任者として留意した点を記述する。

コースのコンセプトや解説については、コース設定者が記述したコース解説を参照されたい。

コース設定に関して競技責任者が行ったことは以下の通りである。

- ・ 試走日程および事前目標の設定
- ・ 競技規則および実施規則の確認
- ・ ミドル・リレー間の調整

以下に、それぞれの内容について詳細を記述する。

▽試走日程および事前目標の設定

各試走の日程とそれぞれの試走の目標を競技責任者が設定し、コース設定者と共有した。これにより、コース設定者が計画的にコース作成を進めることができたのではないかと考えている。

下表に、今大会において行った試走の一覧とそれぞれの事前目標を示す。

表. 競技地図の作成行程

日時	イベント	事前目標
7/29	テレイン下見	・ 競技エリア確定
10/21	第1回試走	・ 選手権(ミドル)スタート地区確定 ・ 選手権(ミドル、リレー)コース回し確定
12/8	ブレ第2回試走	・ 選手権(ミドル)、(リレー)意見収集
12/15,16	第2回試走	・ 選手権(ミドル)、(リレー)確定 ・ 一般(ミドル)、(リレー)回し確定
2/9	第3回試走(1/2)	・ 選手権(ミドル)試走&優勝設定時間確定 ・ GPSトラッキングテスト
2/16	第3回試走(2/2)	・ 選手権(リレー)試走&優勝設定時間確定 ・ 点状特徴物サイズ計測
3/3	モデルイベント試走	・ モデルイベントコントロール位置確定

▽競技規則および実施規則の確認

コース設定者が作成したコースについて、競技規則および実施規則を逸脱していないかの確認を行った。基本的には競技責任者およびコース設定者が規則を確認したうえで遵守すれば良いのだが、いくつか判断に迷う点や意図的に逸脱したい事項も存在する。

以下に、今大会において議論となったいくつかの事項のうち、特筆すべきもの2点について内容を記述する。

①実施規則14.5「男子コースと女子コースは、可能な限り別のコントロールを用いる」

ミドル選手権においては、男子と女子はそれぞれ交互に2分間隔で出走しており、男女合わせて考えても選手間で1分間隔は確保されているため、必ずしもすべてのコントロールを別にする必要はないと考え、コントロールヘアタックする選手の存在が他の選手のナビゲーションに大きく影響を及ぼし得るレッグを除き、男女共通コントロールは制限しないとした。

リレーにおいては、男女で出走時刻が別（10分差）であることや、男女間で巡行速度が異なることを考慮すると、同一のコントロールを用いることは問題ないとした。（実際、今大会ではWERのコースはMERの短縮版のようなコースであり、多くの男女共通コントロールを用いている）

②実施規則14.7「選手権以外のコースがある場合、可能な限りコントロールは別のものを用いる」

ミドルにおいては、一般クラスの競技時間と選手権クラスの競技時間はほとんど被らないため、同一のコントロールを用いても全く問題ないと考えている。実際に当初は、選手権クラスと一般クラスのスタート地区を同じとし、一部一般コースは選手権コースの短縮版、というアイデアもあった。この案は結局、一般クラス選手やオフィシャル（=情報通信機器利用可）から選手権クラス出場選手（=情報通信機器利用不可）への情報伝達ができてしまう、といった問題があり実現しなかったが、仮にこれが実現していた場合には、設置コントロール数の削減やスタートパートの負担減等、多くのメリットがあったと思われる。

なお、リレーにおいては、同一時間帯に選手権クラス選手と一般クラス選手が存在することになるため、一般クラス選手の存在が選手権クラス選手のナビゲーションに影響を与えぬよう、実施規則通り同一コントロールは用いないのはもちろんのこと、可能な限り選手権クラスで使うエリアと一般クラスで使うエリアも被らないように配慮した。

▽ミドル・リレー競技間の調整

今回のインカレでは、ミドル競技とリレー競技において同一のエリアを利用した。これに伴い、コース設定においてミドル・リレー間においていくつか調整する必要のあった事項が存在するため、以下に記述する。

①ミドル・リレー間のコース回し重複の確認

ミドル・リレーにおいて両日利用するエリアに関しては、コース回しが類似しないように配慮することをコース設定者に依頼した。また、上記のような箇所が見られないかコースを確認し、必要に応じてコース修正を依頼した。

②コントロール位置の調整

本大会では、運営負担軽減および設置ミスリスクを考慮し、ミドル・リレーで用いるコントロールはすべてを大会前日設置(*)することとした。よって、両日使うすべてのコントロールを設置した際に、以下の2つの事項を遵守しているのかどうか確認した。また、逸脱していた場合にはコントロール位置の移動・削除といった調整をコース設定者とともに行った。

i.競技規則16.2「コントロールは30m 以内に近接して設置すべきでない。さらに特徴物が同じコントロールは60m 以内に近接すべきでない。」

ii.ミドルで特定のクラスの選手のみが通過したコントロールは、リレー選手権で利用しない

※インカレミドルリレーにおけるコントロール全設置の是非について

前述の通り、今大会ではミドル・リレーで用いるコントロールはすべて大会前日に設置したため、各日の大会でまったく利用されないコントロールもテレイン内に設置されていることとなる。

(ただし、ミドル選手権想定ルート上に存在するリレー競技で用いるコントロールについては、ナビゲーションに影響を及ぼし得るとしてミドル後に設置)

このような対応を取った場合、選手が想定ルートを選択した場合には別日のコントロールの影響はないとしても、リレー競技においてあえて少し遠回りとなるがミドルのコントロールをCPとして利用しナビゲーションを行うことや、ミスをした時に別日のコントロールを発見してしまいそれがリロケートに利用されてしまうという可能性もある。

よって、仮に次回以降同一テレインでインカレミドルリレーを開催し全コントロール設置を検討する際には、過去に実例があったから問題ないのではなく、実行委員会内で十分検討したうえで決断することをおすすめする。

▼4.3.3 安全対策

本大会で懸念された安全上の問題およびそれに対する対応を以下に示す。

①テレイン内の道路における選手と車両の衝突可能性

「望郷の森」の中央部には東西に車道が存在しており、交通量は少ないものの地元の方やキャンプ客の方が比較的高スピードで走行する場面も試走中に見られた。また、テレインの性質上この道路の横断は避けられない一方、横断箇所は選手にとって異なるため、選手向けの看板設置や監視員の配置といった対策では効果が薄いことが予想された。

今大会では、選手向けの対策は行わず車両向けの対策のみをすることとし、対象道路の東西に注意喚起の看板を設置した。また、大会当日だけでなく1週間前から継続的に設置することで、対象道路を常用する方への周知率の向上を図った。

結果としては、幸いなことに大会期間中の衝突事故は無かったが、今回の安全対策では不十分であったと認識しており、横断コントロールの設置による横断箇所の限定等、選手側への対応が必要であったと思われる。

また、こういった問題は今大会特有のものではなくオリエンテーリング大会に共通して言えることであると考えられるため、継続的に検討してより良い方法を見つけることが重要であると思われる。

②遭難・怪我リスク

テレインプロフィールにもある通り、「望郷の森」は非常に高難度なテレインであり、オリエンテーリング初級者～中級者にかけてはミスをしたうえで現在地がまったく不明となる「遭難リスク」が考えられた。また、足場が岩がちな箇所が多く、転倒に伴う捻挫や骨折、もしくは頭部外傷といった「怪我リスク」も考えられた。

遭難リスクに対しては、コースの難易度を抑えることで対応した。具体的には、コースを中央の道路に沿って組むことで、仮にミスをしても道路に戻ってやり直せるように、もしくは、競技時間が近づいてきたら道路を利用し最終コントロールへ向かえるようにした。これによる成果なのかは不明だが、フィニッシュ閉鎖を超えての未帰還者は存在しなかった。

怪我リスクに対しては、日本スポーツ庁公認のプロトレーナーを運営に招聘することにより対応した。この目的としては、今大会において最も可能性が高く、かつ大量に発生することが予想された捻挫のような軽度の外傷に対して、適格かつ迅速な処置をするためである。結果としては、参加者の方の安全意識が高かった成果もあってか、救急車を呼ぶ必要のある重度の傷病者は現れなかった。また、軽度の怪我人に対しては、事前に予想していたようにトレーナーの方が的確な処置を行っていた様子が見られ、招牌は成功であったと感じている。

日本のオリエンテーリングの大会では運営者が救護担当者を担うことも珍しくはないが、もちろん担当者が資格を持っていれば問題ないのだが、多くは少し知識があるだけで実際の処置経験も少ない場合が多い。これは、ただでさえ怪我リスクの高いオリエンテーリングにおいては好ましい状況とは言えない。今回のプロトレーナーの招聘というのは、新たな試みではある一方で本来あるべ

き姿でもあり、インカレに限らずすべてのオリエンテーリング大会において、今後はこのような対応がとられていくことを強く望んでいる。

▼4.3.4 計センについて

Ecardの使用法に関して基本的な利用方法が理解されていない選手が多く見られました。今大会のフィニッシュ及び計算センターで発生した事案を報告します。

多くの電池は低温に弱いのですがEcardも同様です。冬の大会ではざっと100人に1人程度の割合で回復不可能な故障や読み取り不具合が発生します。不具合は夏の大会ではあまり起こりません。そうした電子的通過照明記録の欠如を補うためにEMITにはバックアップラベルという仕組みがあり、物理的に通過証明を行うことで記録を残すことができます。

季節では春の今大会でも雪が舞うなど非常に寒冷であり、1日あたり10名程度とほぼ上記の割合同様のEcard不具合の発生を確認しました。しかしラベルの不使用、競技中に落としてしまう、パンチングが浅く穴が空いていないなどが非常に多く見受けられました。バックアップラベルを使用した通過判定によって成績を無事に残すことのできた選手は1日あたり1名であり、故障したカードを利用した他の選手は失格となっています。失格はラベルにパンチ穴が残っていない場合が多く、これではバックアップの意味をなしていません。コントロールを通ったと言い張られても、電子的記録が残っておらずバックアップラベルにも痕跡が残っていない場合は失格という規則ですので覆りません。コントロールではユニットにカード深く押し込んで、バックアップラベルに穴が開くまでパンチをしましょう。

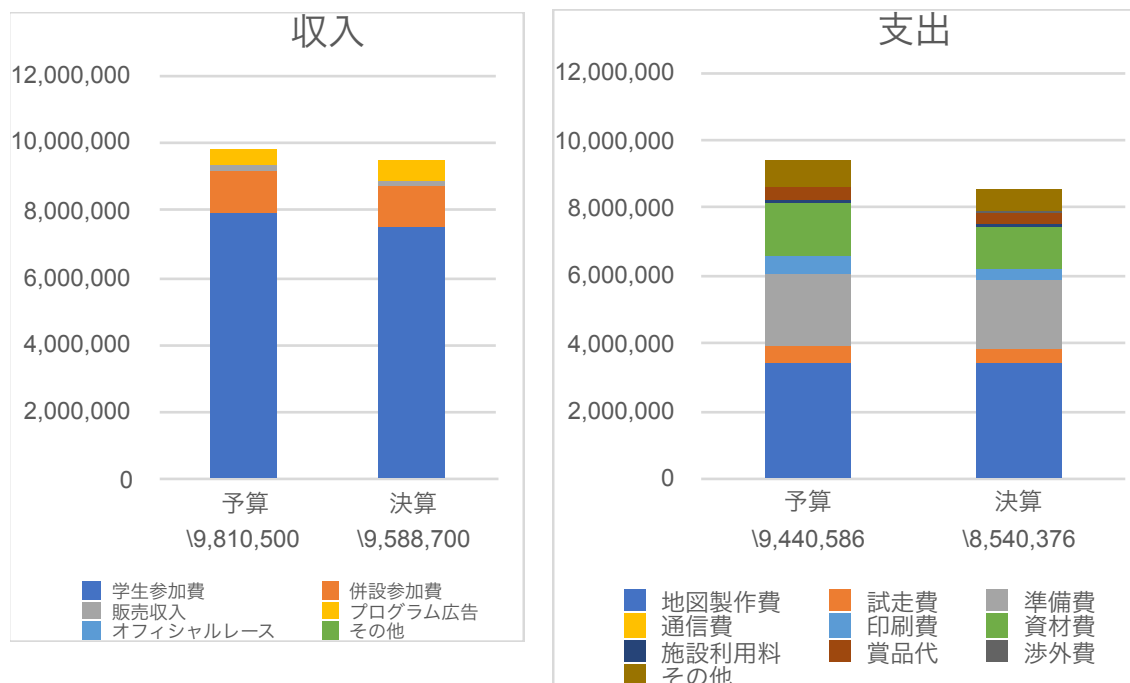
また、アクティベート忘れも1日に10人以上と多く見られました。特にリレーでは一斉出走の際の待機所入口のユニットの見落としや、チェンジオーバーで慌てていたために、ノンアクティベート状態での出走が多く起こります。アクティベートは前回使用時の記録抹消の他に、ユニットのランプ点滅によるEcardの動作確認の意義もあります。当然のことですが、故障しているEcardを動作確認せず競技に使用されると電子的記録が残りません。

競技の開始前にEcardの故障が判明した場合は、受付やスタート地区の役員に申し出ることでレンタルカードへの交換が可能です。事前申告によって貸し出されたレンタルEcardは大学別に回収していましたが、交換を受けた場合もレンタルEcardは持ち帰ることのないように回収及び返却をお願いします。

Ecard故障によってバックアップラベル判定で通過証明を行った場合や、アクティベート忘れの場合は、各種の対応によって成績確定の遅れや、速報と演出が正常に機能しなくなります。EcardやSI cardは競技者の責任でご使用いただき、利用方法をよく理解し、仲間にも周知し、円滑に大会が行えるようご協力をお願いいたします。

▼4.4.1 簡易決算報告

本大会において、策定した予算案と決算の結果概略を以下に示す。また、これらについての簡単な解説を行う。



本報告書発行時点で支出面に未確定の部分があるものの、予算案では約40万円の黒字を見込んでいたところ、決算では約100万円の黒字となった。

▽収入詳細

予算案と決算で最も乖離が生じたのは学生参加費の部分である。こちらは予算案策定時にレンタルEカード割引を誤ってレンタルEカード料として計上していたことが参加費回収後に発覚したため、当初の想定より約40万円の収入減となったことが影響している。

プログラム広告収入は例年よりも多くの広告が集まったことにより想定よりも10万円超の増収となっている。

▽支出詳細

予算案より約90万円少ない支出に留まった。大きな要因としては、プログラム・報告書の紙媒体での発行を抑えたことによる印刷費の削減、一部資材の無料レンタルによる資材費の削減、地図作製や渉外等のスケジュールが概ね予定通りに進行したことによる準備費（特に運営者の宿泊・交通費）の圧縮が挙げられる。

▼4.4.2 予算策定

▽支出予算の検討

インカレの大会形態により金額が左右されやすいのは支出面である。本大会においては、プロマッパーによる地図の全面新規作成であり、東海圏・関西圏のOBを中心に実行委員会を組成するという点より、2016年のインカレミドル・リレー（滋賀）をモデルケースに支出を想定した。地図作製費については、早期に地図作製業者より概算費用を頂き計上した。

▽参加費の決定

学生参加費について、基本参加費部分は前年水準に据え置いた。宿泊場所がトレイン周辺のみでは賅えなかった関係もあり、(株)日本旅行様へ委託している宿泊輸送費部分については例年より高額となった。

併設大会参加費については、大会申込受付にJapan-O-entrYを利用したことを考慮し、前年比で一律+500円としている。

▽業務委託契約の締結

本大会では、実行委員会と地図作製業者との間で業務委託契約を結んでいる。地図製作の遅れによる追加費用・作業負担の発生は過去のインカレにおいても課題となっており、業務委託契約の締結は会計的側面でのリスクヘッジに寄与した。

▼4.4.3 予算執行と運用

▽演出費について

支出項目のうち最も運営の裁量が大きく働くのが演出費である。過去のインカレにおいて大型ディスプレイを用いた実況が好評であったため、本大会においてもリレーで大型ディスプレイのレンタルを行うことを前提とし、演出全体で80万円の予算割り振りを行った。

本大会の演出の目玉ともいえるGPSトラッキングについては、GPS端末のレンタル、GPSベスト、トラッキングシステムを限られた予算内で行う必要があり、業者の選定に難航した。結果としては、当初の予定よりも利用できる端末数が少なくなったことと、演出チーフらの尽力とフォルテからの協賛もあり、GPS端末に係る支出は大幅に減じることとなった。GPSベストとトラッキングシステムについても実行委員会内で作成し、成果報酬を経費として拠出することで当初予算より大幅に支出を抑えることが可能となった。演出チーフの椎名様、トラッキングシステムの開発を行った林様、ご協賛いただいた(株)フォルテ様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

▽印刷・資材費について

競技関連資材については事前にYMOE社よりレンタル見積もりを頂いていたため概ね予算通りの支出となった。カラーコーン等、地元からの無料レンタルによりコストを削減できたものも多々あるため、事前渉外の際に資材面の交渉も並行して行うことは重要であるとする。

印刷費については、本大会では紙媒体の重要性の低下のため積極的な削減を図る方針となった。

▽試走・事前準備に係るコストについて

本大会では開催地である中野方町の要望により、大会準備で宿泊を要する場合は現地の農泊を優先的に利用する方針をとった。そのため、利用単価及びキャパシティを考慮し、土日2日間で行う予定だった試走を2週に分けて行う、現地宿泊する運営者を絞り込む等して効率化に取り組み、運営宿泊費を削減した。

▽モデルイベント・オフィシャルレースについて

本大会は選手権クラスと同コースで世界選手権（WOC）の選考会も併設されたため、モデルイベントについても学生以外の参加を認めた。また、オフィシャルレースについても本大会は一般参加を認めた。これらの方策は収入増に寄与した。

▼4.4.4 会計から見る今後のインカレ

▽外部業者へのアウトソース

インカレの支出全体のうち、地図製作費と並んで大きな割合を占めるのが人件費（試走費・事前準備費）である。事前準備においては、特に直前期において純粋なマンパワーを求められることが増え、宿泊費・交通費が多額となってしまう。

本大会では印刷、シーリング等の事務作業の一部をオリエンテーリング事業主へ委託すること

で、事前準備に係る人員の削減を図った。当然、ビジネスとして業務委託を行うため委託コストは発生するが、準備人員の削減による宿泊・交通費の圧縮や、運営負担の軽減、品質の均一化など、メリットも大きい。

近年はオリエンテーリング事業主の独立が増え、外部委託が可能な業務も増加傾向にある。ビジネスとしてのオリエンテーリング業界の振興や、低工数でのインカレ開催を目指す観点からも、今後のインカレでも積極的なアウトソーシングが検討されるべきだろう。

▽演出と予算の関係性

近年のインカレで重要性を増しているのが演出である。本大会では初の試みとしてGPSトラッキングによる実況を導入したが、新たな試みを実施する際には過去の大会では計上していなかった予算を割賦する必要がある、他の費用項目にそのしわ寄せが回る。その為、今後のインカレではより一層、会計と演出担当が予算策定の際に演出の取捨選択について細部まで協議を行うことが求められるだろう。

▽収入源の多様化

支出部分の削減についての努力を行うことは当然であるが、支出の大半は開催地や開催形態によって大きく左右されてしまうことを考慮すると、今後インカレを継続開催していく中で収入面の安定化・増加も求められることとなる。

本大会では従来の参加費・地図収入・プログラム収入に加え、WOCセレの併設とモデルイベント・オフィシャルレースの一般参加を実施し、収入源の多様化に努めた。いずれも金額としては少額であるが、実施にかかる追加コスト・事務負担は大きくなく、今後も収入増強の手段としては検討可能であろう。

▽運営工数に対する対価

オリエンテーリング界隈の大会運営は、無償の奉仕により多くを形成されているのが実態である。近年では運営負担の大きさから、インカレや全日本等の大規模大会では運営の担い手不足が深刻化している。

その他アウトドアスポーツの大会では運営の日当支払い等の形で対価が支払われるケースも多く、インカレにおいても「ボランティアで運営協力をするのが当たり前」というイメージを払拭し、適切な形で運営工数に対する対価が支払われることが担い手不足の解消に向けて肝要であると考えている。

▽今後の参加費設定

インカレミドル・リレーは競技の参加費と宿泊輸送費が不可分である性質上、大学生である参加者からは参加費が高いという印象が持たれやすい傾向がある。しかし、インカレ開催に係る経費の大部分は固定的に発生するものであり、また前述の通り運営者の大多数がボランティアであることを前提として参加費が設定されているため、現行水準を下回る参加費でインカレを開催することは困難であると思料する。

結果的には好条件が重なり決算としては大きく黒字が出ているものの、予算策定の際には参加費増額について度々議論が起こった。運営側がコスト削減に努めることは勿論のこと、インカレの参加費に対するマイナスイメージを是正し、収入の安定化のため柔軟な参加費設定を行える状態となることが望ましいと考える。

5 イベント・アドバイザー報告

イベント・アドバイザー 松澤俊行

5.1 はじめに

今回のインカレは調査依頼0件、表彰式の開始タイミング等スケジュールの多少の変更はあったものの、概ね滞りなく進んだ。また、地元関係者等との大きなトラブルもなく、大会全体としては円満に終了した。出場選手たちや観戦者たちからも数々の高評価のコメントがあった、と聞き及ぶ。自身の競技が大会の印象に影響することは当然で、一部の関係者が後味の悪さを感じながら帰路に就いていたとしても仕方ないが、胸を張って「成功」と総括して良いだろう。

大会を成功に導いた主役はもちろん出場者たちである。そして、会場の空気を熱いものにしてくれた観戦者たちである。さらに、運営者たちの尽力も忘れてはならない。イベント・アドバイザーが実行委員会を称賛したところで身最良のように取られる可能性もあるが、立場上、一步引いた位置から冷静な判断をすることは忘れていないつもりである。読者の方には以下記すことを公平な評価として受け止めていただければ幸いである。

今回の運営は、適切な流れを踏み、着実に進んでいた。従来通りの品質を維持するだけでも相当なことであるが、実行委員会全体として、積極的に新たなチャレンジを行う姿勢も見られた。新たなチャレンジとは、具体的に「選手権リレーの出場選手隔離」「同じくリレーのGPSトラッキングを駆使した演出」「選手権ミドルのスタート抽選動画公開」「選手権ミドルと同一コースでの世界選手権代表選考会受け入れ」「救護スタッフとしてプロ・アスレティックトレーナーの招聘」「チームオフィシャルレースの観戦者への積極開放」などが挙げられる。

細かな業務の進め方については、実行委員会から実行委員会へと資料が引き継がれることであろう。ここでは主に、上記新たな試みの意図と評価、そして少しばかりの提言をまとめておきたい。

5.2 評価と提言

◇選手権リレーの出場選手隔離

競技部門の実行委員から「個人種目同様、リレーも選手権出場選手の出走前隔離を行うべきではないか」との声が挙がった。競技情報を遮断し、公平性、競技性を高める意図である。出走前選手の隔離を行わない3人制リレー（ほとんどのリレー大会がそうである）では、1走から3走への情報伝達が可能となり、それが勝負を分ける要因の一つともなっている。それも悪くはない（その能力を問われることは個人的には歓迎であり、同様の思いの方も多いであろう）が、国際大会のリレーでは隔離が当たり前であることを考えると「国内大会の競技性を先頭で引っ張ってきたインカレ」としては、従来より一段高い水準の競技コントロールを求めるべき、という考えも尤もである。

隔離案は下記GPS演出の導入と共に検討され、実施に踏み切ることとなった。実行委員会では、発表直後は出場選手側にかなりの衝撃を与え、混乱が起こる可能性も想定していたが、伝わる限りそこまでの混乱もなく、予想していた以上に肯定的に受け入れられていると感じられた。競技当日の選手権隔離エリアの選手からは、緊張感と誇りが漂っていた。チームオフィシャル陣からも、事前にエリア内での対応のイメージを済ませ、選手が競技に専念できるよう黙々と支援をしている様子が伝わってきた。一時、トイレの一つが使用不能になった（少し時間を置いて復旧した）ことは申し訳なかったが、公平性、競技性にプラスして「雰囲気」の面で、実行委員会の意図した以上の成果が得られたものと確信している。

今回は段差がある空き地（建物は撤去済みの学校跡）で、それぞれの区画の広さが適度だったという幸運に恵まれた。ただ、運に恵まれただけではなく実行委員会側もいくつもの案を検討し、レイアウトを練りに練っていた。会場の制約上、今回のようにいかないケースもあるかもしれないが、上記「国際標準の競技環境の提供」といった観点からも、リレーでの選手権隔離は今後も続けて欲しいと思う。

◇選手権リレーのGPS演出

選手権出場選手の隔離をするからこそ行える演出手法であった。当日の注目度を見るとこれも「成功」で、今後も「インカレにあると良いもの、あって欲しいもの」として受け入れられたと考えて間違いない。学生併設クラスおよび併設大会出場者の理解が得られたことが大きい。自身の出走前にディスプレイ上で地図を見てしまうわけで、選手権以外のクラスでは競技性がいくぶん減殺されることは否めない。その点を否定、嫌悪する関係者がいたとしても当然である。しかし、多くの方が「オリエンテーリングの魅力を広く伝えるため」という趣旨に賛同してくれたのだと思う。ディスプレイに見入るあまり、「もう自分は走らなくていい、ずっと観ていたい」と言い放った併設出場者もいたという。

大会数ヶ月前の打ち合わせで、実行委員に「事前の周知により期待してもらえたけれど、予想より貧弱で結局誰も注目していない、あるいはシステムが止まってばかりで機能しない、という事態は避けて欲しい」と強く訴えた。実際はそのような事態は起こらず、ディスプレイに映し出された選手たちの動きは大いに注目を集めた。担当者たちは、会場レイアウトの工夫、試走その他での機材の性能テスト、そして綿密な当日の演出プランなどを尽くし、合格ラインを軽々と超える点数をマークしてくれた。リレーでは初めてであったが、過去の実種目インカレでの同様の演出で得られた経験も活きた。今回の経験も次回以降に活かされることだろう。

◇選手権ミドルのスタート抽選動画公開

「式典の簡略化」の観点から実行に移されたアイデアである。開会式に合わせて抽選を行うことは、選手、運営者双方の負担となる。今回の方式でも、待っている時間と発表された瞬間の興奮が公開抽選と比べて劣ることはないだろう。

今回も十分楽しめる「番組」が提供されたと思うが、実行委員長を中心とする進行スタッフたちは「さらに良いものにできるはず」との見解を述べていた。当事者たちが具体的に示していた改善点は「しゃべり」の内容と滑らかさである。次回以降に期待したい。

◇選手権ミドルと同一コースでの世界選手権代表選考会受け入れ

日本オリエンテーリング協会強化委員会からの要請を受け、世界選手権（WOC）フォレストの日本代表選考会を、男女ともミドル選手権クラスと同一コースで行う案が検討された。スケジュールの調整の他、そして選考対象となるにふさわしい競技者が実行委員会内にも少なからずいる点に考慮が必要で、受け入れの可否については議論もあった。しかし、学生と学生以外の選手が真剣勝負を行う貴重な機会となる（学生も、後日あらためて準備をして選考会に臨まなくても良くなる）こともあって、最終的には実現の運びとなった。

フタを開けてみると、かねてから言われていた「インカレパワー」が数字で証明された形となった。今回は学生以外の選手側にいつもと異なるチャレンジ（対策合宿を積み重ね、モデルトレインへ入り、チームオフィシャルのサポートも得られる学生と渡り合うという課題）が求められた、という難しさもあっただろう。今後もインカレでの日本代表選考会併催が継続され、学生と学生以外が競い合い、高め合う流れが定着すれば、日本の競技レベルの向上にもつながると思われる。インカレで活躍し、インカレを「卒業」した若手有力OBOGたちが、インカレ運営と自身の競技力向上とどちらを優先するか、より本気で考えて競技者人生設計（あるいは運営者人生設計）を行うことにもなり、それもまた日本全体にとってプラスとなるだろう。2年に1度のフォレストWOCイヤーだけではなく、間の年も他の国際大会代表を選ぶレースとしてインカレを指定し、毎年継続されることが望ましい。

惜しむらくは、日本代表選考+インカレ選手権の効果によって全日本選手権と同等かそれ以上と思える国内最高レベルの闘いが繰り広げられたレースでありながら、学生以外のオリエンテーリング・ウォッチャーにその点をPRし切れていなかったように思える。WOC選考クラスに出場した十数名の選手たちは、学生たちにインカレシード選手を知って欲しいのと同様、多くの人々に知って欲しい選手たちであるし、事前の持って行き方によってはさらに見応えあるスポーツ・スペクタクルを提供できるはずである。ここは今回の反省点であり、今後の課題としてとらえて欲しい。

◇救護スタッフとしてプロ・アスレティックトレーナーの招聘

今回は、名古屋市内に拠点を構える「良トレ」代表の安藤貴通氏の紹介により、日本スポーツ庁公認アスレティックトレーナーの赤羽誠人氏にミドル・リレー両日の競技時間帯、会場内救護所に常駐していただいた。（安藤氏、赤羽氏は共にオリエンテーリング未経験者である。）当然のことであるが、処置の手際は良く、安心してお任せできた分、オリエンテーリング経験者の実行委員たちはその他の業務に専念できた。安藤氏も赤羽氏も継続的に協力してくださる意図をお持ちのようである。次回以降も相談に乗っていただくと良いだろう。

本件に限らず、地図作成以外の部分にもプロの仕事人の投入が進むことを望む。有償ではあるが、その分のリターンは確実に得られる。インカレの、そしてオリエンテーリング界の外部社会との接点も多くなり、あらゆる面が洗練されていくことだろう。

◇チームオフィシャルレースの観戦者への積極開放

チームオフィシャルレースを「兼 観戦者レース」と位置付けたことで、史上最多の出走者数を集めることができた。選手権リレーと同様、GPS演出と実況放送を施したことにより、注目度も過去最高だった（学生以外の会場滞在者も相当注目していた）と思われる。

演出は事情が許す場合に行う（仮に調査依頼が相次いでいたら今回の演出も違う形となったに違いない）として、観戦者がテレインを走る機会は今後も設定されると良いだろう。リレーの日には「レース展開全てを見ていたいから併設大会には申し込まず、観戦だけする」というOBOGも多く現れる。リレーの大勢が決した後にレースを行うスケジュールが定着すれば、その多くのOBOGにもテレインを走る意欲が生まれ、インカレのさらなる活性化をもたらすかもしれない。

今回は観戦者レースの申し込みを直前（スタート30分前）まで認めたことで、受付業務やキャンセル処理業務が煩雑になった、という反省が残っている。その反省を活かし、改善して欲しい。

ここまで、今回の新しいチャレンジを振り返った。つくづく「実行委員会は、よくぞここまでチャレンジを成功させた」と感じる。繰り返しになるが、これは決して身贔屓ではない。

5.3 イベント・アドバイザー活動記録

参考資料として、今回のインカレでイベント・アドバイザーとして大きな動きをした日を記録しておく。過去のインカレ全般と比べてこの日数が多いか少ないかは分からないが、少なくとも自身が前回イベント・アドバイザーを務めた4年前（2015年3月インカレ）と比べると、1.5～2倍動いたと実感する。4年前は補佐を付けていた（これは実施規則上も認められている）ので当然とも言えるが、「テレインや地図への興味」が原動力となっていたようにも思える。

- 7月29日（日） 試走会
- 9月16日（日） インカレロング会場にて関係者顔合わせ
- 10月21日（日） 試走会
- 12月15・16日（土・日） 試走会 [1泊2日]
- 12月23日（日） 朱雀OK大会後のミーティング
- 2月9・10日（土・日） 試走会 [1泊2日]
- 2月16日（土） テレイン内準備立ち会い
- 2月24日（日） 名古屋大学でミーティング
- 3月2・3日（土・日） 現地2週間前準備
- 3月9・10日（土・日） 現地1週間前準備
- 3月14・15・16・17日（木・金・土・日） 大会期間

大会期間の4日間は、レンタカーを借りて行動した。走行距離の記録を見ると、4日間合計でテレイン内を100km移動していたことになっていた。本当に愛すべきテレインであった。

「実施規則に『インカレ開催中、イベントアドバイザーは、大会会場に常駐し』とあるではないか、動き過ぎではないか」というご指摘は甘んじてお受けしたい。と、同時に「ご勘弁を」とも言わせていただきたい。

5.4 おわりに

12月の打ち合わせで、実行委員に「今回の新しいチャレンジが、全て全面的に肯定されることはないだろう。賛否両論あって当然だ。でも、今回のインカレに立ち会った関係者が5年後に振り返った時『今は当たり前なのだが、初めて試されたのは望郷の森だった』『今と比べたら不足もあったけど、あのインカレで踏み切ったからこそ今がある』と言ってくれるような、そんな大会を目指そう」と呼び掛けた。そこにいた者は皆同じ考えだったようで、大きく頷いてくれた。

大会直後には同じ関係者たちに「今回のインカレは今後の一つの指標や手本になる」と話し、こちらも頷いてもらえた。

この原稿を記しているのは大会から2ヶ月半後である。今は、今回のインカレは大いに次回のインカレの手本になって欲しい、しかし5年後には「あのインカレ運営も頑張っていたようだけど、今と比べたらやはり5年前なりのものだったね」と言われるようであって欲しい、と思っている。

6 将来への提言

実行委員長 築地孝和

6.1 はじめに

本章では、本大会を運営していく中で得た所感をまとめ、インカレ実施規則12条に則り、将来への提言とする。次年度以降に活かして頂ければ幸いである。

6.2 リレー競技（女子選手権）3区間等距離について

過去5年間のインカレリレー（女子選手権）を振り返ると、2014、2016、2017年度は3区間等距離となっている一方、2013、2015年度は2走短縮方式が採用されている。

（これらの経緯については過去の報告書を参考されたい）

本大会では、

- インカレ選手権の部は選手権校を決めるための大会であり、実施規則14.2にあるように「インカレに的確」な水準のコースを用意する必要があること
- 下表に示す通り、上位校同士の間には3区間等距離であっても2走短縮であっても実力に大きな差は見られないこと
- 2走短縮方式を採用した場合、コース設定の負担が大幅に増加してしまうこと

を踏まえ、3区間等距離とした。

大会を終えて振り返ってみてもこの判断は間違っておらず、インカレとしての確かなコースを提供できたのではないかと考えており、次年度以降も3区間等距離を継続していくのがいいのではないかとと思われる。

表. 2013年度～2018年度インカレリレー 女子選手権上位校タイムおよびトップ比

		優勝	準優勝	3位	4位	5位	6位
2013年度 ※2走短縮	大学名	お茶の水女子大学	横浜市立大学	椋山女学園大学	金沢大学	新潟大学	東北大学
	タイム	2:07.27	2:15.00	2:18.37	2:26.12	2:41.21	2:49.24
	トップ比	—	109%	109%	115%	127%	133%
2014年度	大学名	椋山女学園大学	金沢大学	早稲田大学	京都女子大学	宮城学院女子大学	名古屋大学
	タイム	2:18.33	2:25.49	2:27.53	2:42.18	2:46.25	2:46.39
	トップ比	—	109%	107%	117%	120%	120%
2015年度 ※2走短縮	大学名	東北大学	立教大学	椋山女学園大学	東京大学	筑波大学	大阪大学
	タイム	2:06.45	2:12.02	2:15.21	2:19.54	2:21.44	2:28.20
	トップ比	—	104%	107%	110%	112%	117%
2016年度	大学名	東北大学	筑波大学	実践女子大学	金沢大学	名古屋大学	千葉大学
	タイム	2:17.01	2:24.18	2:29.24	2:29.32	2:33.33	2:39.23
	トップ比	—	109%	109%	109%	112%	116%
2017年度	大学名	千葉大学	東北大学	名古屋大学	フェリス学院大学	新潟大学	立教大学
	タイム	2:21.09	2:21.15	2:24.04	2:31.29	2:40.10	2:44.04
	トップ比	—	100%	102%	107%	113%	116%
2018年度	大学名	筑波大学	東北大学	立教大学	千葉大学	茨城大学	横浜市立大学
	タイム	2:03.49	2:12.14	2:16.09	2:31.56	2:37.21	2:45.08
	トップ比	—	107%	110%	123%	127%	133%

6.3 選手権リレーの特例措置について

他学校とチームを組んでリレーの選手権クラスに出場できる特例措置については、日本学連からの要望に沿う形で認可した。ここで学生にご理解頂きたいことは、「あくまで特例措置については、実施規則ではなく、日本学連から実行委員会に要望があることで、初めて認められる」ということである。毎年実行委員会に要望を頂いているものでもあるので、議論の過程で実施規則への記載等をご検討いただきたい。

6.4 リレー競技部門一般の部 個人競技へのエントリー変更について

リレー競技部門一般の部において、例年大会前日16:00のエントリー締め切りまでならば事前に登録したチーム数の範囲内で自由にチーム編成が可能であり、リレー出場予定であった選手が個人競技に出場変更ということも現状のシステムでは可能である。

しかし、そういった選手についてはクラス変更により新たなスタートナンバー（＝ゼッケン番号）が割り当てられることとなり、それに伴い新たな地図・ゼッケンを用意する必要も生じるため、運営にとっては負担となる。（一見大した負担ではないかと思うかもしれないが、ミドル競技が終了し宿に戻ってから作業できる時間はごくわずかであり、運営者にとっては些細な作業でも思った以上の負担となる）また、変更人数は大会前日まで確定できないため、運営としては若干多めの予備ゼッケンや予備地図を用意する必要が生じるため、印刷地図枚数やゼッケン発注の面で無駄も生じている。

このような問題を解決するためには、リレー競技においてはチーム編成のみを可能とし、リレー競技・個人競技それぞれの出場者数は大会エントリー時点から一切の変更を認めないというのも1つの手ではないかと考えている。（欠員が出たチームについては、1走フィニッシュもしくは2走フィニッシュを可とする）もちろんこの方法にも、計センでの欠席入力が必要となることや参加者の満足度に悪影響（リレー競技なのにチームとして完走できない）を及ぼし得る等デメリットは存在しており、ベストな方法ではないのは承知している。

次年度以降の実行委員会の方には、従来の方法も含めさまざまな方法のメリット・デメリットを総合的に考慮したうえで、より良い方法を見つけていただければ幸いである。

6.5 GPSトラッキングシステム導入について

今回はインカレスプリントロングでは導入されていたGPSを用いた実況を行った。株式会社フォルテ様のご協力のおかげさまで、GPSトラッキングシステムは無事に機能し、リレー観戦を大きく盛り上げた。一方で初めての導入であることで、様々な懸念や改善点が出たので、以下に記載する。

なお、GPSシステムを用いた演出の詳細については4.4にも記載しているため、そちらを参照されたい。

▼6.5.1 リレーのみの導入になった経緯

大きな要因として、2点あげられる。

1点目は、本インカレではミドル競技とリレー競技において同一のエリアを多く利用することになっていたため、ミドルでGPSトラッキングシステムを用いた実況をした場合に地図が何らかの形（例えば、写真・動画など）で保存され、リレー前に地図を使った対策がされ得ることで、競技の公平性や競技自体の面白さを大きく損なってしまうことが懸念されたことである。

なお、2017年度インカレミドルリレーのように、ミドルとリレーで完全にエリア分けが為されているのならば、このような問題は生じない。

2点目は、大型ディスプレイの費用が嵩むことである。1日借りるだけでも40万円程度と大きな支出となり大会会計を圧迫することとなるため、今回は両日の利用は見送ることとなった。

▼6.5.2 リレー選手権2走3走隔離について

選手権の部出場選手が出走前に観戦用地図を見ることのないよう、大型ディスプレイが見えない位置への2走3走選手およびオフィシャルの隔離を行った。トイレや次走者待機所・チェンジオーバーエリアなどを、一般の部とは別途容易しないといけなため、レイアウト決めに多くの時間を要した。また、会場が狭いと、レイアウト決めが非常に難しくなると思われるので、会場選定が決まり次第レイアウトを早めに決定すること、もしくは事前に隔離を行うことが決定しているのならば、隔離可能な広さを有していることを前提条件としたうえで会場を選定することを推奨する。

▼6.5.3 GPS装着校について

今回、GPS端末の数には限りがあったため、GPSトラッキング対象校は男女各7大学の選手に限定することとした。装着対象校は、前年度入賞校の6校に今年度活躍が期待された大学男女各1校を加えたものである。実行委員会としては、GPS端末の有無が競技に及ぼす影響はないと考え全チームが装着することを前提に考えていたが、万が一装着したくないとの要望があった際には認める方針であった。幸いなことに、すべてのチームから苦情も無くご協力をいただくことができた。

今回トラッキングシステム対象とした大学はおおよそ入賞争いに絡み、会場を大いに盛り上げた点についてはよかったが、次項で説明する通り、実況の面で課題が残る結果になった。GPSトラッキングシステム自体は好評であったため、今後も継続して使用することをぜひお勧めしたい。

▼6.5.4 実況について

今回はコースプランナーとイベントアドバイザーを実況者として、隔離されている選手と同じ状況下で実況することにした。この措置の理由は、極力実況者からコースに関する情報が発信されるのを除去するためである。なお、WOCなどの世界大会では、この限りではなく、次走者がコースの情報を実況から得ることができるようなので、今後実況方法をご検討いただきたい。

また、前項に関することで、Lap Centerの速報が正常に機能しなかったことと重なり、GPS装着対象校でない選手の活躍が注目されにくい状態となっていた。この点については、実況や演出方法を工夫し、活躍するすべての選手が注目されるように改善できるだろう。

6.6 スタート抽選について

今回、恵那市内で開会式開催可能な場所のほとんどが、大会期間中に工事が入ってしまっていたため、恵那市民会館の体育館で行うことになった。この体育館は老朽化が進んでおり、かつ、舞台が使えない等の問題があったため、当日は開会式およびシード選手インタビューのみ行うこととした。

スタート抽選がインカレミドルリレーの中でも注目のイベントであることは承知であったため、なんとか代用イベントを開催できないかと実行委員会でも検討し、考え付いたのが、YouTubeによるスタートリスト公開生放送である。至らぬ点が多く反省点はたくさんあるが、例年のスタート抽選のようなエンターテインメントを提供できたのではないかと感じている。

今回の経験により、開会式がなくてもWebサービスの有効活用により大会演出を盛り上げることができる可能性が示されたため、あくまで余裕があればだが、インカレスプリントロングでも同様にスタート抽選を行ってみるのはよい試みではないだろうか。また、インカレミドルリレーにおいても、日光地区のように開会式会場が限られている場合は開会式は簡素化し、スタートリスト公開等のイベントは生放送のみにするといった大胆な変更を行うのも一つの案だろう。

6.7 地図販売について

インカレで使用する地図は販売需要が高く、地図売り上げは大会会計の重要な財源ともなるため、できるだけ売り切れることのないように準備する必要がある。一方、コースが非常に多く参加者の需要もさまざまであるため、販売需要を的確に予想することは難しい。今回のインカレではこれを大幅に見誤り、一般クラスにて多くの地図余りを生じさせてしまった一方、一部コースにおいて売り切れを発生させてしまった。これは、参加者の満足度低下や大会会計の圧迫、さらには余った地図の片付け負担増にも繋がるため、ぜひとも解消すべき問題である。

そのためには、最近になっていくつかの大会で見られるようになったが、「事前申し込み」を採用するのが良いのではないかと考えている。（今大会でも会計責任者から提案はあったが、スケジュール等の都合により実現には至らなかった）これは、上記問題を解決するだけでなく、事前に地図を仕分けておくことで、大会当日の地図受け渡しも効率化も為されるため、本実行委員会としては強く推奨する。

6.8 宿泊輸送について

今回も例年通り、日本旅行様を通して実行委員会が指定する宿への宿泊や交通手段の使用を原則義務付けた。また、冠婚葬祭等やむを得ない理由により宿泊ができない学生のために不泊対応を実施した。

キャンセルや不泊申請では、日本旅行へ直接連絡するのではなく、実行委員会の申し込み担当者

へ連絡するようとしていたが、実行委員会と日本旅行様間で連絡ミスが発生することがあった。今後は実行委員会の担当者だけでなく、日本旅行様も宛先に入れるようにしたほうがいいと思われる。ただし、実行委員会か日本旅行様が許可した場合を除き、宿への直接連絡はしないようにすることは、トラブル回避のために、今後も継続していただきたい。

6.9 おわりに

この度初めてインカレを運営させていただき、運営者目線でインカレってすごいなぁと感じることができました。今回は大きな問題もなく進めることができたため、通常の大会よりかは疲れる場面があっても、総じて楽しんで運営することができました。毎年これだけの規模の、超良質大会が行われるのは今まで積み上げられてきたこの大会に懸ける思いがあるからだと思っています。今後もそのような大会であってほしいので、少しずつ関わっていきたいです。また、ちょっとでもインカレってすごいなぁとか、もっといいインカレにできるでしょとか、そういうふうと思う参加者がいれば、ぜひインカレに運営者という立場で関わってくれればうれしいです。この度は本当にありがとうございました。

7 ミドル競技部門 スタートリスト

★印はシード選手です。

ME(1/2) 参加人数64		
スタート時刻	氏名	学校・学年
12:00	下江健史	広島大学3
12:02	前野達也	名古屋大学4
12:04	川名峻介	東京農工大学3
12:06	岩垣和也	名古屋大学3
12:08	長谷川望	早稲田大学3
12:10	西嶋就平	名古屋大学4
12:12	滝沢壮太	新潟大学2
12:14	大田将司	一橋大学4
12:16	桃井陽佑	慶應義塾大学3
12:18	山本哲也	金沢大学3
12:20	松本萌希	京都大学4
12:22	新田見優輝	東京大学4
12:24	森田夏水	早稲田大学3
12:26	瀧下真一	静岡大学4
12:28	高本育弥	東北大学4
12:30	福留悠斗	金沢大学2
12:32	島崎誠也	東北大学3
12:34	早川徹彦	東京農工大学3
12:36	吉田涼哉	金沢大学3
12:38	川島聖也	神戸大学3
12:40	楠健志	筑波大学4
12:42	谷口文弥	東京大学4
12:44	小原和彦	東京工業大学4
12:46	森川周	東京大学2
12:48	齋藤佑樹	早稲田大学4
12:50	伴広輝	京都大学4
12:52	金子哲士	東北大学2
12:54	★大橋陽樹	東京大学3
12:56	浜野奎	慶應義塾大学4
12:58	藺部駿太	東北大学2
13:00	古池将樹	京都大学2
13:02	★三浦一将	名古屋大学3
13:04	小川一真	早稲田大学2
13:06	北見匠	東北大学3
13:08	渡辺鷹志	慶應義塾大学3
13:10	★佐藤遼平	東京大学4
13:12	上野康平	東京工業大学4
13:14	太田知也	京都大学2
13:16	鈴木皓紀	新潟大学2
13:18	★岩井龍之介	京都大学3
13:20	小谷淳史	名古屋大学4
13:22	佐藤誠也	東北大学4
13:24	森河俊成	京都大学3
13:26	★伊藤樹	横浜国立大学4
13:28	櫻井一樹	東京工業大学2
13:30	林雅人	名古屋大学4
13:32	桃本一輝	大阪大学2
13:34	★長岡凌生	東北大学3
13:36	川崎翔	茨城大学4
13:38	殿垣佳治	東京大学4
13:40	鳥居洸太	東北大学3
13:42	★種市雅也	東京大学3
13:44	嶋崎涉	東北大学2
13:46	宮本樹	東京大学4
MEスタートリストは右上に続く		

ME(2/2)		
スタート時刻	氏名	学校・学年
13:48	竹内公一	名古屋大学4
13:50	★稲森剛	横浜国立大学4
13:52	唐木朋也	東北大学2
13:54	濱宇津佑亮	東京大学4
13:56	大森総司	名古屋大学2
13:58	★上島浩平	慶應義塾大学4
14:00	小牧弘季	筑波大学2
14:02	大石洋輔	早稲田大学2
14:04	田中創	大阪大学4
14:06	★柴沼健	早稲田大学4

WE 参加人数35		
スタート時刻	氏名	学校・学年
12:01	村田菜奈美	フェリス学院大学4
12:03	小林祐子	東北大学2
12:05	平松夕衣	横浜市立大学4
12:07	宮本和奏	筑波大学2
12:09	立花和祈	実践女子大学4
12:11	金澤めぐみ	奈良女子大学4
12:13	森谷風香	千葉大学4
12:15	松田千果	横浜市立大学2
12:17	永山尚佳	神戸大学1
12:19	進藤緑里	岩手大学2
12:21	佐久間文香	新潟大学4
12:23	臼井沙耶香	東北大学4
12:25	高橋利奈	日本女子大学3
12:27	高橋ひなの	東北大学4
12:29	香取瑞穂	立教大学2
12:31	河村優花	名古屋大学3
12:33	世良史佳	立教大学2
12:35	山根萌加	京都大学1
12:37	★増澤すず	筑波大学3
12:39	青代香菜子	東北大学3
12:41	出田涼子	大阪大学3
12:43	香取菜穂	千葉大学4
12:45	★佐野萌子	京都女子大学4
12:47	飯田涼芳	実践女子大学3
12:49	山岸夏希	筑波大学4
12:51	小林美咲	十文字女子大学3
12:53	★勝山佳恵	茨城大学4
12:55	佐藤珠穂	法政大学2
12:57	伊佐野はる香	東北大学4
12:59	木村るび子	立教大学4
13:01	★高橋友理奈	東北大学4
13:03	八木千尋	東京農工大学4
13:05	明田彩里	椙山女学園大学1
13:07	清野幸	横浜国立大学2
13:09	★伊部琴美	名古屋大学2

8 公式成績

DISQは失格、DNSは未出走を意味します。
記録に時間があっても順位がついていないのは競技時間超過です。

8.1 ミドル・ディスタンス競技部門

ME 参加人数64名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	伊藤樹	横浜国立大学4	0:34:24
2	稲森剛	横浜国立大学4	0:36:14
3	上島浩平	慶應義塾大学4	0:37:51
4	竹内公一	名古屋大学4	0:38:15
5	森河俊成	京都大学3	0:39:06
6	種市雅也	東京大学3	0:39:49
7	長岡凌生	東北大学3	0:39:50
8	岩井龍之介	京都大学3	0:40:20
9	大田将司	一橋大学4	0:40:28
10	北見匠	東北大学3	0:40:43
11	宮本樹	東京大学4	0:41:34
12	小牧弘季	筑波大学2	0:41:48
13	濱宇津佑亮	東京大学4	0:42:00
14	柴沼健	早稲田大学4	0:42:24
15	新田見優輝	東京大学4	0:43:07
16	佐藤遼平	東京大学4	0:43:20
17	伴広輝	京都大学4	0:43:29
18	嶋崎涉	東北大学2	0:43:38
19	川島聖也	神戸大学3	0:43:51
20	田中創	大阪大学4	0:44:32
21	殿垣佳治	東京大学4	0:45:02
22	大石洋輔	早稲田大学2	0:45:14
23	鳥居洸太	東北大学3	0:45:30
24	長井健太	東京農工大学	0:45:41
25	藺部駿太	東北大学2	0:45:59
26	谷口文弥	東京大学4	0:46:01
27	大橋陽樹	東京大学3	0:46:15
28	三浦一将	名古屋大学3	0:46:24
29	渡辺鷹志	慶應義塾大学3	0:46:46
30	小原和彦	東京工業大学4	0:47:07
31	前野達也	名古屋大学4	0:47:12
32	櫻井一樹	東京工業大学2	0:47:30
33	佐藤誠也	東北大学4	0:47:37
34	浜野奎	慶應義塾大学4	0:48:01
35	松本萌希	京都大学4	0:48:03
36	林雅人	名古屋大学4	0:48:05
37	高本育弥	東北大学4	0:48:19
38	岩垣和也	名古屋大学3	0:48:33
39	桃井陽佑	慶應義塾大学3	0:49:19
40	太田知也	京都大学2	0:49:30
41	森田夏水	早稲田大学3	0:50:15
42	川名竣介	東京農工大学3	0:50:37
43	早川徹彦	東京農工大学3	0:50:50
44	桃本一輝	大阪大学2	0:51:12
45	金子哲士	東北大学2	0:53:01
46	島崎誠也	東北大学3	0:53:09
47	楠健志	筑波大学4	0:54:18
48	鈴木皓紀	新潟大学2	0:54:38
49	長谷川望	早稲田大学3	0:55:04
50	福留悠斗	金沢大学2	0:55:09
51	小谷淳史	名古屋大学4	0:55:41

ME 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
52	下江健史	広島大学3	0:58:18
53	吉田涼哉	金沢大学3	0:58:56
54	瀧下真一	静岡大学4	0:59:00
55	森川周	東京大学2	0:59:18
56	上野康平	東京工業大学4	1:03:42
57	小川一真	早稲田大学2	1:04:13
58	西嶋就平	名古屋大学4	1:04:14
59	滝沢壮太	新潟大学2	1:04:21
60	山本哲也	金沢大学3	1:04:24
	大森総司	名古屋大学2	1:11:14
	古池将樹	京都大学2	DISQ
	川崎翔	茨城大学4	DISQ
	唐木朋也	東北大学2	DISQ

WE 参加人数35名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	増澤すず	筑波大学3	0:33:56
2	高橋友理奈	東北大学4	0:35:00
3	佐野萌子	京都女子大学4	0:37:09
4	木村るび子	立教大学4	0:37:16
5	山岸夏希	筑波大学4	0:37:50
e6	勝山佳恵	茨城大学4	0:37:54
7	香取菜穂	千葉大学4	0:39:16
8	小林祐子	東北大学2	0:39:40
9	永山尚佳	神戸大学1	0:40:10
10	香取瑞穂	立教大学2	0:41:12
11	高橋ひなの	東北大学4	0:41:15
12	河村優花	名古屋大学3	0:41:42
13	高橋利奈	日本女子大学3	0:43:35
14	青代香菜子	東北大学3	0:43:52
15	伊佐野はる香	東北大学4	0:44:09
16	村田菜奈美	フェリス学院大学4	0:44:32
17	立花和祈	実践女子大学4	0:44:54
18	小林美咲	十文字女子大学3	0:45:11
19	飯田涼芳	実践女子大学3	0:45:59
20	伊部琴美	名古屋大学2	0:46:17
21	清野幸	横浜国立大学2	0:46:35
22	臼井沙耶香	東北大学4	0:46:36
23	山根萌加	京都大学1	0:47:12
24	宮本和奏	筑波大学2	0:47:53
25	世良史佳	立教大学2	0:48:04
26	森谷風香	千葉大学4	0:50:29
27	進藤緑里	岩手大学2	0:53:48
28	出田涼子	大阪大学3	0:58:55
29	金澤めぐみ	奈良女子大学4	0:59:24
30	佐久間文香	新潟大学4	0:59:50
31	佐藤珠穂	法政大学2	1:01:50
32	平松夕衣	横浜市立大学4	1:04:39
33	松田千果	横浜市立大学2	1:07:03
	明田彩里	椙山女学園大学1	1:55:23
	八木千尋	東京農工大学4	DISQ

MUA1 参加人数68名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	伊藤光祐	東北大学3	0:25:22
2	湯浅博晶	北海道大学3	0:27:39
3	若松甫	東京工業大学3	0:29:50
4	原田慧吾	慶應義塾大学4	0:30:28
5	鶴原啓	東京大学2	0:31:17
6	中村僚宏	東京大学2	0:32:06
7	裕田捷将	大阪大学3	0:33:19
8	水田達也	東北大学3	0:33:41
9	丸山真輝	東北大学4	0:35:01
10	澤田陸	名古屋大学3	0:35:06
11	高見澤翔一	一橋大学3	0:35:22
12	篠原幹博	京都大学2	0:35:28
13	小山正伍	筑波大学2	0:35:30
14	根本夏林	東京大学2	0:35:48
15	松本陸	岩手大学3	0:35:55
16	本田明良	静岡大学2	0:36:39
17	前田典歩	筑波大学2	0:37:07
18	池田京史	千葉大学3	0:37:27
19	松本明訓	東京大学2	0:37:31
20	古川智也	金沢大学4	0:37:40
21	加藤翔伍	静岡大学2	0:37:59
22	周藤裕	岩手大学4	0:38:02
23	久保川和馬	東京大学2	0:38:15
24	宮下旺	横浜国立大学4	0:39:01
25	河合郁弥	京都大学2	0:40:10
26	石田健太郎	早稲田大学2	0:40:15
27	内海瞭	早稲田大学3	0:40:19
28	小野裕登	東京農工大学3	0:40:41
29	沖中陽幸	京都大学3	0:40:56
30	白旗洸太	北海道大学2	0:41:05
31	菅沼友仁	茨城大学2	0:41:26
32	濱崎誠士	大阪大学2	0:41:48
33	中尾莞人	新潟大学2	0:42:12
34	村山泰眸	千葉大学2	0:44:02
35	森田涼介	名古屋大学2	0:44:54
36	小松宗一郎	新潟大学4	0:44:55
37	後藤和樹	一橋大学3	0:45:08
38	窪田信司	大阪大学2	0:45:55
39	清水慎太郎	広島大学2	0:46:09
40	渡邊俊祐	東京理科大学3	0:46:11
41	古屋洸	東北大学3	0:46:24
42	鈴木京佑	横浜市立大学2	0:46:29
43	小田切佑樹	福島大学3	0:47:14
44	日吉将大	金沢大学4	0:47:43
45	井上祐人	名古屋大学2	0:47:56
46	小池一輝	一橋大学4	0:48:14
47	古村淳吉	北海道大学3	0:48:45
48	浴歩輝	東京工業大学2	0:49:16
49	村上洸	東北大学4	0:49:21
50	山田大雅	中央大学2	0:49:30
51	飯田晟樹	名古屋大学2	0:50:13
52	押切嶺於	東京農工大学2	0:50:30
53	久米悠介	東北大学3	0:50:47
54	木下達仁	一橋大学3	0:51:10
55	小林亮太	岩手県立大学2	0:52:23
56	柏谷翔大	茨城大学2	0:52:24
57	比企野純一	東京大学3	0:52:30
58	本多一成	千葉大学2	0:53:29
59	佐藤太一	新潟大学2	0:56:33
	山口龍哉	千葉大学3	1:03:19

MUA1 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
	奥脇琢朗	新潟大学2	1:07:27
	林俊充	岩手県立大学3	DISQ
	池田順一	神戸大学3	DISQ
	三好将史	早稲田大学3	DISQ
	鎌田和希	新潟大学2	DISQ
	宇佐美明秀	静岡大学2	DNS
	石田大地	新潟大学3	DNS
	伊藤拓馬	東北大学2	DNS

MUA2 参加人数67名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	小池棕介	京都大学3	0:27:29
2	小寺義伸	東京工業大学2	0:27:53
3	神谷孫斗	金沢大学4	0:29:20
4	大野絢平	京都大学3	0:29:47
5	石川創也	名古屋大学2	0:31:04
6	豊田健登	茨城大学2	0:31:11
7	古殿直也	東京工業大学2	0:31:20
8	森元駿介	横浜国立大学4	0:31:23
9	椎名渉	東京工業大学4	0:31:27
10	松本諒	福島大学2	0:32:09
11	五十嵐央人	金沢大学2	0:32:13
12	山本明史	京都大学4	0:32:23
13	豊田伸平	東京大学4	0:33:13
14	澤入圭司	静岡大学3	0:33:43
15	得能渉	千葉大学2	0:33:53
16	長谷川拓海	新潟大学2	0:34:59
17	神野直紀	東京工業大学4	0:35:05
18	宮嶋哲矢	千葉大学2	0:35:15
19	山崎星雅	京都大学2	0:35:33
20	稲島一真	金沢大学2	0:36:14
21	池田直樹	東京大学2	0:36:49
22	江野弘太郎	慶應義塾大学2	0:37:01
23	衣笠舜登	京都大学2	0:37:27
24	柊澤朋之	北海道大学3	0:37:32
25	亀家貴志	京都大学2	0:37:33
26	西平楽	東北大学2	0:37:37
27	二瓶勢真	金沢大学3	0:37:58
28	石渡望	東北大学2	0:38:38
29	金城和志	大阪大学2	0:38:50
30	西村肇倫	東北大学4	0:39:16
31	石井悠太	横浜国立大学4	0:39:16
32	石井大成	新潟大学4	0:39:37
33	大塚駿	東北大学3	0:39:58
34	本村汰一郎	金沢大学4	0:40:09
35	長谷川野	岩手県立大学2	0:40:44
36	佐藤健斗	横浜国立大学2	0:40:58
37	小平修	東北大学4	0:41:29
38	森山凌佑	千葉大学2	0:41:38
39	岩崎正嗣	東北大学4	0:42:04
40	豊澤義文	東京工業大学2	0:42:14
41	山本智士	名古屋大学3	0:42:44
42	住吉将英	名古屋大学2	0:42:49
43	磯邊岳晃	千葉大学2	0:42:59
44	大石征裕	東京農工大学2	0:43:20
45	清水直	東京大学4	0:44:42
46	望月ヤマト	茨城大学3	0:44:53
47	桑山倫博	静岡大学3	0:45:01
48	高橋洸太	東京工業大学2	0:49:21
49	篠崎崇智	東北大学2	0:49:47

MUA2 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
50	藤田純矢	東京工業大学3	0:50:03
51	米沢嘉彦	千葉大学4	0:51:06
52	後藤幸大	東京大学3	0:53:07
53	山田光輝	横浜国立大学3	0:56:16
54	星歩夢	東北大学2	0:56:41
55	山本洵哉	東京工業大学2	0:56:54
56	天木祐希	東京工業大学2	0:58:05
	高野橋侑大	福島大学3	1:02:20
	田村和士	東京農工大学2	1:24:15
	七五三碧	茨城大学3	DISQ
	深津圭祐	新潟大学2	DISQ
	伊藤拓登	静岡大学2	DISQ
	岡田怜真	東京工業大学3	DISQ
	種澤遼太郎	東北大学3	DISQ
	細川風輝	静岡大学2	DISQ
	長井健太	東京農工大学4	DNS
	今井雅啓	北海道大学2	DNS
	岡本洸彰	東京大学4	DNS

MUA3 参加人数67名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	谷口恵祐	東北大学3	0:24:23
2	奥尾優理	茨城大学4	0:26:22
3	保莉優	東北大学2	0:26:39
4	谷野文史	筑波大学2	0:28:08
5	河北拓人	筑波大学3	0:28:31
6	金津怜央奈	名古屋大学3	0:28:55
7	伊藤祐	筑波大学2	0:28:58
8	上村太城	慶應義塾大学3	0:29:24
9	石田悠人	大阪大学4	0:29:32
10	山田基生	東北大学2	0:29:59
11	清水有希	金沢大学2	0:30:40
12	三瀬遼太郎	早稲田大学3	0:30:53
13	外石裕太郎	新潟大学3	0:31:35
14	高松涼	福島大学4	0:32:08
15	佐藤公洋	東京大学3	0:32:18
16	佐藤世帆	岩手大学3	0:32:30
17	津田卓磨	横浜国立大学2	0:32:51
18	高橋郁磨	岩手大学4	0:32:58
19	青芳龍	東北大学3	0:33:06
20	遠藤匠真	大阪大学4	0:33:55
21	丸山ゆう	京都大学2	0:34:23
22	鈴木大喜	筑波大学3	0:34:26
23	濱口広	新潟大学2	0:34:43
24	南吏玖	名古屋大学2	0:35:13
25	三上拓真	東京大学4	0:35:30
26	鳩力乃助	筑波大学3	0:35:51
27	吉原幸輝	大阪大学4	0:36:21
28	屋口正鷹	早稲田大学2	0:36:36
29	尾山直駿	東京工業大学3	0:36:48
30	三浦開登	東京工業大学2	0:38:23
31	大田雄哉	慶應義塾大学3	0:39:06
32	長江有祐	東京大学3	0:39:13
33	森泉達貴	早稲田大学4	0:39:24
34	木下雄大	京都大学3	0:42:08
35	菅野正太	福島大学2	0:43:36
36	関塚大誠	東京理科大学3	0:43:37
37	天野克則	名古屋大学2	0:43:49
38	櫻木嵩斗	東京工業大学2	0:43:52
39	山下政泰	新潟大学3	0:46:24

MUA3 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
40	芦本陸	名古屋大学3	0:47:19
41	瀬田龍之介	金沢大学2	0:47:20
42	上野渉	東北大学4	0:47:39
43	鈴木康熙	名古屋大学3	0:47:51
44	谷平光一	名古屋大学2	0:47:58
45	飯田泰史	東京大学3	0:48:00
46	櫻井悠斗	新潟大学2	0:48:27
47	法月奏太	東京工業大学3	0:48:49
48	奥田陸	千葉大学3	0:49:18
49	北川賢也	横浜市立大学4	0:50:07
50	八木勇亮	名古屋大学2	0:51:03
51	榎森康晴	東京工業大学2	0:52:00
52	西田成佑	東京大学4	0:52:10
53	豊國郁人	京都大学3	0:52:48
54	丹治洸太郎	福島大学3	0:53:29
55	坂上弘輝	横浜市立大学4	0:53:56
56	熊谷新吉	岩手大学3	0:54:58
57	藤永拓	静岡大学2	0:55:21
	高橋和総	横浜市立大学4	1:02:04
	山下聡太	北海道大学2	1:02:20
	島田雄史	東京工業大学4	1:09:50
	尾崎涼太	大阪大学4	1:18:06
	児玉涼太	群馬大学3	DISQ
	小泉惇平	東北大学4	DISQ
	岩佐一大	千葉大学2	DISQ
	瀬川桃加	東京工業大学4	DISQ
	藤本卓嗣	北海道大学3	DISQ
	青田正樹	新潟大学4	DNS

MUA4 参加人数67名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	横堀聖人	東京大学4	0:25:46
2	塩平真士	北海道大学4	0:27:06
3	石田晴輝	東京大学3	0:28:02
4	椎名晃丈	東京大学2	0:28:12
5	渡邊大地	東北大学3	0:28:12
6	棚橋一樹	名古屋大学2	0:28:30
7	大倉峻吾	東京工業大学3	0:30:27
8	石崎建	金沢大学2	0:30:29
9	清水俊祐	慶應義塾大学3	0:30:48
10	安部智晴	名古屋大学2	0:31:45
11	石森晃	東北大学2	0:31:49
12	黒澤祐貴	東北大学4	0:32:13
13	渡邊寛希	金沢大学2	0:32:17
14	石田尚大	岩手大学3	0:32:52
15	井上雄斗	東北大学4	0:33:57
16	常見圭汰	新潟大学3	0:33:59
17	河野貴大	東京工業大学2	0:34:16
18	小池剛大	東京農工大学2	0:34:37
19	村井智也	東京大学4	0:34:39
20	菅野裕貴	横浜市立大学2	0:34:53
21	南雲裕貴	名古屋大学3	0:34:58
22	山川登	東京大学3	0:35:28
23	稲岡雄介	大阪大学4	0:35:28
24	深野広大	慶應義塾大学4	0:35:35
25	茂原瑞基	慶應義塾大学3	0:36:05
26	吉田薪史	大阪大学2	0:36:58
27	西下遼介	慶應義塾大学3	0:37:13
28	高野智也	東北大学2	0:37:24
29	坂本健悟	東北大学2	0:37:52

MUA4 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
30	倉地草太	北海道大学2	0:38:13
31	青木健悟	名古屋大学4	0:38:18
32	高野陽平	神戸大学2	0:38:40
33	茶谷知哉	名古屋大学3	0:39:20
34	藤本翔太	東京工業大学4	0:39:27
35	藤原真吾	関東学院大学3	0:39:28
36	板橋侑樹	東京農工大学2	0:40:41
37	田口滉一	東京工業大学3	0:41:21
38	出原優一	東京大学4	0:42:06
39	佐藤和真	神戸大学4	0:42:38
40	松崎竜也	東京農工大学3	0:42:46
41	柏田芳樹	一橋大学2	0:43:50
42	到津春樹	茨城大学2	0:43:54
43	柳康太	東京工業大学2	0:45:51
44	藤本拓也	京都大学3	0:45:54
45	堀江直人	東北大学2	0:46:00
46	水流尚樹	千葉大学2	0:46:16
47	川口真司	名古屋大学3	0:47:50
48	橋本勇士	千葉大学2	0:48:04
49	板岡拓郎	金沢大学3	0:48:15
50	大野弘人	北海道大学3	0:50:46
51	八重樫篤矢	東北大学3	0:51:05
52	庄司晃太	東京工業大学2	0:51:24
53	土屋祐太郎	京都大学2	0:52:39
54	生田峻	関東学院大学2	0:52:53
55	片岡佑太	大阪大学2	0:53:01
56	室谷拓治	東北大学3	0:56:28
57	小森達郎	金沢大学2	0:56:48
58	土井一輝	新潟大学2	0:57:57
59	柴山大侑	新潟大学2	0:58:14
	相馬健太	名古屋大学2	1:14:43
	紅林亮平	静岡大学2	1:15:57
	須田真人	福島大学4	1:40:00
	戸澤貴志	横浜国立大学3	DISQ
	大橋遼	早稲田大学3	DISQ
	野沢星雅	茨城大学2	DISQ
	中嶋律起	横浜国立大学2	DISQ
	浅井寛之	東京大学2	DISQ

MUB 参加人数45名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	山内優太	広島大学2	0:22:17
2	福永貴弘	東北大学4	0:24:34
3	加藤宏明	名古屋大学4	0:25:29
4	萱沼優也	早稲田大学2	0:26:33
5	戸塚務	東北大学2	0:27:06
6	海老原稜大	一橋大学3	0:27:10
7	荒井純	東北大学2	0:27:19
8	伊村公志	名古屋大学4	0:27:50
9	高柳知朗	筑波大学2	0:27:57
10	斎藤滉弥	東北大学3	0:27:58
11	葉山旺	名古屋大学3	0:28:00
12	安達郁哉	筑波大学4	0:28:15
13	高橋駿	東北大学3	0:29:06
14	棟方隆司	名古屋大学2	0:29:59
15	仲上浩豪	岩手大学4	0:32:21
16	高本章寛	筑波大学3	0:33:00
17	杉浦智樹	名古屋大学3	0:33:03
18	青木惇平	金沢工業大学4	0:35:35
19	永江孝太郎	大阪大学2	0:35:36

MUB 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
20	柿沼晴喜	筑波大学2	0:35:43
21	長山真也	金沢工業大学2	0:35:46
22	三家本雄貴	広島大学2	0:36:55
23	龍堀巧	東北大学2	0:37:43
24	眞弓拓馬	早稲田大学3	0:38:01
25	梅村隼人	横浜市立大学4	0:38:47
26	田牧将馬	名古屋大学2	0:38:50
27	結城大瑚	千葉大学4	0:40:03
28	山田徹	金沢工業大学2	0:40:38
29	榊原諒	大阪大学2	0:41:09
30	出口智士	名古屋大学3	0:43:26
31	下沢廉	新潟大学4	0:44:03
32	橋本翔太郎	名古屋大学4	0:44:24
33	佐藤宏賢	大阪大学3	0:44:51
34	宮川大輝	名古屋大学4	0:48:31
35	豊永雄郎	京都大学2	0:49:18
36	日比浩喜	東京大学2	0:50:10
37	仁野平拓	筑波大学4	0:50:36
38	脇慎一郎	名古屋大学3	0:50:45
39	石橋諒	大阪大学2	0:51:17
40	岡村春日	大阪大学2	0:57:47
	服部洋介	東北大学2	DNS
	大野亘毅	筑波大学4	DNS
	橋本直幸	筑波大学4	DNS
	青野綾介	筑波大学4	DNS
	三國稔男	東北大学4	DNS

MUF1 参加人数63名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	清水嘉人	北海道大学1	0:18:33
2	池田匠	早稲田大学1	0:18:35
3	伊藤頌太	慶應義塾大学1	0:19:13
4	荒川悠人	東京農工大学1	0:19:42
5	和佐田祥太	京都大学1	0:20:06
6	朝間玲羽	東京大学1	0:20:37
7	西田直人	茨城大学1	0:20:59
8	岩田慈樹	京都大学1	0:21:23
9	大槻賢二朗	東北大学1	0:21:29
10	宮川靖弥	東京工業大学1	0:21:46
11	高橋友徳	岩手医科大学1	0:22:58
12	竹重拓輝	大阪大学1	0:23:26
13	金子稜	一橋大学1	0:23:33
14	坂本慧	新潟大学1	0:24:28
15	矢田祐喜	静岡大学1	0:24:33
16	阿部冬星	東京大学1	0:24:41
17	熊木智哉	東京大学1	0:24:47
18	藤井悠輝	名古屋大学1	0:24:52
19	笠井虹汰	千葉大学1	0:25:31
20	龍溪優希	京都大学1	0:25:39
21	藤原悠平	東京大学1	0:26:54
22	浜野有都	東北大学1	0:27:35
23	井坂将隆	東北大学1	0:28:08
24	青木航流	東京工業大学1	0:28:19
25	中村諒	早稲田大学1	0:28:28
26	寺田直加	東北大学1	0:28:57
27	瓜生侑	東京工業大学1	0:29:33
28	大場隆太郎	東京工業大学1	0:29:52
29	岩淵悠太	新潟大学1	0:30:01
30	渡邊大地	千葉大学1	0:30:07
31	松井泰道	早稲田大学1	0:30:08

MUF1 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
32	峰島克幸	新潟大学1	0:30:31
33	松嶋亮弥	東京大学1	0:30:42
34	鈴木雄太	名古屋工業大学1	0:31:33
35	和田佳文	静岡大学1	0:32:44
36	京屋陽介	名古屋大学1	0:33:35
37	袴田翔太	新潟大学1	0:33:38
38	峰松真也	大阪大学1	0:33:44
39	秋元郁	早稲田大学1	0:33:55
40	渡邊勇熙	京都大学1	0:34:14
41	大山智弘	筑波大学1	0:34:56
42	小笠原篤也	新潟大学1	0:35:37
43	原柊斗	岩手大学1	0:37:24
44	枝澤勇太	京都大学1	0:37:37
45	岡村和於	名古屋大学1	0:39:27
46	小俣敦宏	名古屋工業大学1	0:41:19
47	林昇吾	関東学院大学1	0:41:35
48	田尻佳大	東北大学1	0:43:24
49	加藤寛之	新潟大学1	0:43:40
50	山根正太郎	慶應義塾大学1	0:49:41
51	山田涼太	群馬大学1	0:50:10
52	東孝樹	北海道大学1	0:50:26
53	村瀬友哉	東北大学1	0:50:46
54	吉本暁紀	北海道大学1	0:52:04
	安齋音哉	東京農工大学1	1:01:38
	大串裕也	千葉大学1	1:01:45
	西浦裕	東京大学1	DISQ
	森田邦夫	静岡大学1	DISQ
	河野隼司	東京大学1	DISQ
	細川敦司	静岡大学1	DISQ
	久田雄介	北海道大学1	DNS
	角野裕之	東京工業大学1	DNS
	秋元佑斗	筑波大学1	DNS

MUF2 参加人数62名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	伊藤元春	東京大学1	0:21:01
2	工藤友喜	岩手大学1	0:21:54
3	竹下晴山	茨城大学1	0:21:59
4	名雪青葉	筑波大学1	0:22:48
5	小林俊介	東北大学1	0:23:51
6	加藤千晴	東北大学1	0:23:54
7	村田千真	筑波大学1	0:24:13
8	笹嶋建吾	茨城大学1	0:24:45
9	野口晃太郎	北海道大学1	0:24:58
10	村田温基	東北大学1	0:25:07
11	伊藤良介	京都大学1	0:25:16
12	若月俊宏	東京工業大学1	0:25:24
13	鈴木琢也	横浜国立大学1	0:25:28
14	速水駿	名古屋大学1	0:26:26
15	田中琉偉	法政大学1	0:26:40
16	森谷恵吾	北海道大学1	0:26:42
17	倉田瞭一	東京工業大学1	0:26:49
18	遠藤優介	茨城大学1	0:26:58
19	岡本哲史	京都大学1	0:27:32
20	石田倫啓	京都大学1	0:27:34
21	富沢隆成	群馬大学1	0:28:41
22	竹花佳祐	東北大学1	0:28:45
23	森恒大	筑波大学1	0:29:09
24	小高敦志	岩手大学1	0:29:53
25	田中大樹	東京工業大学1	0:30:56

MUF2 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
26	伊藤嵩真	東京大学1	0:30:56
27	高見和希	大阪大学1	0:31:01
28	萩谷凌大	東北大学1	0:31:40
29	有吉優樹	横浜市立大学1	0:32:46
30	藤村晋也	新潟大学1	0:32:56
31	豊田俊哉	神戸大学1	0:33:01
32	水原航平	茨城大学1	0:33:09
33	浅田雄一	名古屋大学1	0:33:30
34	杉浦航	名古屋大学1	0:34:01
35	千葉滉平	東北大学1	0:34:06
36	田淵ヒカル	慶應義塾大学1	0:35:22
37	藤井一樹	名古屋工業大学1	0:37:08
38	大石航輔	金沢大学1	0:37:18
39	福田拓亮	東京工業大学1	0:37:29
40	高林健太	東京工業大学1	0:38:42
41	竹山翔悟	早稲田大学1	0:41:05
42	藤谷慶一郎	東京工業大学1	0:41:51
43	薄井聡汰	中央大学1	0:43:31
44	前田貴仁	名古屋大学1	0:43:51
45	伊藤有哉	東京工業大学1	0:45:40
46	稲垣光希	名古屋大学1	0:45:57
47	小田隼士	東京農工大学1	0:47:02
48	池田旭	名古屋大学1	0:50:11
49	川原明洋	東京工業大学1	0:50:17
50	前川泰吉	名古屋大学1	0:52:47
51	村中結希	京都大学1	0:52:54
52	堀越遥介	東京工業大学1	0:58:32
	森下晃成	静岡大学1	1:00:54
	近藤光	金沢大学1	1:20:09
	野村峻太	北海道大学1	DISQ
	古関駿介	東北大学1	DISQ
	小林哲郎	東北大学1	DISQ
	辛川慎之介	東京大学1	DISQ
	石渡雄也	関東学院大学1	DISQ
	成松陽	筑波大学1	DNS
	溝口哲平	筑波大学1	DNS
	濱崎大暉	金沢大学1	DNS

MUF3 参加人数62名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	溝井翔太	茨城大学1	0:18:21
2	小林尚暉	東京大学1	0:18:50
3	粟生啓介	名古屋大学1	0:18:50
4	国沢案	中央大学1	0:19:06
5	小林伸次	東北大学1	0:19:36
6	伊地知淳	千葉大学1	0:19:51
7	今野陽一	東北大学1	0:20:05
8	阿部遼太郎	横浜市立大学1	0:20:11
9	森倭渡	北海道大学1	0:21:59
10	萱尾澄人	大阪大学1	0:22:03
11	脇田晃秀	名古屋大学1	0:22:17
12	有澤達哉	東京大学1	0:23:07
13	水澤和大	茨城大学1	0:23:43
14	山田峻大	東北大学1	0:23:48
15	津田悠暉	横浜国立大学1	0:24:06
16	藤本紘哉	北海道大学1	0:24:16
17	中村亮佑	名古屋大学1	0:25:02
18	伊藤颯	東京大学1	0:25:35
19	南龍之介	横浜国立大学1	0:26:15
20	箕浦皓	京都大学1	0:26:37

MUF3 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
21	土屋輝	関東学院大学1	0:27:07
22	後庵野大輔	東北大学1	0:27:12
23	木本琢登	早稲田大学1	0:27:46
24	藤島稜	東北大学1	0:27:56
25	金澤晴樹	京都大学1	0:28:27
26	立川凌平	東北大学1	0:29:06
27	桐山大輝	東京農工大学1	0:29:19
28	伊藤隼太郎	東京農工大学1	0:29:40
29	石田香介	新潟大学1	0:30:32
30	東條秀祐	京都大学1	0:31:25
31	奥田隆史	金沢大学1	0:31:25
32	山田雄太	名古屋大学1	0:31:39
33	八坂泰河	京都大学1	0:31:47
34	中村僚佑	岩手大学1	0:32:02
35	岡野幹生	東京工業大学1	0:32:28
36	瀧井健介	東京工業大学1	0:32:34
37	丸山幸太	新潟大学1	0:32:36
38	坪井政樹	北海道大学1	0:33:07
39	市川礼偉	横浜市立大学1	0:33:09
40	水野涉吾	静岡大学1	0:33:11
41	前川光鷹	東京理科大学1	0:34:27
42	吉田脩人	東京大学1	0:34:59
43	佐久間亮	東京工業大学1	0:35:17
44	笹部龍仁	京都大学1	0:35:32
45	松村祐輝	名古屋大学1	0:37:01
46	野澤優斗	北海道大学1	0:37:05
47	高橋直道	東北大学1	0:37:10
48	新井宇宙	早稲田大学1	0:37:55
49	富岡洸貴	東京大学1	0:38:44
50	荒木政紀	筑波大学1	0:38:46
51	森田悠生	名古屋大学1	0:39:41
52	壁谷汰知	名古屋大学1	0:40:05
53	関口直希	筑波大学1	0:41:23
54	左右田駿	東京大学1	0:42:24
55	渡部真拓	東京農工大学1	0:44:52
56	木谷雄二郎	弘前大学1	0:50:33
57	峯友紀	金沢大学1	0:51:23
58	新家康弘	名古屋大学1	0:52:40
	上保望	早稲田大学1	DISQ
	細川雄太	筑波大学1	DNS
	伊與久拓真	筑波大学1	DNS
	松永隼	名古屋大学1	DNS

WUA1 参加人数40名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	小竹佳穂	筑波大学3	0:26:47
2	神戸麻衣	新潟大学2	0:28:26
3	稲垣秀奈美	千葉大学4	0:31:45
4	渡我部ゆき	名古屋大学2	0:32:48
5	吉武もにか	北海道大学4	0:32:55
6	諏訪夏海	東北大学3	0:33:38
7	菅原衣織	東京農工大学3	0:33:39
8	岡本ひなの	奈良女子大学4	0:33:50
9	篠塚みずき	横浜市立大学3	0:34:02
10	古谷直央	横浜市立大学3	0:34:38
11	佐藤成美	福島大学3	0:34:43
12	田村一紗	横浜市立大学2	0:35:04
13	高瀬優衣	金沢大学3	0:35:10
14	和波明日香	椋山女学園大学2	0:35:16
15	齋藤百花	広島大学3	0:35:38

WUA1 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
16	鈴木咲希	千葉大学3	0:35:50
17	山下桃子	早稲田大学3	0:36:30
18	渡邊祐子	岩手大学2	0:37:22
19	小野花織	椋山女学園大学4	0:37:27
20	佐久間若菜	筑波大学2	0:37:34
21	太田希美	椋山女学園大学4	0:37:52
22	中村沙耶	椋山女学園大学2	0:38:44
23	近藤あゆみ	奈良女子大学3	0:40:07
24	児山千都	椋山女学園大学2	0:40:36
25	稲邊穂乃香	東京農工大学2	0:41:24
26	木村瑠月	東北大学2	0:41:33
27	保木祥声	津田塾大学2	0:42:09
28	野村麻奈	相模女子大学3	0:42:31
29	野中麻佑子	聖心女子大学2	0:42:55
30	鶴本美樹	大阪大学4	0:43:04
31	澤口未来	岩手県立大学4	0:44:33
32	河野珠里亜	新潟大学2	0:44:46
33	田原真綺	実践女子大学3	0:49:43
34	藤島志帆	実践女子大学4	0:51:09
35	小林結菜	十文字女子大学3	0:51:50
36	木越綾香	群馬大学2	0:58:40
37	内堀百里子	京都女子大学4	0:58:44
	篠崎萌希	横浜市立大学3	DNS
	布施谷綺子	奈良女子大学3	DNS
	進藤緑里	岩手大学2	DNS

WUA2 参加人数39名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	秋山美伶	早稲田大学2	0:31:27
2	中野真優	椋山女学園大学2	0:33:04
3	久野公愛	日本女子大学3	0:33:05
4	八木橋まい	東北大学2	0:33:33
5	富永万由	早稲田大学2	0:33:58
6	片岡茅悠	東京大学2	0:34:06
7	増田風見花	実践女子大学4	0:34:26
8	福地あかり	椋山女学園大学2	0:35:16
9	中島緑里	立教大学4	0:36:13
10	畑中志乃	岩手大学4	0:36:19
11	橋本花恵	茨城大学2	0:38:13
12	中川真緒	奈良女子大学3	0:38:58
13	湯上麻貴	北海道大学3	0:39:06
14	石坪夕奈	東京農工大学3	0:39:07
15	戸谷みのり	奈良女子大学4	0:39:23
16	木本円花	北海道大学3	0:40:29
17	山内美輝	新潟大学3	0:40:44
18	菅原真優	日本女子大学2	0:41:00
19	塚越真悠子	大阪大学3	0:41:34
20	小笠原萌	奈良女子大学2	0:42:29
21	三木智海	千葉大学2	0:43:13
22	和田あゆみ	慶應義塾大学4	0:43:26
23	西谷彩奈	東京理科大学2	0:43:35
24	山本優海	実践女子大学3	0:44:31
25	久野桃子	椋山女学園大学4	0:45:08
26	山森麻未	椋山女学園大学4	0:45:23
27	川又美南	東北大学3	0:45:29
28	畠山和	横浜国立大学2	0:46:21
29	三浦快嶺	福島大学2	0:46:22
30	土江千穂	京都女子大学4	0:46:37
31	金子詩乃	日本女子大学2	0:47:04
32	井篁菜月	椋山女学園大学3	0:47:35

WUA2 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
33	吉澤佳帆	相模女子大学4	0:48:52
34	石戸谷枝美	福島大学4	0:50:53
35	羽鳥咲和	京都女子大学3	0:53:38
36	楊馨逸	早稲田大学2	0:57:30
37	横山結女	椋山女学園大学4	0:58:33
	栗本美緒	津田塾大学2	DISQ
	松嶋夏子	横浜市立大学3	DNS

WUB 参加人数42名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	酒井凜	宮城学院女子大学2	0:20:21
2	井上千帆里	相模女子大学2	0:20:23
3	塚田恵理	跡見女子大学3	0:20:41
4	佐田華澄	椋山女学園大学2	0:21:13
5	佐藤汐子	宮城学院女子大学2	0:21:30
6	清水桃奈	東北大学2	0:22:26
7	千葉香里	宮城学院女子大学4	0:22:41
8	小林美早紀	岩手大学4	0:23:22
9	藤岡奈々	京都女子大学2	0:23:39
10	川合美帆	奈良女子大学2	0:25:01
11	藤本朱子	宮城学院女子大学4	0:25:22
12	時森さみか	京都女子大学2	0:25:29
13	刈谷まりい	椋山女学園大学2	0:25:43
14	村山友梨	十文字女子大学4	0:25:47
15	藤澤はる那	京都女子大学2	0:25:48
16	昆 沙 賀 菜 々	東北大学2	0:26:21
17	中山潤子	北里大学3	0:26:42
18	加藤めぐみ	十文字女子大学4	0:26:50
19	一宮菜津美	宮城学院女子大学4	0:26:56
20	白土睦	宮城学院女子大学2	0:26:56
21	佐藤可菜	宮城学院女子大学2	0:27:33
22	古石春佳	奈良女子大学2	0:27:56
23	加藤万由子	岩手大学4	0:29:13
24	林智歩	相模女子大学2	0:31:10
25	鈴木沙綾	京都女子大学3	0:31:32
26	松島優	椋山女学園大学3	0:31:44
27	中地未歩	相模女子大学3	0:32:02
28	久住結香	東北大学2	0:34:29
29	ノーディング怜奈	相模女子大学4	0:34:39
30	潘晨妍	フェリス女学院大学3	0:35:16
31	日置智巳	椋山女学園大学2	0:35:20
32	荻原沙季	津田塾大学4	0:35:27
33	安藤瑠乃	椋山女学園大学2	0:35:41
34	金田満帆	京都女子大学4	0:37:35
35	杉山真理	相模女子大学3	0:38:04
36	杉山桃菜	十文字女子大学2	0:39:51
37	堤紀子	奈良女子大学2	0:42:05
38	青木志薫	椋山女学園大学2	0:43:40
39	佐々木萌音	椋山女学園大学2	0:45:21
40	瀧野まりあ	相模女子大学2	0:46:27
	藤平歩	実践女子大学2	DISQ
	市川真優花	宮城学院女子大学2	DISQ

WUF 参加人数79名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	中神智香	静岡大学1	0:14:43
2	阿部悠	実践女子大学1	0:15:30
3	鈴木日菜	実践女子大学1	0:16:16
4	大栗由希	茨城大学1	0:16:52
5	五十嵐羽奏	名古屋大学1	0:17:16

WUF 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
6	上原珠美	京都女子大学1	0:17:18
7	山崎璃果	椋山女学園大学1	0:17:28
8	小林璃衣紗	青山学院大学1	0:17:32
9	須本みずほ	椋山女学園大学1	0:17:50
10	山賀千尋	大阪大学1	0:18:09
11	明神紀子	聖心女子大学1	0:18:18
12	岩崎佑美	慶應義塾大学1	0:18:24
13	里見穂	早稲田大学1	0:18:26
14	高倉玲衣	宮城学院女子大学1	0:18:31
15	土田千聖	名古屋大学1	0:18:32
16	吉田茉莉枝	茨城大学1	0:18:53
17	日置うらら	静岡大学1	0:19:06
18	池ヶ谷みの	一橋大学1	0:19:19
19	中村咲野	立教大学1	0:19:30
20	余語文香	椋山女学園大学1	0:19:47
21	松本環	早稲田大学1	0:20:15
22	越智純香	京都大学1	0:20:21
22	菊池美結	岩手大学1	0:20:21
24	小橋唯華	京都女子大学1	0:20:31
25	佐々木亜珠	宮城学院女子大学1	0:20:34
26	渡辺楓華	金沢大学1	0:20:41
27	大村彩耶香	茨城大学1	0:20:46
28	吉居育美	奈良女子大学1	0:21:01
29	藤井明日香	関東学院大学1	0:21:05
30	恒川萌未	椋山女学園大学1	0:21:52
31	中村莉子	宮城学院女子大学1	0:21:53
32	坂東愉楽	京都女子大学1	0:22:01
33	矢作香織	慶應義塾大学1	0:22:26
34	鈴木春音	名古屋大学1	0:22:45
35	佐藤美那子	横浜国立大学1	0:22:49
36	臼井千尋	東京工業大学1	0:22:55
37	金井悠	相模女子大学1	0:23:15
38	多田明加	金沢大学1	0:23:54
39	茶藤あみ	東北大学1	0:24:12
40	松橋清香	宮城学院女子大学1	0:24:53
41	門松歩美	立教大学1	0:24:55
42	高橋あゆみ	静岡大学1	0:24:56
43	渡辺紀保	早稲田大学1	0:25:15
44	阿部朱莉	東京理科大学1	0:25:28
45	柴田菜央	津田塾大学1	0:25:42
46	和山実咲	東北大学1	0:25:57
47	水城愛里	京都女子大学1	0:26:09
48	酒井舞子	京都女子大学1	0:26:27
49	渡邊真未	京都女子大学1	0:26:31
50	横山由奈	東北大学1	0:26:37
51	佐藤光	相模女子大学1	0:26:41
52	赤堀美帆	関東学院大学1	0:26:57
53	土屋雅	椋山女学園大学1	0:27:11
54	滝澤伊織	新潟大学1	0:27:55
55	野口珠希	筑波大学1	0:27:58
56	松澤京加	津田塾大学1	0:28:38
57	丸石明日香	京都女子大学1	0:28:59
58	近藤ななみ	京都女子大学1	0:29:01
59	原悠里花	フェリス女学院大学1	0:29:16
60	富山詩央里	実践女子大学1	0:29:22
61	砥石真奈	東京農工大学1	0:30:47
62	柴山奈穂	椋山女学園大学1	0:30:54
63	林彩楓	椋山女学園大学1	0:31:50
64	杉浦凜	椋山女学園大学1	0:32:20
65	菊地朝美	椋山女学園大学1	0:33:37

WUF 続き			
順位	氏名	学校・学年	記録
66	山口莉奈	京都女子大学1	0:33:58
67	齋藤優花	慶應義塾大学1	0:34:21
68	植村日向	椋山女学園大学1	0:34:49
69	加藤千遥	横浜市立大学1	0:35:20
70	河合璃子	椋山女学園大学1	0:35:56
71	大須賀ほの	岩手県立大学1	0:37:39
72	根本真子	茨城大学1	0:39:51
73	高橋愛梨	京都女子大学1	0:43:52
74	加藤小雪	フェリス女学院大学1	0:45:23
75	森口華帆	京都女子大学1	0:46:11
76	西塚桃子	京都女子大学1	0:50:41
	大島有貴	椋山女学園大学1	DISQ
	大河絢花	岩手県立大学1	DNS
	野田紗也香	法政大学1	DNS

8.2 リレー競技部門

チーム名/記録欄のカッコ番号はチーム番号（ゼッケン番号）です。
氏名の隣の文字はコースパターンを表し、氏名の下に続く数字は個人記録と順位、チーム記録と順位を表しています。

<MER 参加数30組>

順位	チーム名/記録	1走	2走	3走
1	東京大学 2:17:14 (1)	佐藤遼平 / BZ 0:45:18 / 1 0:45:18 / 1	殿垣佳治 / CX 0:47:38 / 5 1:32:56 / 1	種市雅也 / AY 0:44:18 / 3 2:17:14 / 1
2	慶應義塾大学 2:17:21 (3)	清水俊祐 / CY 0:51:20 / 7 0:51:20 / 7	上島浩平 / BX 0:42:35 / 1 1:33:55 / 2	桃井陽佑 / AZ 0:43:26 / 2 2:17:21 / 2
3	横浜国立大学 2:18:55 (33)	森元駿介 / CZ 0:55:44 / 16 0:55:44 / 16	稲森剛 / AX 0:43:17 / 2 1:39:01 / 5	伊藤樹 / BY 0:39:54 / 1 2:18:55 / 3
4	東北大学 2:23:58 (2)	嶋崎渉 / BY 0:53:19 / 10 0:53:19 / 10	佐藤誠也 / CZ 0:43:23 / 3 1:36:42 / 3	北見匠 / AX 0:47:16 / 5 2:23:58 / 4
5	名古屋大学 2:27:49 (6)	前野達也 / AZ 0:47:16 / 4 0:47:16 / 4	岩垣和也 / BY 0:56:08 / 13 1:43:24 / 9	竹内公一 / CX 0:44:25 / 4 2:27:49 / 5
6	京都大学 2:29:00 (5)	森河俊成 / AX 0:46:00 / 2 0:46:00 / 2	伴広輝 / BZ 0:53:32 / 8 1:39:32 / 6	岩井龍之介 / CY 0:49:28 / 8 2:29:00 / 6
7	新潟大学 2:32:17 (8)	滝沢壮太 / BX 0:49:20 / 5 0:49:20 / 5	鈴木皓紀 / CY 0:53:32 / 8 1:42:52 / 8	外石裕太郎 / AZ 0:49:25 / 7 2:32:17 / 7
8	筑波大学 2:37:38 (10)	伊藤祐 / AY 0:59:43 / 19 0:59:43 / 19	小牧弘季 / BZ 0:48:33 / 7 1:48:16 / 11	楠健志 / CX 0:49:22 / 6 2:37:38 / 8
9	東京工業大学 2:38:09 (7)	櫻井一樹 / BZ 0:51:10 / 6 0:51:10 / 6	小原和彦 / AY 0:55:50 / 12 1:47:00 / 10	小寺義伸 / CX 0:51:09 / 9 2:38:09 / 9
10	東京農工大学 2:41:18 (14)	長井健太 / CX 0:53:34 / 12 0:53:34 / 12	川名峻介 / AZ 0:48:21 / 6 1:41:55 / 7	早川徹彦 / BY 0:59:23 / 11 2:41:18 / 10
11	一橋大学 2:45:37 (11)	高見澤翔一 / BZ 0:54:12 / 13 0:54:12 / 13	大田将司 / AX 0:44:46 / 4 1:38:58 / 4	木下達仁 / CY 1:06:39 / 15 2:45:37 / 11
12	茨城大学 2:51:44 (15)	豊田健登 / BX 0:52:20 / 8 0:52:20 / 8	奥尾優理 / AY 1:04:40 / 18 1:57:00 / 15	川崎翔 / CZ 0:54:44 / 10 2:51:44 / 12
13	大阪大学 2:55:31 (16)	石田悠人 / BZ 0:58:13 / 17 0:58:13 / 17	田中創 / CY 0:55:36 / 11 1:53:49 / 13	桃本一輝 / AX 1:01:42 / 13 2:55:31 / 13
14	北海道大学 3:00:42 (12)	湯浅博晶 / BY 0:54:46 / 14 0:54:46 / 14	塩平真士 / AZ 1:00:43 / 16 1:55:29 / 14	倉地草太 / CX 1:05:13 / 14 3:00:42 / 14

15	金沢大学 3:11:42 (9)	渡邊寛希 / AZ 0:54:54 / 15 0:54:54 / 15	山本哲也 / BX 0:54:40 / 10 1:49:34 / 12	吉田涼哉 / CY 1:22:08 / 21 3:11:42 / 15
16	静岡大学 3:20:01 (18)	加藤翔伍 / AX 1:02:29 / 20 1:02:29 / 20	瀧下真一 / CY 0:57:24 / 15 1:59:53 / 16	桑山倫博 / BZ 1:20:08 / 19 3:20:01 / 16
17	横浜国立大学 3:23:33 (13)	阿部遼太郎 / AY 0:59:30 / 18 0:59:30 / 18	鈴木京佑 / CZ 1:08:05 / 19 2:07:35 / 19	菅野裕貴 / BX 1:15:58 / 18 3:23:33 / 17
18	岩手大学 3:24:26 (20)	松本陸 / BY 1:04:17 / 22 1:04:17 / 22	石田尚大 / CX 1:11:01 / 20 2:15:18 / 21	高橋郁磨 / AZ 1:09:08 / 16 3:24:26 / 18
19	広島大学 3:26:57 (36)	山内優太 / AX 1:05:28 / 24 1:05:28 / 24	下江健史 / CZ 0:56:16 / 14 2:01:44 / 17	清水慎太郎 / BY 1:25:13 / 22 3:26:57 / 19
20	神戸大学 3:31:38 (35)	川島聖也 / CY 0:53:04 / 9 0:53:04 / 9	高野陽平 / AX 1:11:04 / 21 2:04:08 / 18	佐藤和真 / BZ 1:27:30 / 23 3:31:38 / 20
21	福島大学 3:45:26 (23)	高松涼 / CX 1:06:00 / 26 1:06:00 / 26	松本諒 / BY 1:11:48 / 22 2:17:48 / 22	菅野正太 / AZ 1:27:38 / 24 3:45:26 / 21
22	関東学院大学 3:57:55 (22)	生田峻 / AX 1:02:54 / 21 1:02:54 / 21	土屋輝 / BY 1:53:46 / 26 2:56:40 / 26	藤原真吾 / CZ 1:01:15 / 12 3:57:55 / 22
	岩手医科大学・弘前大学・法政大学混成 4:19:30 (41)	田中琉偉 / BX 1:05:26 / 23 1:05:26 / 23	高橋友徳 / CZ 1:02:37 / 17 2:08:03 / 20	木谷雄二郎 / AY 2:11:27 / 26 4:19:30 / 23
23	中央大学 4:20:11 (32)	山田大雅 / CZ 1:05:45 / 25 1:05:45 / 25	国沢楽 / BX 1:19:00 / 23 2:24:45 / 23	薄井聡汰 / AY 1:55:26 / 25 4:20:11 / 24
24	岩手県立大学 4:47:17 (31)	林俊充 / AZ 1:26:14 / 28 1:26:14 / 28	小林亮太 / CX 1:59:34 / 27 3:25:48 / 27	長谷川野 / BY 1:21:29 / 20 4:47:17 / 25
	金沢工業大学 DISQ (21)	長山真也 / AY 1:12:48 / 27 1:12:48 / 27	山田徹 / BX 1:43:00 / 25 2:55:48 / 24	青木惇平 / CZ DISQ / /
	東京理科大学 DISQ (17)	前川光鷹 / CZ 1:32:38 / 29 1:32:38 / 29	関塚大誠 / AY 1:23:26 / 24 2:56:04 / 25	渡邊俊祐 / BX DISQ / /
	群馬大学 DISQ (34)	富沢隆成 / CY 1:37:56 / 30 1:37:56 / 30	山田涼太 / BZ 2:04:38 / 28 3:42:34 / 28	児玉涼太 / AX DISQ / /
	早稲田大学 DISQ (4)	大石洋輔 / CX 0:46:10 / 3 0:46:10 / 3	森田夏水 / AY DISQ / /	柴沼健 / BZ 1:09:20 / 17 /
	千葉大学 DISQ (19)	宮嶋哲矢 / CY 0:53:20 / 11 0:53:20 / 11	得能渉 / AZ DISQ / /	池田京史 / BX DISQ / /

<WER 参加数28組>

順位	チーム名/記録	1走	2走	3走
1	筑波大学 2:03:49 (61)	宮本和奏 / CZ 0:43:46 / 2 0:43:46 / 2	山岸夏希 / AY 0:40:43 / 1 1:24:29 / 1	増澤すず / BX 0:39:20 / 2 2:03:49 / 1
2	東北大学 2:12:14 (52)	高橋ひなの / AY 0:46:37 / 6 0:46:37 / 6	伊佐野はる香 / CZ 0:40:52 / 2 1:27:29 / 2	高橋友理奈 / BX 0:44:45 / 3 2:12:14 / 2
3	立教大学 2:16:09 (56)	木村るび子 / BY 0:46:22 / 5 0:46:22 / 5	香取瑞穂 / AZ 0:43:11 / 3 1:29:33 / 3	世良史佳 / CX 0:46:36 / 5 2:16:09 / 3
4	千葉大学 2:31:56 (51)	森谷風香 / CZ 0:46:13 / 4 0:46:13 / 4	稲垣秀奈美 / AX 0:50:08 / 4 1:36:21 / 4	香取菜穂 / BY 0:55:35 / 8 2:31:56 / 4
5	茨城大学 2:37:21 (86)	大栗由希 / CY 0:57:13 / 15 0:57:13 / 15	橋本花恵 / BZ 1:03:31 / 16 2:00:44 / 15	勝山佳恵 / AX 0:36:37 / 1 2:37:21 / 5
6	横浜市立大学 2:45:08 (67)	松田千果 / AZ 0:52:48 / 9 0:52:48 / 9	篠塚みずき / BY 1:01:55 / 15 1:54:43 / 9	平松夕衣 / CX 0:50:25 / 6 2:45:08 / 6
7	東京農工大学 2:46:48 (65)	菅原衣織 / AY 0:57:30 / 16 0:57:30 / 16	八木千尋 / BZ 0:55:03 / 6 1:52:33 / 8	石坪夕奈 / CX 0:54:15 / 7 2:46:48 / 7
8	実践女子大学 2:49:14 (59)	飯田涼芳 / AX 1:05:12 / 20 1:05:12 / 20	阿部悠 / CZ 0:58:18 / 10 2:03:30 / 17	立花和祈 / BY 0:45:44 / 4 2:49:14 / 8
9	日本女子大学 2:51:42 (66)	高橋利奈 / BX 0:49:10 / 7 0:49:10 / 7	金子詩乃 / CZ 0:57:46 / 9 1:46:56 / 5	久野公愛 / AY 1:04:46 / 15 2:51:42 / 9
10	名古屋大学 2:51:51 (53)	五十嵐羽奏 / BX 0:54:14 / 10 0:54:14 / 10	河村優花 / CY 0:56:14 / 8 1:50:28 / 6	土田千聖 / AZ 1:01:23 / 11 2:51:51 / 10
11	岩手大学 2:54:49 (64)	進藤緑里 / CY 0:55:35 / 11 0:55:35 / 11	渡邊祐子 / AZ 1:01:46 / 14 1:57:21 / 12	畑中志乃 / BX 0:57:28 / 10 2:54:49 / 11
12	大阪大学 2:58:06 (69)	出田涼子 / AX 0:43:31 / 1 0:43:31 / 1	塚越真悠子 / BZ 1:12:13 / 20 1:55:44 / 10	鶴本美樹 / CY 1:02:22 / 13 2:58:06 / 12
13	早稲田大学 2:59:13 (85)	富永万由 / AZ 0:55:41 / 12 0:55:41 / 12	秋山美怜 / CX 0:55:46 / 7 1:51:27 / 7	山下桃子 / BY 1:07:46 / 16 2:59:13 / 13
14	京都女子大学 3:05:47 (62)	羽鳥咲和 / AX 1:12:11 / 27 1:12:11 / 27	佐野萌子 / CY 0:50:52 / 5 2:03:03 / 16	土江千穂 / BZ 1:02:44 / 14 3:05:47 / 14
15	奈良女子大学 3:06:37 (58)	岡本ひなの / BZ 0:58:06 / 17 0:58:06 / 17	戸谷みのり / CX 0:59:21 / 12 1:57:27 / 13	金澤めぐみ / AY 1:09:10 / 17 3:06:37 / 15

16	慶應義塾大学 3:16:35 (83)	和田あゆみ / CZ 0:52:10 / 8 0:52:10 / 8	岩崎佑美 / BX 1:07:35 / 17 1:59:45 / 14	矢作香織 / AY 1:16:50 / 19 3:16:35 / 16
17	横浜国立大学 3:18:07 (84)	畠山和 / BY 0:58:46 / 18 0:58:46 / 18	佐藤美那子 / CZ 1:17:38 / 21 2:16:24 / 18	清野幸 / AX 1:01:43 / 12 3:18:07 / 17
18	新潟大学 3:28:23 (55)	河野珠里亜 / AX 0:57:01 / 14 0:57:01 / 14	神戸麻衣 / BY 0:59:33 / 13 1:56:34 / 11	佐久間文香 / CZ 1:31:49 / 24 3:28:23 / 18
19	宮城学院女子大学 3:30:42 (81)	佐藤汐子 / AZ 1:08:33 / 25 1:08:33 / 25	酒井凜 / BX 1:11:09 / 19 2:19:42 / 21	一宮菜津美 / CY 1:11:00 / 18 3:30:42 / 19
	関東学院大学・東京理科大学混成 3:36:16 (91)	西谷彩奈 / CX 1:08:18 / 23 1:08:18 / 23	藤井明日香 / AZ 1:09:05 / 18 2:17:23 / 19	阿部朱莉 / BY 1:18:53 / 22 3:36:16 / 20
20	金沢大学 3:37:49 (60)	渡辺楓華 / BY 1:20:19 / 28 1:20:19 / 28	高瀬優衣 / CX 0:58:46 / 11 2:19:05 / 20	多田明加 / AZ 1:18:44 / 21 3:37:49 / 21
21	相模女子大学 3:58:52 (63)	井上千帆里 / CX 0:56:27 / 13 0:56:27 / 13	杉山真理 / BY 1:23:50 / 22 2:20:17 / 22	野村麻奈 / AZ 1:38:35 / 27 3:58:52 / 22
22	北海道大学 3:59:51 (70)	木本円花 / BX 1:05:18 / 21 1:05:18 / 21	湯上麻貴 / AY 1:33:18 / 23 2:38:36 / 24	吉武もにか / CZ 1:21:15 / 23 3:59:51 / 23
23	嵯山女学園大学 4:08:13 (57)	中野真優 / AY 1:09:05 / 26 1:09:05 / 26	和波明日香 / BX 1:40:34 / 25 2:49:39 / 25	中村沙耶 / CZ 1:18:34 / 20 4:08:13 / 24
24	静岡大学 4:10:37 (68)	中神智香 / CX 1:00:09 / 19 1:00:09 / 19	日置うらら / AY 1:38:06 / 24 2:38:15 / 23	高橋あゆみ / BZ 1:32:22 / 25 4:10:37 / 25
25	福島大学 4:23:19 (82)	三浦快嶺 / CY 1:08:22 / 24 1:08:22 / 24	佐藤成美 / AX 1:41:19 / 26 2:49:41 / 26	石戸谷枝美 / BZ 1:33:38 / 26 4:23:19 / 26
	フェリス学院大学 DISQ (54)	村田茉奈美 / BZ 0:43:51 / 3 0:43:51 / 3	原悠里花 / CY 2:10:52 / 27 2:54:43 / 27	加藤小雪 / AX DISQ / /
	青山学院大学・跡見女子大学・法政大学混成 DISQ (92)	小林璃衣紗 / BZ 1:05:56 / 22 1:05:56 / 22	塚田恵理 / AX DISQ / /	佐藤珠穂 / CY 0:57:07 / 9

<MUR 参加数135組>

順位	チーム名/記録	1走	2走	3走
1	東京大学MA 1:27:38 (157)	宮本樹 / MUR-X 0:29:48 / 3 0:29:48 / 3	濱宇津佑亮 / MUR-Z 0:29:07 / 2 0:58:55 / 2	大橋陽樹 / MUR-Y 0:28:43 / 2 1:27:38 / 1
2	東北大学MB 1:29:43 (103)	唐木朋也 / MUR-Y 0:29:10 / 1 0:29:10 / 1	藺部駿太 / MUR-X 0:31:02 / 8 1:00:12 / 3	鳥居洸太 / MUR-Z 0:29:31 / 3 1:29:43 / 2
3	東京大学MB 1:34:02 (158)	谷口文弥 / MUR-Y 0:30:02 / 8 0:30:02 / 8	横堀聖人 / MUR-Z 0:33:37 / 14 1:03:39 / 7	新田見優輝 / MUR-X 0:30:23 / 5 1:34:02 / 3
4	金沢大学MB 1:34:11 (128)	石崎建 / MUR-X 0:31:15 / 15 0:31:15 / 15	神谷孫斗 / MUR-Y 0:33:00 / 11 1:04:15 / 9	本村汰一朗 / MUR-Z 0:29:56 / 4 1:34:11 / 4
5	慶應義塾大学MA 1:35:08 (140)	浜野奎 / MUR-Y 0:29:53 / 5 0:29:53 / 5	渡辺鷹志 / MUR-X 0:30:55 / 7 1:00:48 / 4	江野弘太郎 / MUR-Z 0:34:20 / 15 1:35:08 / 5
6	早稲田大学MA 1:35:54 (178)	三瀬遼太郎 / MUR-Y 0:29:55 / 6 0:29:55 / 6	池田匠 / MUR-Z 0:28:35 / 1 0:58:30 / 1	三好将史 / MUR-X 0:37:24 / 22 1:35:54 / 6
7	東京大学MN 1:35:57 (170)	浅井寛之 / MUR-X 0:31:08 / 13 0:31:08 / 13	中村僚宏 / MUR-Y 0:32:44 / 10 1:03:52 / 8	池田直樹 / MUR-Z 0:32:05 / 11 1:35:57 / 7
8	東京大学ML 1:39:31 (168)	鶴原啓 / MUR-Y 0:33:40 / 25 0:33:40 / 25	森川周 / MUR-Z 0:30:45 / 5 1:04:25 / 10	根本夏林 / MUR-X 0:35:06 / 16 1:39:31 / 8
9	名古屋大学MC 1:41:07 (210)	石川創也 / MUR-X 0:29:22 / 2 0:29:22 / 2	谷平光一 / MUR-Z 0:33:13 / 13 1:02:35 / 6	西嶋就平 / MUR-Y 0:38:32 / 26 1:41:07 / 9
10	名古屋大学MA 1:41:17 (208)	住吉将英 / MUR-Z 0:39:27 / 36 0:39:27 / 36	林雅人 / MUR-X 0:30:40 / 4 1:10:07 / 14	三浦一将 / MUR-Y 0:31:10 / 6 1:41:17 / 10
11	東京大学MC 1:41:41 (159)	出原優一 / MUR-X 0:34:20 / 26 0:34:20 / 26	村井智也 / MUR-Y 0:34:02 / 16 1:08:22 / 13	豊田伸平 / MUR-Z 0:33:19 / 13 1:41:41 / 11
12	慶應義塾大学MC 1:42:52 (142)	原田慧吾 / MUR-Z 0:32:30 / 20 0:32:30 / 20	西下遼介 / MUR-Y 0:33:07 / 12 1:05:37 / 11	大田雄哉 / MUR-X 0:37:15 / 21 1:42:52 / 12
13	京都大学MB 1:45:12 (235)	東條秀祐 / MUR-X 0:31:35 / 16 0:31:35 / 16	岩田慈樹 / MUR-Y 0:41:07 / 28 1:12:42 / 20	和佐田祥太朗 / MUR-Z 0:32:30 / 12 1:45:12 / 13
14	東北大学MC 1:45:18 (104)	堀江直人 / MUR-Z 0:35:31 / 29 0:35:31 / 29	石森晃 / MUR-X 0:38:05 / 23 1:13:36 / 21	高本育弥 / MUR-Y 0:31:42 / 8 1:45:18 / 14
15	東北大学MG 1:45:41 (108)	青芳龍 / MUR-Z 0:32:52 / 23 0:32:52 / 23	渡邊大地 / MUR-Y 0:29:33 / 3 1:02:25 / 5	高橋駿 / MUR-X 0:43:16 / 45 1:45:41 / 15

16	東北大学MJ 1:49:24 (111)	保莉優 / MUR-Y 0:35:15 / 28 0:35:15 / 28	山田基生 / MUR-X 0:36:09 / 19 1:11:24 / 17	小泉惇平 / MUR-Z 0:38:00 / 25 1:49:24 / 16
17	京都大学ME 1:50:18 (238)	古池将樹 / MUR-X 0:31:10 / 14 0:31:10 / 14	丸山ゆう / MUR-Z 0:43:53 / 37 1:15:03 / 22	衣笠舜登 / MUR-Y 0:35:15 / 17 1:50:18 / 17
18	東京大学ME 1:51:48 (161)	石田晴輝 / MUR-X 0:32:48 / 21 0:32:48 / 21	松本明訓 / MUR-Z 0:37:21 / 21 1:10:09 / 15	比企野純一 / MUR-Y 0:41:39 / 38 1:51:48 / 18
19	金沢大学MA 1:52:08 (127)	稲島一真 / MUR-Z 0:37:25 / 30 0:37:25 / 30	五十嵐央人 / MUR-X 0:35:15 / 18 1:12:40 / 19	福留悠斗 / MUR-Y 0:39:28 / 29 1:52:08 / 19
20	東京工業大学MA 1:52:47 (185)	櫻木嵩斗 / MUR-Y 0:32:17 / 17 0:32:17 / 17	若松甫 / MUR-X 0:45:02 / 45 1:17:19 / 23	上野康平 / MUR-Z 0:35:28 / 18 1:52:47 / 20
21	名古屋大学MF 1:55:03 (213)	小谷淳史 / MUR-Y 0:29:59 / 7 0:29:59 / 7	青木健悟 / MUR-Z 0:42:32 / 31 1:12:31 / 18	伊村公志 / MUR-X 0:42:32 / 39 1:55:03 / 21
22	東京大学MF 1:57:21 (162)	小林尚暉 / MUR-Y 0:33:00 / 24 0:33:00 / 24	伊藤元春 / MUR-X 0:52:55 / 74 1:25:55 / 32	朝間玲羽 / MUR-Z 0:31:26 / 7 1:57:21 / 22
23	茨城大学MB 1:59:47 (199)	菅沼友仁 / MUR-X 0:32:26 / 19 0:32:26 / 19	野沢星雅 / MUR-Y 0:47:10 / 57 1:19:36 / 24	七五三碧 / MUR-Z 0:40:11 / 33 1:59:47 / 23
24	名古屋大学ML 2:01:13 (219)	山本智士 / MUR-Y 0:29:50 / 4 0:29:50 / 4	安部智晴 / MUR-Z 0:37:03 / 20 1:06:53 / 12	京屋陽介 / MUR-X 0:54:20 / 74 2:01:13 / 24
25	東京工業大学MB 2:06:04 (186)	倉田瞭一 / MUR-Z 0:44:33 / 55 0:44:33 / 55	宮川靖弥 / MUR-X 0:43:57 / 38 1:28:30 / 38	若月俊宏 / MUR-Y 0:37:34 / 23 2:06:04 / 25
26	名古屋大学MD 2:06:09 (211)	南吏玖 / MUR-Y 0:51:34 / 76 0:51:34 / 76	南雲裕貴 / MUR-X 0:40:52 / 26 1:32:26 / 44	川口真司 / MUR-Z 0:33:43 / 14 2:06:09 / 26
27	東北大学MD 2:06:10 (105)	黒澤祐貴 / MUR-X 0:42:11 / 48 0:42:11 / 48	丸山真輝 / MUR-Z 0:37:26 / 22 1:19:37 / 25	上野渉 / MUR-Y 0:46:33 / 55 2:06:10 / 27
28	名古屋大学MB 2:06:14 (209)	粟生啓介 / MUR-Z 0:38:46 / 35 0:38:46 / 35	中村亮佑 / MUR-X 0:46:33 / 55 1:25:19 / 30	脇田晃秀 / MUR-Y 0:40:55 / 35 2:06:14 / 28
29	東京工業大学MD 2:06:44 (188)	岡田怜真 / MUR-X 0:41:40 / 46 0:41:40 / 46	藤田純矢 / MUR-Z 0:45:10 / 48 1:26:50 / 34	大倉峻吾 / MUR-Y 0:39:54 / 32 2:06:44 / 29
30	東北大学MQ 2:07:14 (118)	小林俊介 / MUR-X 0:32:18 / 18 0:32:18 / 18	高橋直道 / MUR-Y 0:38:28 / 24 1:10:46 / 16	藤島稜 / MUR-Z 0:56:28 / 80 2:07:14 / 30
31	筑波大学MA 2:09:06 (149)	鈴木大喜 / MUR-Z 0:43:58 / 53 0:43:58 / 53	谷野文史 / MUR-Y 0:41:54 / 30 1:25:52 / 31	河北拓人 / MUR-X 0:43:14 / 44 2:09:06 / 31

32	東北大学ML 2:09:40 (113)	今野陽一 / MUR-Y 0:30:11 / 9 0:30:11 / 9	小林哲郎 / MUR-Z 0:58:29 / 85 1:28:40 / 39	加藤千晴 / MUR-X 0:41:00 / 36 2:09:40 / 32
33	筑波大学MB 2:09:41 (150)	名雪青葉 / MUR-Y 0:30:13 / 11 0:30:13 / 11	森恒大 / MUR-X 0:59:51 / 91 1:30:04 / 40	村田千真 / MUR-Z 0:39:37 / 31 2:09:41 / 33
34	東北大学MP 2:11:57 (117)	山田峻大 / MUR-Y 0:40:30 / 42 0:40:30 / 42	寺田直加 / MUR-X 0:44:07 / 40 1:24:37 / 29	大槻賢二郎 / MUR-Z 0:47:20 / 56 2:11:57 / 34
35	東京工業大学MC 2:12:22 (187)	椎名渉 / MUR-Z 0:47:04 / 60 0:47:04 / 60	藤本翔太 / MUR-Y 0:45:54 / 53 1:32:58 / 45	神野直紀 / MUR-X 0:39:24 / 28 2:12:22 / 35
36	京都大学MI 2:14:50 (242)	石田倫啓 / MUR-Y 0:38:04 / 32 0:38:04 / 32	龍溪優希 / MUR-X 0:59:49 / 90 1:37:53 / 55	伊藤良介 / MUR-Z 0:36:57 / 19 2:14:50 / 36
37	東京大学MK 2:15:07 (167)	有澤達哉 / MUR-Z 0:46:57 / 59 0:46:57 / 59	阿部冬星 / MUR-Y 0:46:51 / 56 1:33:48 / 47	西浦裕 / MUR-X 0:41:19 / 37 2:15:07 / 37
38	千葉大学ME 2:15:09 (148)	伊地知淳 / MUR-Z 0:41:23 / 44 0:41:23 / 44	大串裕也 / MUR-Y 0:45:05 / 46 1:26:28 / 33	笠井虹汰 / MUR-X 0:48:41 / 61 2:15:09 / 38
39	横浜国立大学MB 2:16:28 (176)	津田悠暉 / MUR-Y 0:45:56 / 56 0:45:56 / 56	鈴木琢也 / MUR-X 0:53:25 / 78 1:39:21 / 59	宮下旺 / MUR-Z 0:37:07 / 20 2:16:28 / 39
40	東北大学MK 2:17:03 (112)	篠崎崇智 / MUR-X 0:57:35 / 93 0:57:35 / 93	龍堀巧 / MUR-Z 0:39:03 / 25 1:36:38 / 53	高野智也 / MUR-Y 0:40:25 / 34 2:17:03 / 40
41	横浜国立大学MA 2:17:18 (175)	石井悠太 / MUR-X 0:59:49 / 97 0:59:49 / 97	津田卓磨 / MUR-Z 0:34:43 / 17 1:34:32 / 50	戸澤貴志 / MUR-Y 0:42:46 / 40 2:17:18 / 41
42	京都大学MJ 2:19:26 (243)	河合郁弥 / MUR-Z 1:06:11 / 107 1:06:11 / 107	亀家貴志 / MUR-X 0:33:41 / 15 1:39:52 / 61	篠原幹博 / MUR-Y 0:39:34 / 30 2:19:26 / 42
43	早稲田大学MB 2:21:40 (179)	小川一真 / MUR-X 0:51:52 / 77 0:51:52 / 77	屋口正鷹 / MUR-Z 0:45:44 / 52 1:37:36 / 54	内海瞭 / MUR-Y 0:44:04 / 46 2:21:40 / 43
44	東京大学MO 2:21:48 (171)	三上拓真 / MUR-X 0:39:34 / 37 0:39:34 / 37	清水直 / MUR-Z 0:52:42 / 72 1:32:16 / 43	岡本洸彰 / MUR-Y 0:49:32 / 62 2:21:48 / 44
45	筑波大学MC 2:22:23 (151)	前田典歩 / MUR-X 0:46:56 / 58 0:46:56 / 58	柿沼晴喜 / MUR-Z 0:43:21 / 35 1:30:17 / 41	小山正伍 / MUR-Y 0:52:06 / 67 2:22:23 / 45
46	東京農工大学MA 2:23:31 (172)	桐山大輝 / MUR-Z 0:51:14 / 74 0:51:14 / 74	伊藤隼太郎 / MUR-X 0:47:29 / 58 1:38:43 / 57	荒川悠人 / MUR-Y 0:44:48 / 50 2:23:31 / 46
47	大阪大学MC 2:24:37 (229)	金城和志 / MUR-Z 0:42:23 / 49 0:42:23 / 49	吉田薪史 / MUR-Y 0:46:04 / 54 1:28:27 / 37	窪田信司 / MUR-X 0:56:10 / 78 2:24:37 / 47

48	大阪大学MA 2:25:34 (227)	遠藤匠真 / MUR-Z 1:05:41 / 106 1:05:41 / 106	吉原幸輝 / MUR-X 0:40:57 / 27 1:46:38 / 69	稲岡雄介 / MUR-Y 0:38:56 / 27 2:25:34 / 48
49	東京大学MD 2:25:36 (160)	長江有祐 / MUR-Z 0:50:21 / 69 0:50:21 / 69	佐藤公洋 / MUR-Y 0:42:38 / 32 1:32:59 / 46	後藤幸大 / MUR-X 0:52:37 / 68 2:25:36 / 49
50	東北大学MH 2:25:39 (109)	種澤遼太郎 / MUR-X 0:58:09 / 95 0:58:09 / 95	八重樫篤矢 / MUR-Y 0:44:26 / 42 1:42:35 / 63	古屋洸 / MUR-Z 0:43:04 / 42 2:25:39 / 50
51	慶應義塾大学MB 2:26:12 (141)	上村太城 / MUR-Z 0:46:38 / 57 0:46:38 / 57	深野広大 / MUR-X 0:41:35 / 29 1:28:13 / 36	茂原瑞基 / MUR-Y 0:57:59 / 82 2:26:12 / 51
52	新潟大学MD 2:26:21 (136)	岩淵悠太 / MUR-Y 0:30:11 / 9 0:30:11 / 9	坂本慧 / MUR-X 0:50:39 / 69 1:20:50 / 28	丸山幸太 / MUR-Z 1:05:31 / 98 2:26:21 / 52
53	東北大学ME 2:30:00 (106)	西村肇倫 / MUR-X 0:57:05 / 90 0:57:05 / 90	岩崎正嗣 / MUR-Y 1:01:05 / 95 1:58:10 / 90	小平修 / MUR-Z 0:31:50 / 9 2:30:00 / 53
54	金沢大学MC 2:30:22 (129)	板岡拓郎 / MUR-Y 1:01:49 / 101 1:01:49 / 101	二瓶勢真 / MUR-X 0:45:39 / 50 1:47:28 / 72	日吉将大 / MUR-Z 0:42:54 / 41 2:30:22 / 54
55	新潟大学MA 2:31:44 (133)	佐藤太一 / MUR-X 1:01:26 / 100 1:01:26 / 100	柴山大侑 / MUR-Z 0:44:11 / 41 1:45:37 / 66	濱口広 / MUR-Y 0:46:07 / 54 2:31:44 / 55
56	大阪大学MF 2:31:55 (232)	萱尾澄人 / MUR-X 0:34:42 / 27 0:34:42 / 27	竹重拓輝 / MUR-Z 0:45:07 / 47 1:19:49 / 26	高見和希 / MUR-Y 1:12:06 / 106 2:31:55 / 56
57	千葉大学MC 2:32:01 (146)	結城大瑚 / MUR-Y 0:48:55 / 65 0:48:55 / 65	橋本勇士 / MUR-Z 0:49:04 / 61 1:37:59 / 56	村山泰眸 / MUR-X 0:54:02 / 72 2:32:01 / 57
58	東京大学MJ 2:32:19 (166)	伊藤嵩真 / MUR-Y 0:50:44 / 71 0:50:44 / 71	藤原悠平 / MUR-Z 0:43:29 / 36 1:34:13 / 48	熊木智哉 / MUR-X 0:58:06 / 83 2:32:19 / 58
59	名古屋大学MI 2:33:01 (216)	茶谷知哉 / MUR-X 0:43:41 / 52 0:43:41 / 52	大森総司 / MUR-Z 0:43:58 / 39 1:27:39 / 35	松永隼 / MUR-Y 1:05:22 / 97 2:33:01 / 59
60	茨城大学MA 2:33:57 (198)	西田直人 / MUR-Y 0:30:43 / 12 0:30:43 / 12	溝井翔太 / MUR-X 0:49:51 / 65 1:20:34 / 27	竹下晴山 / MUR-Z 1:13:23 / 108 2:33:57 / 60
61	北海道大学ME 2:34:22 (124)	野村峻太 / MUR-Y 0:41:33 / 45 0:41:33 / 45	野口晃太郎 / MUR-X 0:52:50 / 73 1:34:23 / 49	藤本紘哉 / MUR-Z 0:59:59 / 88 2:34:22 / 61
62	東京農工大学MB 2:34:36 (173)	大石征裕 / MUR-Z 0:48:19 / 64 0:48:19 / 64	板橋侑樹 / MUR-X 0:47:54 / 60 1:36:13 / 52	松崎竜也 / MUR-Y 0:58:23 / 84 2:34:36 / 62
63	茨城大学MD 2:34:49 (201)	水澤和大 / MUR-X 0:47:14 / 62 0:47:14 / 62	柏谷翔大 / MUR-Z 0:59:00 / 87 1:46:14 / 68	到津春樹 / MUR-Y 0:48:35 / 60 2:34:49 / 63

64	早稲田大学MC 2:35:24 (180)	萱沼優也 / MUR-Z 0:51:53 / 78 0:51:53 / 78	竹山翔悟 / MUR-X 0:47:44 / 59 1:39:37 / 60	森泉達貴 / MUR-Y 0:55:47 / 77 2:35:24 / 64
65	東京大学MG 2:37:51 (163)	久保川和馬 / MUR-Z 0:52:38 / 82 0:52:38 / 82	飯田泰史 / MUR-X 0:43:19 / 34 1:35:57 / 51	西田成佑 / MUR-Y 1:01:54 / 92 2:37:51 / 65
66	名古屋大学ME 2:38:34 (212)	杉浦航 / MUR-Z 1:05:40 / 105 1:05:40 / 105	藤井悠輝 / MUR-Y 0:44:49 / 43 1:50:29 / 79	新家康弘 / MUR-X 0:48:05 / 58 2:38:34 / 66
67	東京工業大学MI 2:41:33 (193)	柳康太 / MUR-X 0:42:52 / 50 0:42:52 / 50	伊藤有哉 / MUR-Z 1:14:13 / 114 1:57:05 / 89	高橋洸太 / MUR-Y 0:44:28 / 47 2:41:33 / 67
68	早稲田大学MF 2:43:45 (183)	秋元郁 / MUR-Y 0:54:09 / 87 0:54:09 / 87	中村諒 / MUR-X 0:58:16 / 84 1:52:25 / 82	新井宇宙 / MUR-Z 0:51:20 / 63 2:43:45 / 68
69	東京工業大学MF 2:46:15 (190)	青木航流 / MUR-Y 0:53:19 / 84 0:53:19 / 84	瀧井健介 / MUR-Z 0:54:33 / 80 1:47:52 / 74	藤谷慶一朗 / MUR-X 0:58:23 / 84 2:46:15 / 69
70	慶應義塾大学MD 2:47:51 (143)	伊藤頌太 / MUR-X 0:53:27 / 85 0:53:27 / 85	山根正太郎 / MUR-Y 1:09:41 / 107 2:03:08 / 94	田淵ヒカル / MUR-Z 0:44:43 / 49 2:47:51 / 70
71	北海道大学MB 2:50:05 (121)	栴澤朋之 / MUR-X 1:11:46 / 116 1:11:46 / 116	白旗洸太 / MUR-Y 0:53:23 / 77 2:05:09 / 97	藤本卓嗣 / MUR-Z 0:44:56 / 52 2:50:05 / 71
72	静岡大学MA 2:50:18 (204)	澤入圭司 / MUR-Z 0:37:59 / 31 0:37:59 / 31	本田明良 / MUR-Y 0:53:51 / 79 1:31:50 / 42	伊藤拓登 / MUR-X 1:18:28 / 115 2:50:18 / 72
73	静岡大学MC 2:50:36 (206)	藤永拓 / MUR-X 0:49:23 / 66 0:49:23 / 66	森下晃成 / MUR-Z 0:58:38 / 86 1:48:01 / 76	水野渉吾 / MUR-Y 1:02:35 / 93 2:50:36 / 73
74	名古屋大学MJ 2:50:39 (217)	森田涼介 / MUR-Y 0:40:33 / 43 0:40:33 / 43	稲垣光希 / MUR-X 1:11:31 / 110 1:52:04 / 81	鈴木康熙 / MUR-Z 0:58:35 / 86 2:50:39 / 74
75	名古屋大学MO 2:51:58 (222)	金津怜央奈 / MUR-Z 0:32:51 / 22 0:32:51 / 22	井上祐人 / MUR-X 1:06:24 / 103 1:39:15 / 58	松村祐輝 / MUR-Y 1:12:43 / 107 2:51:58 / 75
76	金沢大学MD 2:52:53 (130)	奥田隆史 / MUR-Z 0:52:41 / 83 0:52:41 / 83	峯友紀 / MUR-Y 0:53:12 / 76 1:45:53 / 67	近藤光 / MUR-X 1:07:00 / 99 2:52:53 / 76
77	名古屋工業大学MA 2:54:37 (226)	藤井一樹 / MUR-Z 0:50:39 / 70 0:50:39 / 70	鈴木雄太 / MUR-Y 1:02:06 / 97 1:52:45 / 83	小俣敦宏 / MUR-X 1:01:52 / 91 2:54:37 / 77
78	新潟大学MB 2:54:41 (134)	奥脇琢朗 / MUR-Y 0:44:00 / 54 0:44:00 / 54	土井一輝 / MUR-Z 1:01:32 / 96 1:45:32 / 65	鎌田和希 / MUR-X 1:09:09 / 100 2:54:41 / 78
79	北海道大学MC 2:55:50 (122)	古村淳吉 / MUR-Y 0:48:01 / 63 0:48:01 / 63	大野弘人 / MUR-Z 0:52:40 / 70 1:40:41 / 62	山下聡太 / MUR-X 1:15:09 / 111 2:55:50 / 79

80	北海道大学MA 2:57:32 (120)	坪井政樹 / MUR-Z 1:13:52 / 118 1:13:52 / 118	清水嘉人 / MUR-Y 0:59:01 / 88 2:12:53 / 106	森倭渡 / MUR-X 0:44:39 / 48 2:57:32 / 80
81	東京工業大学MM 2:57:50 (197)	田中大樹 / MUR-Z 1:07:33 / 110 1:07:33 / 110	大場隆太郎 / MUR-Y 1:02:10 / 98 2:09:43 / 100	尾山直駿 / MUR-X 0:48:07 / 59 2:57:50 / 81
82	千葉大学MD 2:58:16 (147)	奥田陸 / MUR-Y 0:51:19 / 75 0:51:19 / 75	渡邊大地 / MUR-X 1:05:23 / 101 1:56:42 / 88	米沢嘉彦 / MUR-Z 1:01:34 / 90 2:58:16 / 82
83	早稲田大学MD 2:59:15 (181)	大橋遼 / MUR-Y 0:40:11 / 41 0:40:11 / 41	石田健太郎 / MUR-Z 1:09:09 / 105 1:49:20 / 77	眞弓拓馬 / MUR-X 1:09:55 / 102 2:59:15 / 83
84	千葉大学MB 3:00:03 (145)	本多一成 / MUR-X 1:07:15 / 109 1:07:15 / 109	山口龍哉 / MUR-Z 0:56:02 / 82 2:03:17 / 95	森山凌佑 / MUR-Y 0:56:46 / 81 3:00:03 / 84
85	東京大学MI 3:03:01 (165)	富岡洸貴 / MUR-X 0:57:48 / 94 0:57:48 / 94	吉田脩人 / MUR-Y 1:13:24 / 113 2:11:12 / 102	河野隼司 / MUR-Z 0:51:49 / 64 3:03:01 / 85
86	東北大学MI 3:03:03 (110)	斎藤晃弥 / MUR-Y 0:38:34 / 34 0:38:34 / 34	室谷拓治 / MUR-Z 1:30:51 / 126 2:09:25 / 99	水田達也 / MUR-X 0:53:38 / 70 3:03:03 / 86
87	新潟大学ME 3:05:16 (137)	小笠原篤也 / MUR-X 0:57:10 / 91 0:57:10 / 91	藤村晋也 / MUR-Y 0:50:18 / 68 1:47:28 / 72	加藤寛之 / MUR-Z 1:17:48 / 113 3:05:16 / 87
88	名古屋大学MK 3:05:48 (218)	澤田陸 / MUR-X 0:53:33 / 86 0:53:33 / 86	池田旭 / MUR-Y 1:16:41 / 118 2:10:14 / 101	棟方隆司 / MUR-Z 0:55:34 / 76 3:05:48 / 88
89	横浜市立大学MB 3:06:10 (203)	高橋和総 / MUR-X 0:57:12 / 92 0:57:12 / 92	梅村隼人 / MUR-Y 1:15:45 / 117 2:12:57 / 107	坂上弘輝 / MUR-Z 0:53:13 / 69 3:06:10 / 90
89	岩手大学MA 3:06:09 (101)	原柊斗 / MUR-Z 0:54:12 / 88 0:54:12 / 88	中村僚佑 / MUR-Y 1:17:50 / 120 2:12:02 / 104	周藤裕 / MUR-X 0:54:07 / 73 3:06:09 / 89
91	京都大学MF 3:06:23 (239)	岡本哲史 / MUR-X 0:47:10 / 61 0:47:10 / 61	金澤晴樹 / MUR-Z 1:05:44 / 102 1:52:54 / 84	枝澤勇太 / MUR-Y 1:13:29 / 109 3:06:23 / 91
92	一橋大学MA 3:06:28 (184)	小池一輝 / MUR-X 0:59:58 / 98 0:59:58 / 98	柏田芳樹 / MUR-Y 0:42:42 / 33 1:42:40 / 64	後藤和樹 / MUR-Z 1:23:48 / 120 3:06:28 / 92
93	東京大学MH 3:06:45 (164)	松嶋亮弥 / MUR-Z 0:52:03 / 79 0:52:03 / 79	八坂泰河 / MUR-Y 0:55:15 / 81 1:47:18 / 71	左右田駿 / MUR-X 1:19:27 / 116 3:06:45 / 93
94	大阪大学MB 3:06:54 (228)	佐藤宏賢 / MUR-Y 1:19:02 / 120 1:19:02 / 120	裕田捷将 / MUR-Z 0:53:07 / 75 2:12:09 / 105	尾崎涼太 / MUR-X 0:54:45 / 75 3:06:54 / 94
95	東北大学MO 3:07:23 (116)	竹花佳祐 / MUR-Z 0:50:10 / 68 0:50:10 / 68	古関駿介 / MUR-Y 1:00:09 / 92 1:50:19 / 78	千葉滉平 / MUR-X 1:17:04 / 112 3:07:23 / 95

96	名古屋大学MH 3:07:32 (215)	山田雄太 / MUR-Z 1:11:17 / 115 1:11:17 / 115	八木勇亮 / MUR-X 0:45:19 / 49 1:56:36 / 87	芦本陸 / MUR-Y 1:10:56 / 104 3:07:32 / 96
97	名古屋大学MP 3:08:09 (223)	葉山旺 / MUR-Y 0:39:45 / 38 0:39:45 / 38	相馬健太 / MUR-Z 1:07:28 / 104 1:47:13 / 70	浅田雄一 / MUR-X 1:20:56 / 117 3:08:09 / 97
98	千葉大学MA 3:15:15 (144)	岩佐一大 / MUR-Z 1:08:14 / 111 1:08:14 / 111	水流尚樹 / MUR-X 0:52:41 / 71 2:00:55 / 92	磯邊岳晃 / MUR-Y 1:14:20 / 110 3:15:15 / 98
99	名古屋大学MQ 3:16:13 (224)	森田悠生 / MUR-X 1:09:22 / 114 1:09:22 / 114	脇慎一郎 / MUR-Z 1:13:04 / 112 2:22:26 / 114	田牧将馬 / MUR-Y 0:53:47 / 71 3:16:13 / 99
100	静岡大学MB 3:17:36 (205)	矢田祐喜 / MUR-Y 0:56:59 / 89 0:56:59 / 89	和田佳丈 / MUR-Z 1:02:26 / 99 1:59:25 / 91	森田邦夫 / MUR-X 1:18:11 / 114 3:17:36 / 100
101	早稲田大学ME 3:18:37 (182)	松井泰道 / MUR-Z 0:49:49 / 67 0:49:49 / 67	上保望 / MUR-Y 1:27:48 / 124 2:17:37 / 111	木本琢登 / MUR-X 1:01:00 / 89 3:18:37 / 101
102	名古屋大学MG 3:19:07 (214)	橋本翔太郎 / MUR-X 1:33:07 / 125 1:33:07 / 125	加藤宏明 / MUR-Y 0:49:37 / 64 2:22:44 / 115	宮川大輝 / MUR-Z 0:56:23 / 79 3:19:07 / 102
103	名古屋大学MM 3:19:33 (220)	速水駿 / MUR-Z 1:30:49 / 123 1:30:49 / 123	杉浦智樹 / MUR-Y 0:49:53 / 66 2:20:42 / 112	前川泰吉 / MUR-X 0:58:51 / 87 3:19:33 / 103
104	東京工業大学MJ 3:20:43 (194)	山本洵哉 / MUR-Z 0:41:59 / 47 0:41:59 / 47	佐久間亮 / MUR-X 1:09:10 / 106 1:51:09 / 80	田口滉一 / MUR-Y 1:29:34 / 122 3:20:43 / 104
105	京都大学MG 3:22:42 (240)	土屋祐太郎 / MUR-X 1:07:13 / 108 1:07:13 / 108	豊永雄郎 / MUR-Y 1:30:38 / 125 2:37:51 / 118	山崎星雅 / MUR-Z 0:44:51 / 51 3:22:42 / 105
106	東京工業大学MH 3:25:59 (192)	豊澤義文 / MUR-X 1:02:05 / 102 1:02:05 / 102	高林健太 / MUR-Y 1:12:41 / 111 2:14:46 / 108	天木祐希 / MUR-Z 1:11:13 / 105 3:25:59 / 106
107	東京工業大学ML 3:26:49 (196)	庄司晃太 / MUR-Y 0:52:26 / 80 0:52:26 / 80	岡野幹生 / MUR-Z 1:24:53 / 123 2:17:19 / 110	瀬川桃加 / MUR-X 1:09:30 / 101 3:26:49 / 107
108	北海道大学MD 3:27:59 (123)	東孝樹 / MUR-Z 1:31:37 / 124 1:31:37 / 124	森谷恵吾 / MUR-X 1:04:26 / 100 2:36:03 / 117	野澤優斗 / MUR-Y 0:51:56 / 65 3:27:59 / 108
109	筑波大学ME 3:33:34 (153)	関口直希 / MUR-Y 0:52:31 / 81 0:52:31 / 81	大山智弘 / MUR-Z 1:19:06 / 121 2:11:37 / 103	荒木政紀 / MUR-X 1:21:57 / 119 3:33:34 / 109
110	福島大学MA 3:36:44 (126)	丹治光太郎 / MUR-X 1:12:44 / 117 1:12:44 / 117	高野橋侑大 / MUR-Z 0:50:03 / 67 2:02:47 / 93	須田真人 / MUR-Y 1:33:57 / 124 3:36:44 / 110
111	名古屋大学MN 3:38:57 (221)	天野克則 / MUR-X 1:02:44 / 103 1:02:44 / 103	壁谷汰知 / MUR-Y 1:14:25 / 116 2:17:09 / 109	出口智士 / MUR-Z 1:21:48 / 118 3:38:57 / 111

112	大阪大学MD 3:45:42 (230)	永江孝太郎 / MUR-Y 0:59:58 / 98 0:59:58 / 98	峰松真也 / MUR-X 1:21:30 / 122 2:21:28 / 113	濱崎誠士 / MUR-Z 1:24:14 / 121 3:45:42 / 112
113	東京工業大学MK 4:06:36 (195)	角野裕之 / MUR-Z 1:25:26 / 122 1:25:26 / 122	堀越遥介 / MUR-Y 1:31:08 / 127 2:56:34 / 119	法月奏太 / MUR-X 1:10:02 / 103 4:06:36 / 113
	横浜市立大学MA DISQ (202)	市川礼偉 / MUR-Y 0:58:18 / 96 0:58:18 / 96	北川賢也 / MUR-Z 0:49:34 / 63 1:47:52 / 74	有吉優樹 / MUR-X DISQ / /
	新潟大学MF DISQ (138)	峰島克幸 / MUR-Y 0:42:52 / 50 0:42:52 / 50	袴田翔太 / MUR-Z 1:10:38 / 108 1:53:30 / 85	石田香介 / MUR-X DISQ / /
	筑波大学MD DISQ (152)	鳩力乃助 / MUR-Z 1:08:52 / 112 1:08:52 / 112	安達郁哉 / MUR-X 0:44:57 / 44 1:53:49 / 86	仁野平拓 / MUR-Y DISQ / /
	東北大学MF DISQ (107)	大塚駿 / MUR-Z 1:04:38 / 104 1:04:38 / 104	村上洸 / MUR-X 0:59:07 / 89 2:03:45 / 96	三國稔男 / MUR-Y DISQ / /
	東北大学MN DISQ (115)	井坂将隆 / MUR-Z 0:50:57 / 72 0:50:57 / 72	後庵野大輔 / MUR-X 1:17:30 / 119 2:08:27 / 98	田尻佳大 / MUR-Y DISQ / /
	東京大学MM DISQ (169)	伊藤颯 / MUR-Y 1:09:09 / 113 1:09:09 / 113	日比浩喜 / MUR-X 1:14:23 / 115 2:23:32 / 116	辛川槇之介 / MUR-Z DISQ / /
	大阪大学ME DISQ (231)	榊原諒 / MUR-X 1:16:02 / 119 1:16:02 / 119	石橋諒 / MUR-Y 1:46:20 / 129 3:02:22 / 120	岡村春日 / MUR-Z DISQ / /
	京都大学MC DISQ (236)	大野絢平 / MUR-Z 0:38:05 / 33 0:38:05 / 33	小池椋介 / MUR-Y DISQ / /	沖中陽幸 / MUR-X 0:32:04 / 10 /
	京都大学MH DISQ (241)	藤本拓也 / MUR-Y 0:40:01 / 39 0:40:01 / 39	豊國郁人 / MUR-Z DISQ / /	木下雄大 / MUR-X 0:51:58 / 66 /
	静岡大学MD DISQ (207)	紅林亮平 / MUR-Y 0:40:03 / 40 0:40:03 / 40	細川敦司 / MUR-X DISQ / /	細川風輝 / MUR-Z DISQ / /
	東京農工大学MC DISQ (174)	安齋音哉 / MUR-X 0:51:00 / 73 0:51:00 / 73	小田隼士 / MUR-Y DISQ / /	渡部真拓 / MUR-Z DISQ / /
	東北大学MM DISQ (114)	浜野有都 / MUR-X 1:23:30 / 121 1:23:30 / 121	立川凌平 / MUR-Z DISQ / /	村瀬友哉 / MUR-Y DISQ / /
	京都大学MD DISQ (237)	村中結希 / MUR-Y 1:37:40 / 126 1:37:40 / 126	渡邊勇熙 / MUR-Z DISQ / /	笹部龍仁 / MUR-X 1:31:13 / 123 /
	京都大学MA DISQ (234)	山本明史 / MUR-Z DISQ / /	太田知也 / MUR-X 0:30:48 / 6 /	松本萌希 / MUR-Y 1:04:46 / 95 /

	名古屋大学MR DISQ (225)	岡村和於 / MUR-Y DISQ / /	前田貴仁 / MUR-X 1:00:14 / 93 /	飯田晟樹 / MUR-Z 0:47:52 / 57 /
	茨城大学MC DISQ (200)	笹嶋建吾 / MUR-Z DISQ / /	遠藤優介 / MUR-X 0:49:05 / 62 /	水原航平 / MUR-Y 1:05:00 / 96 /
	東京工業大学MG DISQ (191)	榎森康晴 / MUR-Y DISQ / /	瓜生侑 / MUR-X 1:00:58 / 94 /	浴歩輝 / MUR-Z 0:45:38 / 53 /
	東京工業大学ME DISQ (189)	三浦開登 / MUR-X DISQ / /	古殿直也 / MUR-Y 0:56:41 / 83 /	河野貴大 / MUR-Z 0:37:36 / 24 /
	新潟大学MC DISQ (135)	山下政泰 / MUR-X DISQ / /	櫻井悠斗 / MUR-Y 1:41:31 / 128 /	深津圭祐 / MUR-Z DISQ / /
	金沢大学ME DISQ (131)	小森達郎 / MUR-Z DISQ / /	大石航輔 / MUR-Y 1:11:15 / 109 /	清水有希 / MUR-X 0:43:08 / 43 /
	東北大学MR DISQ (119)	小林伸次 / MUR-X DISQ / /	萩谷凌大 / MUR-Z 0:45:42 / 51 /	村田温基 / MUR-Y 1:03:57 / 94 /
	東北大学MA DISQ (102)	伊藤光祐 / MUR-Y DISQ / /	金子哲士 / MUR-Z 0:31:57 / 9 /	長岡凌生 / MUR-X 0:28:25 / 1 /

<WUR 参加数40組>

順位	チーム名/記録	1走	2走	3走
1	東北大学WA 1:08:30 (301)	白井沙耶香 / WUR-Z 0:22:54 / 1 0:22:54 / 1	小林祐子 / WUR-X 0:24:05 / 1 0:46:59 / 1	青代香菜子 / WUR-Y 0:21:31 / 1 1:08:30 / 1
2	嵯山女学園大学WA 1:22:41 (321)	須本みずほ / WUR-X 0:24:34 / 3 0:24:34 / 3	山森麻未 / WUR-Z 0:29:04 / 3 0:53:38 / 2	小野花織 / WUR-Y 0:29:03 / 6 1:22:41 / 2
3	筑波大学WA 1:23:53 (308)	佐久間若菜 / WUR-Y 0:25:59 / 4 0:25:59 / 4	野口珠希 / WUR-Z 0:34:13 / 10 1:00:12 / 4	小竹佳穂 / WUR-X 0:23:41 / 2 1:23:53 / 3
4	名古屋大学WA 1:32:04 (320)	渡我部ゆき / WUR-Z 0:28:41 / 9 0:28:41 / 9	鈴木春音 / WUR-X 0:39:01 / 19 1:07:42 / 12	伊部琴美 / WUR-Y 0:24:22 / 3 1:32:04 / 4
5	実践女子大学WA 1:32:15 (311)	山本優海 / WUR-Z 0:33:07 / 19 0:33:07 / 19	増田風見花 / WUR-X 0:30:35 / 5 1:03:42 / 6	鈴木日菜 / WUR-Y 0:28:33 / 4 1:32:15 / 5
6	奈良女子大学WA 1:39:29 (338)	中川真緒 / WUR-Z 0:27:41 / 7 0:27:41 / 7	布施谷綺子 / WUR-Y 0:43:05 / 23 1:10:46 / 16	近藤あゆみ / WUR-X 0:28:43 / 5 1:39:29 / 6
7	東北大学WB 1:41:10 (302)	清水桃奈 / WUR-Y 0:33:35 / 20 0:33:35 / 20	昆沙賀菜々子 / WUR-X 0:30:27 / 4 1:04:02 / 8	久住結香 / WUR-Z 0:37:08 / 13 1:41:10 / 7

8	聖心女子大学・ 広島大学混成 1:42:28 (315)	明神紀子 / WUR-Z 0:28:09 / 8 0:28:09 / 8	野中麻佑子 / WUR-Y 0:45:02 / 27 1:13:11 / 18	齋藤百花 / WUR-X 0:29:17 / 7 1:42:28 / 8
9	十文字女子大学WA 1:43:10 (319)	小林美咲 / WUR-Y 0:23:14 / 2 0:23:14 / 2	加藤めぐみ / WUR-Z 0:44:51 / 26 1:08:05 / 13	村山友梨 / WUR-X 0:35:05 / 11 1:43:10 / 9
10	宮城学院女子大学WB 1:47:36 (305)	藤本朱子 / WUR-X 0:31:36 / 16 0:31:36 / 16	千葉香里 / WUR-Y 0:44:42 / 25 1:16:18 / 19	佐藤可菜 / WUR-Z 0:31:18 / 8 1:47:36 / 10
11	京都女子大学WB 1:50:43 (333)	藤澤はる那 / WUR-Y 0:30:36 / 12 0:30:36 / 12	藤岡奈々 / WUR-Z 0:33:11 / 8 1:03:47 / 7	時森さみか / WUR-X 0:46:56 / 21 1:50:43 / 11
12	椙山女学園大学WB 1:55:08 (322)	余語文香 / WUR-Y 0:32:41 / 18 0:32:41 / 18	明田彩里 / WUR-X 0:27:06 / 2 0:59:47 / 3	山崎璃果 / WUR-Z 0:55:21 / 31 1:55:08 / 12
13	津田塾大学WA 1:55:30 (316)	保木祥声 / WUR-Y 0:30:13 / 11 0:30:13 / 11	栗本美緒 / WUR-X 0:41:17 / 21 1:11:30 / 17	荻原沙季 / WUR-Z 0:44:00 / 17 1:55:30 / 13
14	実践女子大学WB 1:56:52 (312)	田原真綺 / WUR-Y 0:34:31 / 23 0:34:31 / 23	藤島志帆 / WUR-X 0:32:19 / 6 1:06:50 / 11	藤平歩 / WUR-Z 0:50:02 / 24 1:56:52 / 14
15	フェリス女学院大学・ 相模女子大学・北里大 学混成 1:57:30 (340)	潘晨妍 / WUR-Y 0:44:00 / 30 0:44:00 / 30	中山潤子 / WUR-Z 0:37:01 / 16 1:21:01 / 22	中地未歩 / WUR-X 0:36:29 / 12 1:57:30 / 15
16	椙山女学園大学WK 1:58:31 (331)	福地あかり / WUR-Z 0:27:31 / 5 0:27:31 / 5	林彩楓 / WUR-X 0:35:34 / 14 1:03:05 / 5	植村日向 / WUR-Y 0:55:26 / 32 1:58:31 / 16
17	相模女子大学WA 1:59:24 (313)	ノーディング怜奈 / WUR-X 0:48:33 / 34 0:48:33 / 34	金井悠 / WUR-Z 0:38:56 / 18 1:27:29 / 27	吉澤佳帆 / WUR-Y 0:31:55 / 9 1:59:24 / 17
18	立教大学WA 2:02:42 (309)	中島緑里 / WUR-Z 0:27:32 / 6 0:27:32 / 6	中村咲野 / WUR-Y 0:41:29 / 22 1:09:01 / 14	門松歩美 / WUR-X 0:53:41 / 27 2:02:42 / 18
19	東北大学WC 2:03:18 (303)	横山由奈 / WUR-Y 0:31:19 / 14 0:31:19 / 14	茶藤あみ / WUR-Z 0:34:47 / 12 1:06:06 / 10	和山実咲 / WUR-X 0:57:12 / 34 2:03:18 / 19
20	千葉大学WA 2:07:53 (307)	鈴木咲希 / WUR-X 0:33:36 / 21 0:33:36 / 21	門倉実咲 / WUR-Z 1:00:46 / 32 1:34:22 / 28	三木智海 / WUR-Y 0:33:31 / 10 2:07:53 / 20
21	宮城学院女子大学WA 2:08:19 (304)	佐々木亜珠 / WUR-Z 0:35:16 / 26 0:35:16 / 26	高倉玲衣 / WUR-Y 0:33:49 / 9 1:09:05 / 15	中村莉子 / WUR-X 0:59:14 / 35 2:08:19 / 21
22	椙山女学園大学WJ 2:09:00 (330)	恒川萌未 / WUR-Z 0:45:40 / 32 0:45:40 / 32	児山千都 / WUR-X 0:33:02 / 7 1:18:42 / 21	青木志薫 / WUR-Y 0:50:18 / 25 2:09:00 / 22

23	梶山女学園大学WC 2:13:51 (323)	刈谷まりい / WUR-Z 1:00:55 / 37 1:00:55 / 37	安藤瑠乃 / WUR-Y 0:34:38 / 11 1:35:33 / 30	河合璃子 / WUR-X 0:38:18 / 14 2:13:51 / 23
24	京都女子大学WA 2:19:31 (332)	金田満帆 / WUR-X 0:39:39 / 29 0:39:39 / 29	鈴木沙綾 / WUR-Y 0:46:02 / 28 1:25:41 / 25	内堀百里子 / WUR-Z 0:53:50 / 28 2:19:31 / 24
25	京都女子大学WC 2:20:29 (334)	上原珠美 / WUR-Y 0:44:20 / 31 0:44:20 / 31	小橋唯華 / WUR-X 0:50:36 / 29 1:34:56 / 29	坂東愉楽 / WUR-Z 0:45:33 / 18 2:20:29 / 25
26	梶山女学園大学WG 2:22:06 (327)	太田希美 / WUR-Y 0:31:35 / 15 0:31:35 / 15	杉浦凜 / WUR-Z 1:04:06 / 33 1:35:41 / 31	菊地朝美 / WUR-X 0:46:25 / 19 2:22:06 / 26
27	梶山女学園大学WF 2:28:14 (326)	飯田桃子 / WUR-Y 0:48:53 / 35 0:48:53 / 35	佐田華澄 / WUR-X 0:37:07 / 17 1:26:00 / 26	佐々木萌音 / WUR-Z 1:02:14 / 36 2:28:14 / 27
28	梶山女学園大学WD 2:28:18 (324)	久野桃子 / WUR-X 0:31:17 / 13 0:31:17 / 13	安藤真輝 / WUR-Y 0:52:34 / 30 1:23:51 / 23	土屋雅 / WUR-Z 1:04:27 / 37 2:28:18 / 28
29	相模女子大学WB 2:30:42 (314)	佐藤光 / WUR-Y 0:49:47 / 36 0:49:47 / 36	林智歩 / WUR-Z 0:35:10 / 13 1:24:57 / 24	濱野まりあ / WUR-X 1:05:45 / 38 2:30:42 / 29
30	京都女子大学WD 2:36:02 (335)	西塚桃子 / WUR-Z 0:47:30 / 33 0:47:30 / 33	森口華帆 / WUR-Y 0:57:19 / 31 1:44:49 / 32	酒井舞子 / WUR-X 0:51:13 / 26 2:36:02 / 30
31	早稲田大学WA 2:48:38 (310)	里見穂 / WUR-X 0:35:12 / 25 0:35:12 / 25	渡辺紀保 / WUR-Y 1:33:38 / 34 2:08:50 / 34	松本環 / WUR-Z 0:39:48 / 15 2:48:38 / 31
32	奈良女子大学WB 3:01:53 (339)	小笠原萌 / WUR-X 0:31:53 / 17 0:31:53 / 17	吉居育美 / WUR-Y 1:35:33 / 35 2:07:26 / 33	堤紀子 / WUR-Z 0:54:27 / 30 3:01:53 / 32
33	実践女子大学・ 津田塾大学混成 3:33:22 (341)	松澤京加 / WUR-X 0:34:44 / 24 0:34:44 / 24	富山詩央里 / WUR-Z 2:04:27 / 36 2:39:11 / 35	柴田菜央 / WUR-Y 0:54:11 / 29 3:33:22 / 33
	茨城大学WA DISQ (317)	吉田茉莉枝 / WUR-X 0:29:05 / 10 0:29:05 / 10	根本真子 / WUR-Y 0:36:49 / 15 1:05:54 / 9	大村彩耶香 / WUR-Z DISQ / /
	梶山女学園大学WI DISQ (329)	松島優 / WUR-X 0:33:43 / 22 0:33:43 / 22	柴山奈穂 / WUR-Z 0:43:22 / 24 1:17:05 / 20	松澤佳世 / WUR-Y DISQ / /
	梶山女学園大学WE DISQ (325)	横山結女 / WUR-Z 0:38:07 / 27 0:38:07 / 27	古田真由 / WUR-Y DISQ / /	日置智巳 / WUR-X 0:48:35 / 23 /
	京都女子大学WE DISQ (336)	水城愛里 / WUR-X 0:38:57 / 28 0:38:57 / 28	近藤ななみ / WUR-Z DISQ / /	高橋愛梨 / WUR-Y 0:46:34 / 20 /
	大阪大学・ 奈良女子大学混成 DISQ (343)	山賀千尋 / WUR-X 1:06:13 / 38 1:06:13 / 38	古石春佳 / WUR-Y DISQ / /	川合美帆 / WUR-Z 0:40:31 / 16 /

	嵯山女学園大学WH DISQ (328)	井篁菜月 / WUR-X DISQ / /	大島有貴 / WUR-Y DISQ / /	小島由郁 / WUR-Z 0:55:48 / 33 /
	横浜国立大学WA DISQ (318)	古谷直央 / WUR-Z DISQ / /	田村一紗 / WUR-X 0:39:51 / 20 /	加藤千遥 / WUR-Y 0:47:55 / 22 /

<XUR 参加数17組>

順位	チーム名/記録	1走	2走	3走
1	東北大学XA 1:04:28 (403)	久米悠介 / Y 0:18:26 / 2 0:18:26 / 2	諏訪夏海 / Z 0:28:58 / 7 0:47:24 / 5	谷口恵祐 / X 0:17:04 / 1 1:04:28 / 1
2	東京大学XA 1:06:31 (410)	片岡茅悠 / Y 0:25:31 / 12 0:25:31 / 12	山川登 / X 0:18:23 / 2 0:43:54 / 2	椎名晃丈 / Z 0:22:37 / 6 1:06:31 / 2
3	東京農工大学XA 1:10:22 (411)	小野裕登 / X 0:20:47 / 3 0:20:47 / 3	稲邊穂乃香 / Z 0:27:24 / 6 0:48:11 / 6	小池剛大 / Y 0:22:11 / 4 1:10:22 / 3
4	東北大学XC 1:12:13 (405)	石渡望 / X 0:22:36 / 4 0:22:36 / 4	八木橋まい / Y 0:24:37 / 5 0:47:13 / 4	西平楽 / Z 0:25:00 / 8 1:12:13 / 4
5	岩手大学XB 1:14:15 (402)	工藤友喜 / Z 0:18:08 / 1 0:18:08 / 1	菊池美結 / Y 0:37:21 / 14 0:55:29 / 8	小高敦志 / X 0:18:46 / 2 1:14:15 / 5
6	東北大学XB 1:15:53 (404)	川又美南 / Z 0:35:50 / 16 0:35:50 / 16	福永貴弘 / X 0:18:16 / 1 0:54:06 / 7	井上雄斗 / Y 0:21:47 / 3 1:15:53 / 6
7	日本女子大学・早稲田大学混成 1:21:36 (418)	菅原真優 / Z 0:27:38 / 14 0:27:38 / 14	楊馨逸 / X 0:31:37 / 10 0:59:15 / 12	長谷川望 / Y 0:22:21 / 5 1:21:36 / 7
8	東北大学XD 1:21:40 (406)	星歩夢 / Y 0:23:49 / 9 0:23:49 / 9	木村瑳月 / X 0:33:47 / 12 0:57:36 / 11	坂本健悟 / Z 0:24:04 / 7 1:21:40 / 8
9	新潟大学XB 1:22:06 (409)	常見圭汰 / Z 0:23:09 / 8 0:23:09 / 8	山内美輝 / Y 0:32:24 / 11 0:55:33 / 9	下沢廉 / X 0:26:33 / 9 1:22:06 / 9
10	神戸大学XA 1:26:11 (417)	永山尚佳 / X 0:22:46 / 6 0:22:46 / 6	豊田俊哉 / Y 0:23:08 / 4 0:45:54 / 3	池田順一 / Z 0:40:17 / 12 1:26:11 / 10
11	関東学院大学XA 1:35:42 (415)	林昇吾 / Y 0:23:06 / 7 0:23:06 / 7	赤堀美帆 / X 0:42:41 / 16 1:05:47 / 15	石渡雄也 / Z 0:29:55 / 10 1:35:42 / 11
12	東京工業大学XA 1:36:02 (414)	福田拓亮 / Y 0:27:20 / 13 0:27:20 / 13	白井千尋 / Z 0:37:12 / 13 1:04:32 / 13	川原明洋 / X 0:31:30 / 11 1:36:02 / 12
13	新潟大学XA 1:40:21 (408)	石井大成 / Y 0:28:10 / 15 0:28:10 / 15	小松宗一郎 / Z 0:29:13 / 8 0:57:23 / 10	滝澤伊織 / X 0:42:58 / 13 1:40:21 / 13

14	岩手大学XA 1:48:57 (401)	熊谷新吉 / X 0:25:00 / 10 0:25:00 / 10	小林美早紀 / Z 0:39:41 / 15 1:04:41 / 14	仲上浩豪 / Y 0:44:16 / 14 1:48:57 / 14
15	京都大学XA 2:04:58 (416)	箕浦皓 / Z 0:39:36 / 17 0:39:36 / 17	山根萌加 / Y 0:31:00 / 9 1:10:36 / 16	越智純香 / X 0:54:22 / 16 2:04:58 / 15
16	東京農工大学XB 2:10:06 (412)	押切嶺於 / Z 0:25:28 / 11 0:25:28 / 11	砥石真奈 / X 0:55:09 / 17 1:20:37 / 17	田村和士 / Y 0:49:29 / 15 2:10:06 / 16
	一橋大学XA DISQ (413)	海老原稜大 / X 0:22:43 / 5 0:22:43 / 5	金子稜 / Z 0:19:03 / 3 0:41:46 / 1	池ヶ谷みのり / Y DISQ / /

<個人競技MUS WUS 参加人数50名>

MUS 参加人数15名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	三家本雄貴	広島大学	0:36:47
2	棚橋一樹	名古屋大学	0:39:45
3	中嶋律起	横浜国立大	0:40:40
4	荒井純	東北大学	0:41:17
5	島田雄史	東京工業大	0:42:46
6	山田光輝	横浜国立大	0:44:01
7	佐藤世帆	岩手大学	0:56:36
8	高本章寛	筑波大学	0:56:59
9	古川智也	金沢大学	0:57:36
10	片岡佑太	大阪大学	0:57:50
11	中尾莞人	新潟大学	1:07:21
12	戸塚務	東北大学	1:07:57
13	小田切佑樹	福島大学	1:22:56
	高柳知朗	筑波大学	DISQ
	吉本暁紀	北海道大学	DISQ

WE 参加人数35名			
順位	氏名	学校・学年	記録
1	澤口未来	岩手県立大学	0:27:35
2	大須賀ほの	岩手県立大学	0:31:30
3	加藤万由子	岩手大学	0:37:50
4	山口莉奈	京都女子大学	0:39:33
5	小林結菜	十文字女子大学	0:40:02
6	渡辺真未	京都女子大学	0:40:26
7	白土睦	宮城学院女子大学	0:45:37
8	市川真優花	宮城学院女子大学	0:45:57
9	杉山桃菜	十文字女子大学	0:48:03
10	木越綾香	群馬大学	0:56:42
11	松橋清香	宮城学院女子大学	1:01:13
	齋藤優花	慶應義塾大学	DISQ

実行委員長	築地 孝和（神戸13）		
競技責任者	石山 良太（名古屋13）	競技副責任者	澤田 潤（名古屋14）
運営責任者	糸井川 壮大（京都12）	運営副責任者	足立 将城（名古屋13）
渉外責任者	松井 俊樹（京都12）		
ミドルコース設定者	戸上 直哉（東京工業12）	リレーコース設定者	大竹 達也（金沢13）
併設大会実行委員長	前田 悠作（名古屋10）		
会計責任者	瀬尾 峻汰（京都13）		
広報責任者	稲吉 勇人（名古屋13）		
人事責任者	秋山 周平（大阪13）		
エントリー責任者	池田 慧（名古屋13）		
宿泊輸送担当	太田 裕士（京都12）		
資材担当	実藤 俊太（京都13）	資材担当補佐	浅井 迅馬（京都13）
Web担当	犬塚 眞太郎（早稲田13）		
モデルイベント担当	松本 拓也（名古屋13）		
式典担当	松浦 知佑（大阪13）		
会場チーフ	竹内 孝（京都13）		
受付チーフ	池田 慧（名古屋13）		
スタートチーフ	山内 崇弘（名古屋13）	スタートサブチーフ	福澤 佑哉（名古屋13）
フィニッシュチーフ	坂野 翔哉（東京理科14）		
演出チーフ	椎名 麻美（茨城13）	演出サブチーフ	林 千尋（名古屋12）
救護チーフ	糸賀 翔大（東京11）		

近藤 康満（名古屋10）	出口 真行（名古屋10）	岩田 健太郎（東京11）
田中 宏明（京都11）	小野 真嗣（京都12）	川岸 敬生（名古屋12）
衣川 浩輔（一橋12）	松島 真之（京都12）	川島 実紗（名古屋13）
熊谷 光起（名古屋13）	佐藤 充晃（名古屋13）	中村 友香（名古屋13）
野田 桃子（大阪13）	堀 未歩（大阪13）	松岡 慧（名古屋13）
今泉 将（名古屋14）	金山 柚佳（京都女子14）	杉原 未奈（奈良女子14）
燈田 真佑子（奈良女子14）	三浦 やよい（相模女子14）	
大場 尊美（岐阜県協会）	川島 英司（岐阜県協会）	清水 秋男（岐阜県協会）
豊田 維康（岐阜県協会）	中田 啓子（岐阜県協会）	中田 茂夫（岐阜県協会）
橋本 八州馬（岐阜県協会）	林 武彦（岐阜県協会）	山田 茂夫（岐阜県協会）

日本スポーツ庁公認アスレティックトレーナー 赤羽 誠人（良トレ 派遣トレーナー）

地図調査者 山川 克則（東京79） 西村 徳真（京都04） 宮西 優太郎（東北12）

イベント・アドバイザー 松澤 俊行（東北91）

日本学連ミドル・リレー担当理事 海老 成直（中央04）

※（ ）内は出身大学と入学年度または所属です。



大会公式マスコット
「石兄(ストーンイ)」

**2018年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門 報告書**

発行日：2019年6月17日(月)

発行元：日本学生オリエンテーリング連盟

所在地：〒329-2441

栃木県塩谷郡塩谷町船生 6082-68 山川克則記念館

Webサイト：<http://www.orienteering.com/~icmr2018/>

発行責任者：築地孝和

編集責任者：稲吉勇人